

総務文教委員会

令和5年5月17日(水)
10時00分～時分
全員協議会室

【委員】 永見委員長、三浦副委員長、
肥後委員、大谷委員、芦谷委員、佐々木委員、西田委員

【議長・委員外議員】

【執行部】

(総務部) 坂田総務部長、森脇防災安全課長、琴野防災安全課危機管理監、
湯浅行財政改革推進課長

(地域政策部) 田中地域政策部長、川合定住関係人口推進課長、末岡地域活動支援課長

(教育委員会) 草刈教育部長、猪木迫教育部幼児教育担当部長、
松山教育総務課幼児教育担当課長、山口学校教育課長、
鳥居学校教育課学力向上推進室長

(消防本部) 田中消防長、大橋警防課長

【事務局】 松井書記

【議題】

1 執行部報告事項

- (1) 令和4年度米軍機騒音等対策協議会総会の開催について 【防災安全課】
- (2) 令和4年度防災・減災対策について 【防災安全課】
- (3) 令和5年度浜田市総合防災訓練について 【防災安全課】
- (4) 浜田市江津市旧有福村有財産改修費負担金について 【行財政改革推進課】
- (5) 令和4年度空き家バンク制度利用状況について 【定住関係人口推進課】
- (6) 音楽を核とした定住促進事業の状況について 【定住関係人口推進課】
- (7) 島根県立大学(浜田キャンパス)・リハビリテーションカレッジ島根・浜田ビューティーカレッジの入学者の状況について 【地域活動支援課】
- (8) 令和4年度敬老福祉乗車券交付事業及び運転免許証自主返納等支援事業の申請実績等について 【地域活動支援課】
- (9) 令和4年度浜田市生活路線バス等の利用実績について 【地域活動支援課】
- (10) 石見交通路線バス有福線の路線廃止の申入れ及び今後の対応について 【地域活動支援課】
- (11) 令和5年度幼児教育施設の変更点と未就学児童の状況について 【教育総務課】
- (12) 令和4年度市内中学校卒業生(令和5年3月卒業)の進学状況について 【学校教育課】
- (13) 令和4年度青少年サポートセンターの利用状況について 【学校教育課】
- (14) 令和4年度学力育成総合対策事業実績報告書について 【学校教育課】
- (15) 消防団車庫統合について 【警防課】
- (16) その他
(配布物)
・令和5年度学校別児童生徒数一覧表(令和5年5月1日現在) 【学校教育課】

2 その他

令和 4 年度 米軍機騒音等対策協議会総会の開催について

令和 5 年 3 月 30 日（木）、令和 4 年度米軍機騒音等対策協議会が、関係 5 市町の首長等が出席し開催されました。

総会では、米軍機の騒音等の現状を共有したほか、今後の要望活動に向けて意見交換を行いました。

- 1 日 時 令和 5 年 3 月 30 日（木） 午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分
- 2 場 所 浜田市役所 5 階 全員協議会室
- 3 出席者 浜田市長・益田市副市長・江津市長・邑南町長・川本町長・県防災部次長
ほか 15 名
- 4 内 容

(1) 役員選任

会長に浜田市長、副会長に邑南町長がそれぞれ再任された。

(2) 報告事項

ア 島根県報告（米軍機による騒音被害の状況等について）

- ・ 令和 4 年は旭町、匹見町、石見町日和など急増し全体で 2,076 件と過去最高
- ・ 夜間(18 時～07 時)も急増(旭：23 件→87 件、匹見：49 件→82 件、川本：6 件→33 件)
- ・ 昨年 11 月の秋期重点要望及び広島県との共同要望について

イ 事務局報告（学校防音工事に係る音響測定結果について）

- ・ 中国四国防衛局が行った音響測定調査で旭中学校が 3 級工事に該当

(3) 令和 5 年の要望活動について

令和 5 年の要望活動は、県の春の要望活動に合わせ、外務省、防衛省、県選出国會議員に対して要望活動を行うが、要望書については下記意見を踏まえ、今後、修正する。

ア 住民負担の軽減措置として、学校等の防音工事も大事であるが、防音措置で終わりではない。あくまで騒音被害を減少させることが目的。

イ 防音工事の基準は、基地等施設周辺のものでハードルが高く音響測定期間も短い。国が学校に測定器を設置し 1 年を通して測定するべき。

ウ 要望書としての訴えが弱いのではないかと。違反行為等あれば明確に入れるべき。

エ 米軍機騒音問題は県だけの問題ではない。県を超えて全国に広げるべきとの意見があり、まずは広島県内の自治体との意見交換から行っていく。

5 その他

マスコミ 6 社（NHK・BSS・TSK・山陰中央新報・中国新聞・読売新聞）が取材。



令和 4 年度 防災・減災対策について

令和 4 年度に実施した防災・減災対策について、下記のとおり、報告します。

記

1 防災備蓄倉庫整備事業

防災備蓄倉庫を野原町(浜田市世界こども美術館付近)に整備しました。(写真 1)
令和 5 年度に入り、備蓄物資を搬入しました。(写真 2)



(写真 1) 整備状況 (延床面積 198.74m)



(写真 2) 備蓄物資搬入状況

(1) 建物構造

- ・構造…鉄骨造
- ・外壁、屋根材質…ガルバリウム鋼板
- ・床…合成樹脂塗装

(2) 保管物資

主な品目	市保管数量 (A)	備蓄倉庫保管数量 (B)	割合 (B/A)
食料品	14,173 食	4,371 食	31%
飲料水	5,112L	2,256L	44%

その他の品目：毛布、間仕切り、簡易トイレ、段ボールベッドなど

(3) 事業費

全体事業費 45,495,538 円

うち、緊急防災・減災対策事業債充当 45,300,000 円

【裏面に続く】

2 津波危険地域表示板（海拔表示板）設置事業

海拔表示板の老朽化に伴い、浜田地域、三隅地域の海岸部の電柱 220 ヲ所に設置したほか、市内全域の小中学校やまちづくりセンターなど 72 ヲ所に設置しました。



(写真 3) 表示板設置状況

- ・ 赤色…津波災害警戒区域（津波の被害が想定されている場所）
- ・ 黄色…津波災害警戒区域外だが、海拔が 20m 未満の場所
- ・ 青色…海拔が 20m 以上の場所

(1) 設置枚数

色	海拔表示板	海拔表示シール	合計
赤	56 枚	6 枚	62 枚
黄	154 枚	17 枚	171 枚
青	10 枚	49 枚	59 枚
合計	220 枚	72 枚	292 枚

(2) 材質等

- ・ 海拔表示板…亜鉛メッキ銅板（固定用バンドは、樹脂製）
- ・ 海拔表示シール…窓ガラス内張り用シール

(3) 事業費

1,551,000 円（ふるさと応援基金充当）

(4) 周知方法

- ・ 実施済…防災防犯メール、広報はまだ 5 月号、浜田市ホームページ
- ・ 予定…石見ケーブルビジョンの「扉をあけて」で市長による周知
防災出前講座、津波避難訓練などで周知

以上

令和 5 年度浜田市総合防災訓練について

このことについて、下記のとおり計画していますので、報告します。
なお、大雨等の実災害のおそれがある場合は、中止します。

記

1 目的

- (1) 市は、災害警戒本部および災害対策本部が設置され運用されるまでの間において、時間経過とともに付与される様々な情報の収集、判断、対応を繰り返すことで、災害対応力の向上を図る。
- (2) 住民は、水害・土砂災害に伴い浜田市が発表する避難情報等を受け、安全な避難行動につなげることで、自助、共助の必要性を理解し、地域全体の防災意識高揚と防災行動力の向上を図る。

2 日時

令和 5 年 6 月 4 日（日） 午前 8 時から 12 時まで

3 会場

浜田市全域

4 訓練テーマ

水害・土砂災害における防災活動

5 訓練概要

浜田市役所本庁舎、各支所庁舎において災害対策本部運営訓練を実施する。
併せて、市内各地域において、自主防災組織及び町内会等が主体となる避難訓練を実施する。

6 その他

津波避難訓練は、浜田・三隅地域で令和 4 年 11 月に実施。

以上

浜田市江津市旧有福村有財産改修費負担金について

1 浜田市江津市旧有福村有財産改修費負担金について

(1) 経過等

浜田市江津市旧有福村有財産共同管理組合は、令和 3 年 12 月 31 日をもって解散し、令和 4 年 1 月 1 日から江津市が事業を承継し運営。

(2) 負担金の拠出

浜田市江津市旧有福村有財産共同管理組合の組合解散方針の決定時において、組合解散までに行わなければならなかった改修工事費用の一部を負担することにより、組合解散後における有福温泉の施設改修費用を確保するものとして、浜田市及び江津市がそれぞれ同額を拠出することとしたもの。

(3) 負担金の額 12,633,500 円（令和 3 年度浜田市一般会計補正予算第 6 号）

(4) 議会への報告

浜田市が負担金を拠出するにあたり、拠出した負担金の使途にかかる報告をいただきたいと議員から意見・要望があったことを踏まえ、毎年度終了後に報告することとする。

令和 3 年度	浜田市、江津市が拠出した額の積立のみが行われ、事業への充当なし。 ※積立日：令和 4 年 3 月 31 日（公共施設等整備管理基金） ※積立額：25,267,000 円 内訳：浜田市負担分 12,633,500 円 江津市負担分 12,633,500 円
令和 4 年度	事業への基金充当なし。
令和 5 年度	事業への基金充当予定なし。

2 利用者の利用状況等（参考）

区分	利用者数	温泉定期券購入枚数				
			江津市	浜田市	下有福	その他市内
R3年度	73,258人	2,576枚 (100.0%)	1,676枚 (65.1%)	900枚 (34.9%)	412枚 (16.0%)	488枚 (18.9%)
R4年度	75,956人	1,971枚 (100.0%)	1,611枚 (81.7%)	360枚 (18.3%)	360枚 (18.3%)	一枚 (0.0%)
増減	+2,698人 (3.7%)	▲605枚 (▲23.5%)	▲65枚 (▲3.9%)	▲540枚 (▲60.0%)	▲52枚 (▲12.6%)	▲488枚 (▲100.0%)

令和4年度空き家バンク制度利用状況について

1 令和4年度状況

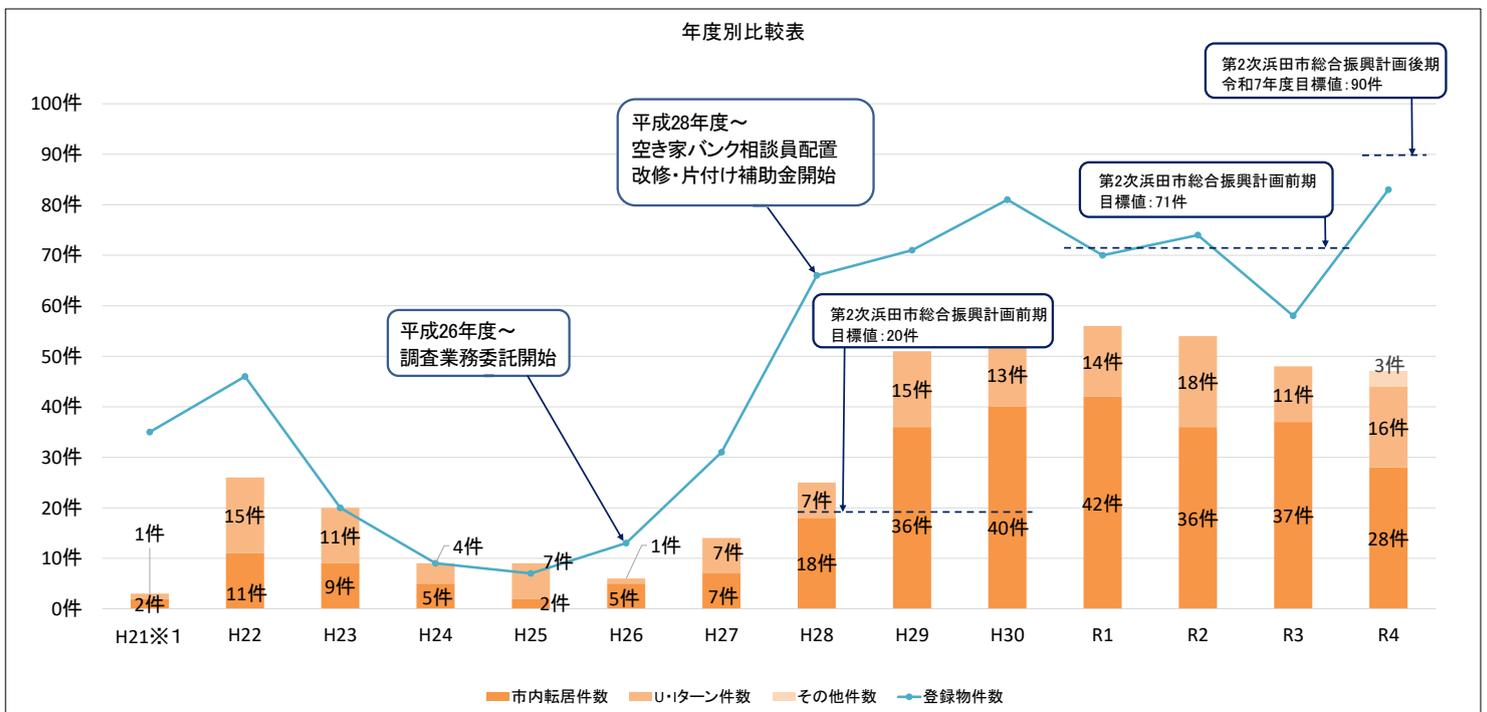
○登録物件数：83件（対前年度25件の増）

空き家バンク制度開始以来、過去最高の登録件数となった。

新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことにより、市外在住の空き家所有者等からの相談が、特に増加した。

○入居物件数：47件（対前年度1件の減）

U・Iターンの内訳は、Uターン2件、Iターン14件で、Iターンの利用が多い傾向にある。



2 年度別件数

(令和5年3月31日現在)

年度	H21※1	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	累計
登録物件数	35件	46件	20件	9件	7件	13件	31件	66件	71件	81件	70件	74件	58件	83件	664件
抹消物件数※2	3件	19件	8件	5件	10件	4件	8件	21件	11件	11件	15件	26件	19件	17件	177件
入居物件数	3件	26件	20件	9件	9件	6件	14件	25件	51件	53件	56件	54件	48件	47件	421件
U・Iターン件数	1件	15件	11件	4件	7件	1件	7件	7件	15件	13件	14件	18件	11件	16件	140件
市内転居件数	2件	11件	9件	5件	2件	5件	7件	18件	36件	40件	42件	36件	37件	28件	278件
その他件数※3 (令和4年度～)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3件	3件

※1 平成21年度は、平成21年9月2日から平成22年3月31日までの実績。

※2 「抹消物件数」は、空き家バンク登録後において空き家バンク制度外の契約又は所有者の都合により抹消したもの。

※3 その他件数は、法人契約による会社利用など。

3 地域別件数

(令和5年3月31日現在)

		浜田市					
		浜田	金城	旭	弥栄	三隅	
A	空き家バンク登録台帳 登録物件数 ①-②	487件	287件	42件	44件	12件	102件
	平成21年度(※1)	35件	5件	3件	7件	6件	14件
	平成22年度	46件	33件	2件	3件	2件	6件
	平成23年度	20件	8件	1件	2件	1件	8件
	平成24年度	9件	5件	0件	0件	0件	4件
	平成25年度	7件	3件	1件	2件	0件	1件
	平成26年度	13件	9件	1件	3件	0件	0件
	平成27年度	31件	23件	3件	1件	0件	4件
	平成28年度	66件	48件	5件	3件	0件	10件
	平成29年度	71件	40件	11件	3件	3件	14件
	平成30年度	81件	53件	3件	4件	3件	18件
	令和元年度	70件	39件	8件	6件	3件	14件
	令和2年度	74件	44件	10件	4件	1件	15件
	令和3年度	58件	38件	6件	5件	2件	7件
	令和4年度	83件	51件	4件	9件	0件	19件
	登録物件数累計 ①	664件	399件	58件	52件	21件	134件
	抹消物件数(※2) ②	177件	112件	16件	8件	9件	32件
B	入居済物件数	421件	245件	40件	37件	12件	87件
	令和4年度	47件	24件	5件	7件	2件	9件
	入居率 B/A	86.5%	85.4%	95.2%	84.1%	100.0%	85.3%
	U・Iターン件数	140件	63件	10件	18件	7件	42件
	令和4年度	16件	5件	2件	5件	0件	4件
	市内転居件数	278件	180件	30件	19件	4件	45件
	令和4年度	28件	17件	3件	2件	1件	5件
	その他入居件数(※3)(令和4年度～)	3件	2件	0件	0件	1件	0件
	令和4年度	3件	2件	0件	0件	1件	0件
C	紹介物件数 (未入居物件数) A-B	66件	42件	2件	7件	0件	15件
	賃貸希望物件	12件	6件	0件	1件	0件	5件
	売買希望物件	50件	33件	2件	5件	0件	10件
	賃貸又は売買希望物件	4件	3件	0件	1件	0件	0件

※1 平成21年度「登録物件数」は、平成21年9月2日から平成22年3月31日までの登録数。

※2 「抹消物件数」は、空き家バンク登録後において空き家バンク制度外の契約又は所有者の都合により抹消したものの。

※3 「その他入居件数」は、法人契約による会社利用など。

音楽を核とした定住促進事業の状況について

1 特定地域づくり事業「協同組合 Biz. Coop. はまだ」の状況について

(1) 目的

若年層の定住促進及び人手不足の解消を目的として、特定地域づくり事業を活用し、若手音楽家の定住促進を行う。

(2) 団体概要

名称：協同組合 Biz. Coop. はまだ

代表者：代表理事 樫山 陽介

所在地：浜田市新町 62 番地（旧日本海信用金庫新町支店 2 階）

組合員：一般社団法人石見音楽文化振興会、社会福祉法人誠和会、
 社会福祉法人日脚保育園、株式会社サンフラワーズ（4 事業者）

設立：令和 2 年 11 月 8 日

派遣事業開始：令和 3 年 4 月 1 日

(3) 派遣社員の状況について

年度	雇用状況			R5. 4. 1 現在 居住地		備考
	採用	継続	退職			
令和3年度	8名	0名	8名	浜田市	3名	市内派遣先事業所に就職 2名 市内でフリーランスとして活動 1名
				江津市	2名	浜田市内派遣先事業所に就職 2名
				転出	3名	県外転出 3名
令和4年度	4名	3名	1名	浜田市	3名	市内事業所に就職 1名
				江津市	1名	
				転出	0名	
令和5年度	5名	5名	-	浜田市	5名	
				江津市	0名	
				転出	0名	
合計	17名	8名	9名	浜田市	11名	Biz. coop. はまだ 7名 市内就職等 4名
				江津市	3名	Biz. coop. はまだ 1名 就職（浜田市内）2名
				転出	3名	

(裏面あり)

2 地域おこし協力隊の状況について

(1) 目的

特定地域づくり事業等により本市へ移住した者が、音楽スキルを活かした取組を行い、もって市内の芸術・文化の普及発展や、移住者の定着、さらには、新たな移住者の確保及び定住促進を図ることを目的とする。

(2) 地域おこし協力隊員について

ア 氏名：川北 朋（かわきた とも）（41歳、大阪府茨木市から移住）

イ 任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日（最大3年間まで延長可能）

(3) 事業内容

ア 若手音楽家の音楽スキルを活かした活動の充実

イ 地域の音楽愛好家との連携による音楽を通じた地域振興

ウ 市内中学校・高等学校等の部活動指導

(4) その他

川北氏は、令和3年4月1日から2年間、地域おこし協力隊員であった藤重佳久氏の後任。川北氏は、これまでも藤重氏とともに、市内の中学校や浜田高等学校に音楽指導を行っている。令和5年4月から、本市へ移住し、地域おこし協力隊員として、地域と音楽を繋ぐ役割を担う。

なお、藤重氏については、今後も、本市の音楽を通じた地域振興に協力をいただく予定。



委嘱式の様子

島根県立大学（浜田キャンパス）・リハビリテーションカレッジ島根・
浜田ビューティーカレッジの入学者の状況について

1 島根県立大学（浜田キャンパス）の入学者の状況について

(1) 入学者数の状況（令和5年4月1日現在）

ア 全体

区分	国際関係学部		地域政策学部		合計	
	募集定員	入学者数	募集定員	入学者数	募集定員	入学者数
一般選抜(前期)	50名	39名	60名	52名	110名	91名
一般選抜(後期)	10名	11名	20名	31名	30名	42名
総合型選抜	25名	29名	20名	30名	45名	59名
特別選抜	若干名	3名	若干名	0名	若干名	3名
学校推薦型選抜	5名	3名	40名	30名	45名	33名
欠員補充第二次募集	—	4名	—	—	—	4名
合計	90名	89名	140名	143名	230名	232名

イ 内訳

(ア) 国際関係学部 国際関係学科

区分	国際関係コース		国際コミュニケーションコース	
	募集定員	入学者数	募集定員	入学者数
一般選抜(前期)	25名	24名	25名	15名
一般選抜(後期)	5名	7名	5名	4名
総合型選抜	10名	12名	15名	17名
特別選抜	若干名	3名	若干名	0名
学校推薦型選抜	5名	3名	—	—
欠員補充第二次募集	—	—	3名	4名
合計	45名	49名	45名	40名

(イ) 地域政策学部 地域政策学科

区分	地域経済経営コース		地域公共コース		地域づくりコース	
	募集定員	入学者数	募集定員	入学者数	募集定員	入学者数
一般選抜(前期)	20名	14名	25名	26名	15名	12名
一般選抜(後期)	5名	8名	10名	13名	5名	10名
総合型選抜	10名	15名	—	—	10名	15名
特別選抜	若干名	0名	若干名	0名	若干名	0名
学校推薦型選抜	10名	7名	10名	8名	20名	15名
合計	45名	44名	45名	47名	50名	52名

ウ その他

(ア) 令和4年度との比較

区分	令和4年度		令和5年度		増減	
	募集定員	入学者数	募集定員	入学者数	募集定員	入学者数
一般選抜(前期)	110名	108名	110名	91名	±0名	▲17名
一般選抜(後期)	30名	61名	30名	42名	±0名	▲19名
総合型選抜	45名	55名	45名	59名	±0名	+4名
特別選抜	若干名	2名	若干名	3名	±0名	+1名
学校推薦型選抜	45名	31名	45名	33名	±0名	+2名
欠員補充第二次募集	—	—	3名	4名	+3名	+4名
合計	230名	257名	230名	232名	±0名	▲25名

(イ) 大学院 北東アジア開発研究科

区 分	令和4年度	令和5年度	増 減
入学者数	1名	3名	+2名

(2) 出身地別入学者の状況

ア 島根県内

市町村名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
松江市	16名	17名	17名
浜田市	7名	4名	9名
出雲市	19名	16名	17名
益田市	4名	5名	5名
大田市	6名	7名	6名
安来市	5名	6名	9名
江津市	6名	3名	2名
雲南市	9名	8名	2名
奥出雲町	1名	0名	1名
飯南町	1名	3名	0名
川本町	0名	0名	0名
美郷町	1名	0名	0名
邑南町	3名	0名	1名
津和野町	1名	0名	0名
吉賀町	2名	0名	1名
海士町	1名	1名	0名
西ノ島町	0名	0名	0名
知夫村	0名	0名	0名
隠岐の島町	3名	3名	0名
合 計 (県内入学者割合)	85名 (36.3%)	73名 (28.4%)	70名 (30.2%)

イ 島根県外

都道府県名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
広島県	28名	28名	26名
岡山県	18名	12名	16名
鳥取県	12名	6名	15名
兵庫県	8名	17名	9名
愛媛県	10名	11名	8名
上記以外	73名	110名	88名
合 計	149名	184名	162名

2 リハビリテーションカレッジ島根の入学者の状況について

(1) 学科別入学者の状況（令和5年4月1日現在）

学科名	募集定員	令和3年度	令和4年度	令和5年度
理学療法学科	40名	24名	26名	19名
作業療法学科	40名	11名	10名	23名
言語聴覚学科	40名	15名	16名	13名
合計	120名	50名	52名	55名

(2) 出身地別入学者の状況

市郡名等	令和3年度	令和4年度	令和5年度
松江市	1名	1名	0名
浜田市	5名	11名	9名
出雲市	6名	2名	2名
益田市	7名	8名	9名
大田市	3名	0名	1名
安来市	0名	1名	0名
江津市	4名	5名	4名
雲南市	0名	1名	0名
邑智郡	1名	0名	0名
鹿足郡	1名	1名	3名
県内合計	28名	30名	28名
広島県	6名	2名	6名
鳥取県	0名	2名	3名
山口県	4名	5名	3名
鹿児島県	0名	1名	0名
沖縄県	3名	3名	3名
北海道	0名	1名	0名
香川県	0名	1名	0名
上記以外	4名	0名	0名
県外合計	17名	15名	15名
中国	5名	6名	12名
ネパール	0名	0名	0名
ベトナム	0名	1名	0名
国外合計	5名	7名	12名
総合計	50名	52名	55名

3 浜田ビューティーカレッジの入学者の状況について

(1) 学科別入学者の状況（令和5年4月1日現在）

学科名	募集定員	令和3年度	令和4年度	令和5年度
専門課程(美容科)	20名	2名	7名	6名
高等課程(美容科)	20名	2名	1名	1名
通信課程(美容科)	40名	1名	3名	1名
合 計	80名	5名	11名	7名

※ 修業年数は、専門課程が2年、高等課程及び通信課程が3年である。

※ 高等課程入学者については、併せて浜田高等学校通信制に入学し、高校卒業資格を得られる仕組みを平成29年度から導入した。

※ 通信課程は10月入学のため、現段階では0名

(2) 出身地別入学者の状況

市郡名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
松江市	0名	0名	0名
浜田市	1名	6名	5名
出雲市	0名	0名	0名
益田市	0名	4名	0名
大田市	2名	0名	0名
安来市	0名	0名	0名
江津市	2名	1名	2名
雲南市	0名	0名	0名
邑智郡	0名	0名	0名
鹿足郡	0名	0名	0名
合 計	5名	11名	7名

令和 4 年度敬老福祉乗車券交付事業及び運転免許証自主返納等支援事業の 申請実績等について

1 敬老福祉乗車券交付事業

(1) 事業開始 平成 28 年 7 月 1 日

(2) 事業概要

市内に住所を有する 70 歳以上の高齢者に対して市内の公共交通機関で利用できる 1 冊 3,000 円分の乗車券を 1,500 円で交付するもの

※ 交付上限数は、平成 30 年度は 10 冊又は 12 冊、令和元年度からは 10 冊又は 15 冊（平成 30 年度から上限数は住所地によって異なる。）

※ 令和元年度から制度内容を一部変更（高速バスでの利用等）

(3) 申請実績

ア 高齢者

カッコ内：令和 3 年度からの増減

地域	年度	申請者数 ①	交付冊数 ②	1 人当 交付冊数 ②/①	対象者数 ③	交付率 ①/③
浜田	令和 4 年度	2,713 人 (+589 人)	21,381 冊 (+5,657 冊)	7.9 冊 (+0.5 冊)	10,852 人 (▲26 人)	25.0% (+5.5%)
	令和 3 年度	2,124 人	15,724 冊	7.4 冊	10,878 人	19.5%
	令和 2 年度	2,377 人	18,833 冊	7.9 冊	10,843 人	21.9%
金城	令和 4 年度	199 人 (+36 人)	1,753 冊 (+353 冊)	8.8 冊 (+0.2 冊)	1,345 人 (+13 人)	14.8% (+2.6%)
	令和 3 年度	163 人	1,400 冊	8.6 冊	1,332 人	12.2%
	令和 2 年度	197 人	1,985 冊	10.1 冊	1,307 人	15.1%
旭	令和 4 年度	155 人 (+22 人)	1,176 冊 (+195 冊)	7.6 冊 (+0.2 冊)	897 人 (▲23 人)	17.3% (+2.8%)
	令和 3 年度	133 人	981 冊	7.4 冊	920 人	14.5%
	令和 2 年度	149 人	1,202 冊	8.1 冊	922 人	16.2%
弥栄	令和 4 年度	100 人 (+3 人)	941 冊 (+204 冊)	9.4 冊 (+1.8 冊)	476 人 (▲7 人)	21.0% (+0.9%)
	令和 3 年度	97 人	737 冊	7.6 冊	483 人	20.1%
	令和 2 年度	101 人	839 冊	8.3 冊	508 人	19.9%
三隅	令和 4 年度	347 人 (+38 人)	2,958 冊 (+601 冊)	8.5 冊 (+0.9 冊)	1,981 人 (▲33 人)	17.5% (+2.2%)
	令和 3 年度	309 人	2,357 冊	7.6 冊	2,014 人	15.3%
	令和 2 年度	352 人	2,811 冊	8.0 冊	2,030 人	17.3%
合計	令和 4 年度	3,514 人 (+688 人)	28,209 冊 (+7,010 冊)	8.0 冊 (+0.5 冊)	15,551 人 (▲76 人)	22.6% (+4.5%)
	令和 3 年度	2,826 人	21,199 冊	7.5 冊	15,627 人	18.1%
	令和 2 年度	3,176 人	25,670 冊	8.1 冊	15,610 人	20.3%

※ 対象者数は、各年度の 3 月 31 日現在

イ 69歳以下の障がい者無料交付対象者購入分【制度拡充分】

地域	申請者数 ①	交付冊数 ②	1人当 交付冊数 ②/①	対象者数 ③	交付率 ①/③
浜田	68人	507冊	7.5冊	747人	9.1%
金城	4人	47冊	11.8冊	96人	4.2%
旭	1人	9冊	9.0冊	30人	3.3%
弥栄	1人	2冊	2.0冊	11人	9.1%
三隅	5人	49冊	9.8冊	98人	5.1%
合計	79人	614冊	7.8冊	982人	8.0%

(4) 乗車券の利用実績

交通種別	利用額	割合
路線バス (路線バス、高速バス、おおなんバス)	19,233,500円	21.5%
タクシー (タクシー、福祉有償運送)	67,218,400円	75.2%
市主管交通 (市生活路線バス、市乗合タクシー)	2,692,300円	3.0%
自治会輸送	295,400円	0.3%
合計	89,439,600円	100.0%

※ 障がい者への乗車券無料交付分及び運転免許証自主返納等支援事業分の利用を含む。

(5) 参考：障がい者無料交付分
(健康福祉部地域福祉課提供)

ア 申請実績

カッコ内：令和3年度からの増減

地域	年度	申請者数 (A)	対象者数 (C)	交付率 (A/C)
浜田	令和4年度	718人 (+98人)	1,307人 (▲5人)	54.9% (+7.6%)
	令和3年度	620人	1,312人	47.3%
	令和2年度	672人	1,336人	50.3%
金城	令和4年度	49人 (+6人)	167人 (+2人)	29.3% (+3.2%)
	令和3年度	43人	165人	26.1%
	令和2年度	47人	166人	28.3%
旭	令和4年度	12人 (▲5人)	78人 (▲6人)	15.4% (▲4.8%)
	令和3年度	17人	84人	20.2%
	令和2年度	19人	84人	22.6%
弥栄	令和4年度	14人 (▲7人)	39人 (▲5人)	35.9% (▲11.8%)
	令和3年度	21人	44人	47.7%
	令和2年度	14人	55人	25.5%
三隅	令和4年度	57人 (+1人)	201人 (▲5人)	28.4% (+1.2%)
	令和3年度	56人	206人	27.2%
	令和2年度	61人	212人	28.8%
合計	令和4年度	850人 (+93人)	1,792人 (▲19人)	47.4% (+5.6%)
	令和3年度	757人	1,811人	41.8%
	令和2年度	813人	1,853人	43.9%

イ 交付冊数

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
交付冊数	4,456冊	4,124冊	4,599冊

2 運転免許証自主返納等支援事業

(1) 事業開始 平成29年1月4日

(2) 事業概要

敬老福祉乗車券交付対象者のうち、平成28年7月1日以後に全ての運転免許証を自主返納又は運転免許を失効した人に対して敬老福祉乗車券5冊(15,000円分)を無料で交付するもの

※ 返納又は失効後1回に限り交付

※ 令和2年度から運転免許を失効した人を対象に追加

(3) 申請実績

ア 地域別

カッコ内：運転免許を失効した人の申請者数〔内数〕

年度 \ 地域	浜田	金城	旭	弥栄	三隅	合計
令和4年度	236人 (16人)	20人 (1人)	5人 (0人)	4人 (0人)	22人 (0人)	287人 (17人)
令和3年度	128人	10人	14人	8人	12人	172人
令和2年度	186人	15人	16人	15人	32人	264人
令和元年度	291人	24人	19人	14人	54人	402人
平成30年度	135人	12人	9人	9人	19人	184人
平成29年度	195人	17人	23人	11人	27人	273人
平成28年度	111人	12人	4人	6人	12人	145人
合計	1,046人	90人	85人	63人	156人	1,440人

イ 免許返納等の時期別

カッコ内：令和4年度の申請者数〔内数〕

免許返納等の時期	人数	令和4年度の申請者の内訳	
		返納	失効
令和4年度 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)	219人 (219人)	206人	13人
令和3年度 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)	215人 (61人)	59人	2人
令和2年度 (令和2年4月1日～令和3年3月31日)	258人 (4人)	2人	2人
令和元年度 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)	343人 (1人)	1人	0人
平成30年度 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)	246人 (0人)	0人	0人
平成29年度 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)	271人 (2人)	2人	0人
平成28年度 (平成28年7月1日～平成29年3月31日)	175人 (0人)	0人	0人
合計	1,727人 (287人)	270人	17人

令和4年度浜田市生活路線バス等の利用実績について

1 浜田市生活路線バスの利用実績

路線名	系統名等	利用者数 [A]			運行便数 [B] (上段:令和3年度実績)	1便当たり利用者数 [A/B]
		令和3年度	令和4年度	増減 [前年度比]		
浜田	小 計	1,659人	1,370人	▲ 289人 [82.6%]	(2,178便) 2,190便	(0.8人) 0.6人
金城	雲城美又線(SB)	50人	67人	17人 [134.0%]	(244便) 245便	(0.2人) 0.3人
	雲城久佐線(SB)	382人	55人	▲ 327人 [14.4%]	(244便) 245便	(1.6人) 0.2人
	雲城久佐美又線	425人	520人	95人 [122.4%]	(504便) 491便	(0.8人) 1.1人
	小 計	857人	642人	▲ 215人 [74.9%]	(992便) 981便	(0.9人) 0.7人
旭	木田線(SB)	67人	170人	103人 [253.7%]	(344便) 343便	(0.2人) 0.5人
	戸川線(SB)	1,582人	1,713人	131人 [108.3%]	(1,440便) 1,436便	(1.1人) 1.2人
	瑞穂線(SB)	380人	384人	4人 [101.1%]	(684便) 694便	(0.6人) 0.6人
	小 計	2,029人	2,267人	238人 [111.7%]	(2,468便) 2,473便	(0.8人) 0.9人
旭浜田	小 計	5,461人	5,155人	▲ 306人 [94.4%]	(2,178便) 2,190便	(2.5人) 2.4人
弥栄野原	小 計	1,935人	1,461人	▲ 474人 [75.5%]	(2,480便) 2,472便	(0.8人) 0.6人
三隅	循環線	7,054人	8,527人	1,473人 [120.9%]	(3,778便) 3,856便	(1.9人) 2.2人
	井野室谷線	300人	236人	▲ 64人 [78.7%]	(100便) 103便	(3.0人) 2.3人
	諸谷平原線	311人	256人	▲ 55人 [82.3%]	(98便) 102便	(3.2人) 2.5人
	平原森溝線	108人	124人	16人 [114.8%]	(92便) 94便	(1.2人) 1.3人
	白砂西河内線	393人	327人	▲ 66人 [83.2%]	(190便) 200便	(2.1人) 1.6人
	井野三隅線	697人	689人	▲ 8人 [98.9%]	(620便) 617便	(1.1人) 1.1人
	周布地今明線	1,039人	986人	▲ 53人 [94.9%]	(384便) 380便	(2.7人) 2.6人
	石浦小原線	402人	284人	▲ 118人 [70.6%]	(196便) 204便	(2.1人) 1.4人
	黒沢矢原線	2,491人	2,437人	▲ 54人 [97.8%]	(1,567便) 1,561便	(1.6人) 1.6人
	黒沢小原線	1,431人	1,335人	▲ 96人 [93.3%]	(297便) 304便	(4.8人) 4.4人
	矢原岡見線	117人	193人	76人 [165.0%]	(100便) 100便	(1.2人) 1.9人
	岡見海老谷線	267人	237人	▲ 30人 [88.8%]	(98便) 102便	(2.7人) 2.3人
	小 計	14,610人	15,631人	1,021人 [107.0%]	(7,520便) 7,623便	(1.9人) 2.1人
合 計	26,551人	26,526人	▲ 25人 [99.9%]	(17,816便) 17,929便	(1.5人) 1.5人	

注) 金城路線及び旭路線の「(SB)」表示のある系統については、スクールバスの一般混乗便として運行
 本集計は、一般利用者のみの数値

2 浜田市予約型乗合タクシーの利用実績

地域	地区名等	利用者数 [A]			計画面数 [B]	運行便数 [C]	稼働率 [C/B]	1便当たり利用者数 [A/B]
		令和3年度	令和4年度	増減 [前年度比]				
(上段: 令和3年度実績)								
浜田	三階長見線	100人	57人	▲ 43人 [57.0%]	(465便) 567便	(94便) 55便	(20.2%) 9.7%	(0.2人) 0.1人
	美川線	622人	298人	▲ 324人 [47.9%]	(576便) 592便	(264便) 195便	(45.8%) 32.9%	(1.1人) 0.5人
	石見東線	709人	645人	▲ 64人 [91.0%]	(396便) 400便	(297便) 312便	(75.0%) 78.0%	(1.8人) 1.6人
	櫛田原線	28人	17人	▲ 11人 [60.7%]	(200便) 200便	(28便) 17便	(14.0%) 8.5%	(0.1人) 0.1人
	小 計	1,459人	1,017人	▲ 442人 [69.7%]	(1,637便) 1,759便	(683便) 579便	(41.7%) 32.9%	(0.9人) 0.6人
金城	小国・波佐線	393人	330人	▲ 63人 [84.0%]	(288便) 298便	(187便) 166便	(64.9%) 55.7%	(1.4人) 1.1人
	美又線	180人	281人	101人 [156.1%]	(200便) 196便	(89便) 96便	(44.5%) 49.0%	(0.9人) 1.4人
	久佐線	225人	235人	10人 [104.4%]	(200便) 196便	(106便) 91便	(53.0%) 46.4%	(1.1人) 1.2人
	小 計	798人	846人	48人 [106.0%]	(688便) 690便	(382便) 353便	(55.5%) 51.2%	(1.2人) 1.2人
旭	木田・山ノ内線	226人	196人	▲ 30人 [86.7%]	(116便) 116便	(78便) 74便	(67.2%) 63.8%	(1.9人) 1.7人
	和田線	92人	81人	▲ 11人 [88.0%]	(116便) 118便	(56便) 61便	(48.3%) 51.7%	(0.8人) 0.7人
	坂本・都川線	242人	240人	▲ 2人 [99.2%]	(122便) 125便	(88便) 88便	(72.1%) 70.4%	(2.0人) 1.9人
	市木・来尾線	114人	142人	28人 [124.6%]	(46便) 48便	(46便) 48便	(100.0%) 100.0%	(2.5人) 3.0人
	小 計	674人	659人	▲ 15人 [97.8%]	(400便) 407便	(268便) 271便	(67.0%) 66.6%	(1.7人) 1.6人
弥栄	横谷・程原線	341人	391人	50人 [114.7%]	(92便) 94便	(86便) 90便	(93.5%) 95.7%	(3.7人) 4.2人
	山賀・畑線	478人	380人	▲ 98人 [79.5%]	(100便) 98便	(98便) 96便	(98.0%) 98.0%	(4.8人) 3.9人
	田野原・的野線	194人	253人	59人 [130.4%]	(98便) 102便	(85便) 101便	(86.7%) 99.0%	(2.0人) 2.5人
	安城・杵束線 (眼科便)	28人	38人	10人 [135.7%]	(24便) 24便	(12便) 18便	(50.0%) 75.0%	(1.2人) 1.6人
	小 計	1,041人	1,062人	21人 [102.0%]	(314便) 318便	(281便) 305便	(89.5%) 95.9%	(3.3人) 3.3人
合 計	3,972人	3,584人	▲ 388人 [90.2%]	(3,039便) 3,174便	(1,614便) 1,508便	(53.1%) 47.5%	(1.3人) 1.1人	

石見交通路線バス有福線の路線廃止の申入れ及び今後の対応について

石見交通株式会社から利用者の低迷、慢性的な乗務員不足等により、有福線の路線廃止を行いたい旨の申入れがありましたので、次のとおり報告します。

浜田市としては、当該路線は市民生活に密着した必要不可欠な路線であることから、関係機関と連携して今後の対応を検討します。

1 申入れの内容について

- (1) 申入日 令和 5 年 3 月 27 日(月)
- (2) 内容 令和 5 年 9 月 30 日をもって有福線を廃止

2 申入れに対する要望について(浜田市及び江津市の連名による。)

- (1) 要望日 令和 5 年 4 月 24 日
- (2) 内容
 - ア 有福線を存続すること。
 - イ 存続が困難な場合は、廃止時期を令和 6 年 4 月 1 日以後に延期すること。
 - ウ 地元説明会を浜田市及び江津市とともに開催すること。

3 要望に対する石見交通株式会社からの回答について

- (1) 回答日 令和 5 年 5 月 8 日
- (2) 内容
 - ア 有福線の存続については、利用者の減少、運転手の高齢化等により困難
 - イ 廃止時期の延期については、住民への周知、各種調整等を踏まえ、多少の延期を考慮し、協議に応じる。
 - ウ 地元説明会については対応する。

4 今後の対応について

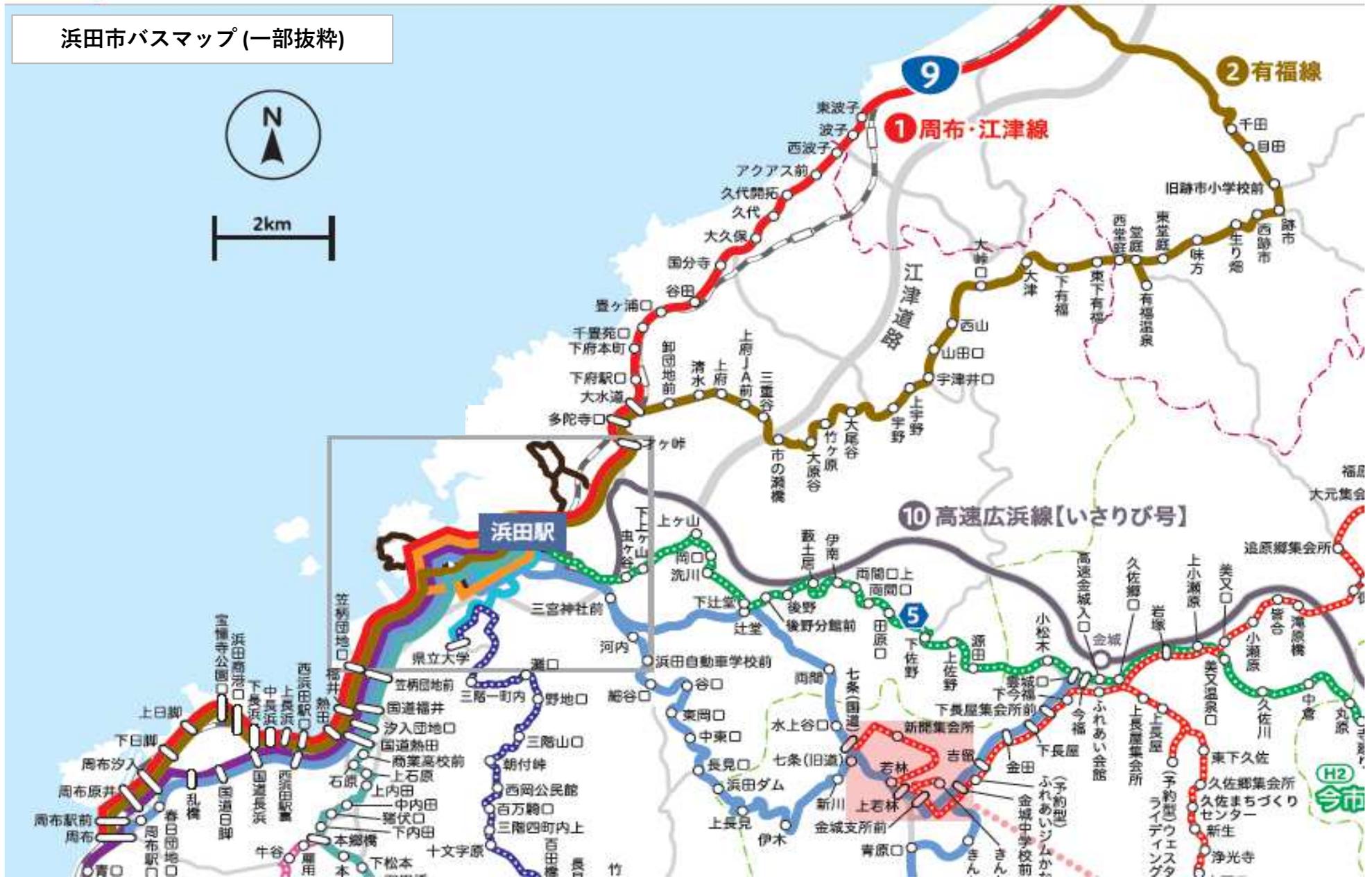
- (1) 石見交通株式会社との協議及び代替交通手段の検討
- (2) 江津市との協議(路線廃止時期等に係る再要望等を検討中)
- (3) 教育委員会との協議(浜田東中学校生徒の通学に対する対応を検討中)
- (4) 地元説明会の開催

5 路線バス廃止・減便に伴う道路運送法上の国土交通省への手続について

[参考]

- (1) 路線廃止 事前届出(6月前)(関係市町村との協議・調整不要)
- (2) ダイヤ改正・運行回数変更
 - ア 運行回数の変更 事前届出(30日前)(関係市町村との協議・調整不要)
 - イ 運行時刻の変更 事後届出(関係市町村との協議・調整不要)

浜田市バスマップ (一部抜粋)



有 福 線
(商港・栄町・浜田駅経由)

2021年3月21日 改正

江 津 → 有 福 → 浜 田 → 周 布 方 面																
嘉 戸 塩 田	江 津 駅 前	済 生 会 病 院	和 木	都 野 津 駅 前	能 美 医 院 前	羽 代 口	跡 市	有 福 温 泉	宇 野	上 府	浜 田 駅 前	栄 町	原 町	熱 田	商 港 口	周 布
	6:34	6:38	6:45	6:49	6:53	6:56	7:02	7:11	7:23	7:30	7:44	7:51	7:54	8:01	8:04	8:12
	7:45	7:49	7:56	8:00	8:04	8:07	8:13	8:24	8:36	8:43	8:55	9:02	9:05	9:12	9:15	9:23
8:32	8:39	8:43														
	10:32	10:36	10:43	10:47	10:51	10:54	11:00	11:09	11:21	11:28	11:40	11:47	11:50	11:57	12:00	12:08
12:38	12:45	12:49	12:56	13:00	13:04	13:07	13:13	13:22	13:34	13:41	13:53	14:00	14:03	14:10	14:13	14:21
	14:32	14:36	14:43	14:47	14:51	14:54	15:00	15:09	15:21	15:28	15:40	15:47	15:50	15:57	16:00	16:08
15:40	15:47	15:51	15:58	16:02	16:06	16:09	16:15	16:24	16:36	16:43	16:55	17:02	17:05	17:12	17:15	17:23
17:43	17:50	17:54	18:01	18:05	18:09	18:12	18:18	18:27	18:39	18:46	18:58	19:05	19:08	19:15	19:18	19:26

周 布 → 浜 田 → 有 福 → 江 津 方 面																
周 布	商 港 口	熱 田	原 町	栄 町	浜 田 駅 前	上 府	宇 野	有 福 温 泉	跡 市	羽 代 口	能 美 医 院 前	都 野 津 駅 前	和 木	済 生 会 病 院	江 津 駅 前	嘉 戸 塩 田
6:35	6:41	6:45	6:52	6:56	7:05	7:15	7:22	7:36	7:43	7:49	7:52	7:56	8:00	8:07	8:13	8:20
9:05	9:11	9:15	9:22	9:26	9:35	9:45	9:52	10:06	10:13	10:19	10:22	10:26	10:30	10:37	10:41	止
														12:25	12:29	12:36
12:30	12:36	12:40	12:47	12:51	13:00	13:10	13:17	13:31	13:38	13:44	13:47	13:51	13:55	14:02	14:06	止
														15:27	15:31	15:38
14:30	14:36	14:40	14:47	14:51	15:00	15:10	15:17	15:31	15:38	15:44	15:47	15:51	15:55	16:02	16:06	止
														17:30	17:34	17:41
17:02	17:08	17:12	17:20	17:24	17:35	17:45	17:52	18:08	18:15	18:21	18:24	18:28	18:32	18:39	18:43	止

※掲載しておりますバス停留所は主要停留所です。その他バス停の時刻についてはお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

石見交通 浜田営業所 (0855) 27-2211

令和5年度幼児教育施設の変更点と未就学児童の状況について

1 令和5年度幼児教育施設の変更点について

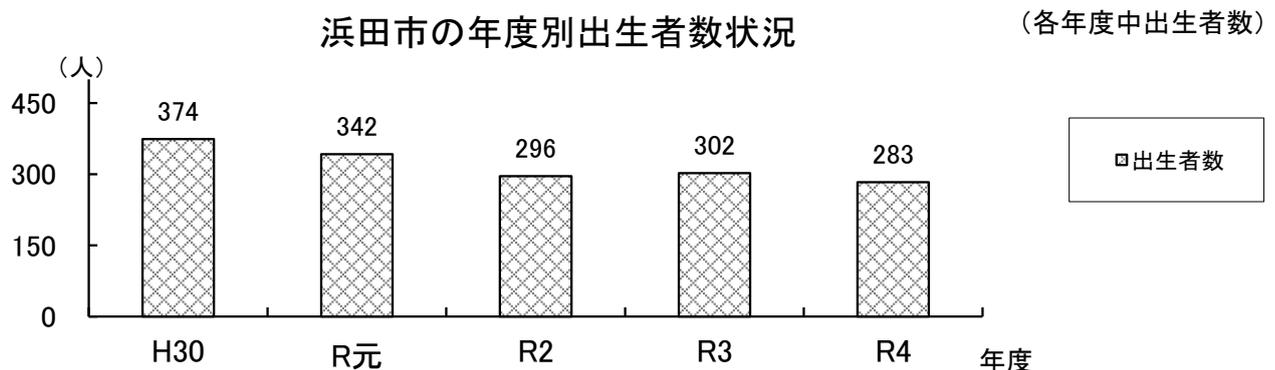
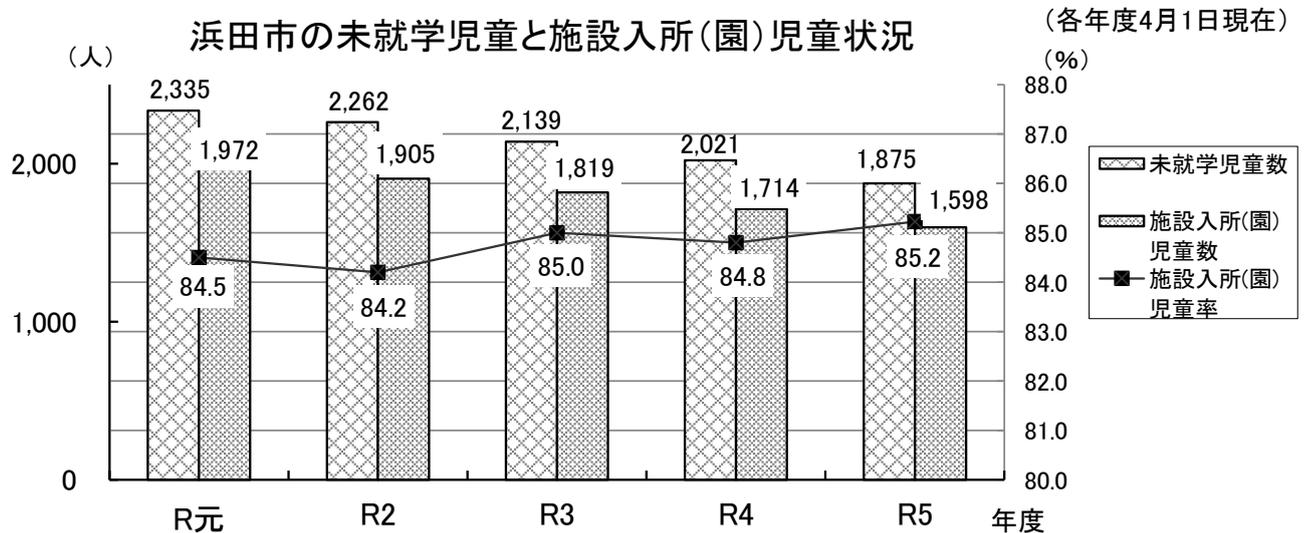
- (1) 新たに「認定こども園」となった施設
 - ・認定こども園やさかこども園(保育所型認定こども園) ※安城保育園と杵束保育園の統合による
- (2) 「保育所型認定こども園」から「幼保連携型認定こども園」へ移行した施設
 - ・認定こども園こくふ子ども園
- (3) 新たに「幼稚園」となった施設
 - ・浜田市立浜田幼稚園 ※浜田市立原井・石見・長浜・美川幼稚園の統合による

2 浜田市の未就学児童及び施設入所(園)児童の状況について

各年度4月1日現在

年度	人口 人	未就学 児童数 人	施設入所(園) 児童数 人	施設入所(園) 児童率 %	施設別入所(園)状況		
					保育所 人	認定こども園 幼児園部 人	幼稚園 人
R元	53,710	2,335	1,972	84.5	1,796	44	132
R2	52,834	2,262	1,905	84.2	1,764	48	93
R3	52,145	2,139	1,819	85.0	1,658	78	83
R4	51,057	2,021	1,714	84.8	1,572	76	66
R5	50,129	1,875	1,598	85.2	1,468	71	59

※保育所は、認可外保育施設を含む。



○浜田市の未就学児童の状況について

1 人口構成等の状況(R5.4.1現在)

地域	人口	世帯数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計	R4年	増減(R5-R4)
浜田	37,218	18,938	234	226	221	235	259	304	1,479	1,550	△ 71
金城	3,909	1,848	19	18	19	13	26	24	119	136	△ 17
旭	2,485	1,273	9	18	14	17	14	17	89	108	△ 19
弥栄	1,125	631	0	2	3	5	6	8	24	25	△ 1
三隅	5,392	2,708	15	25	25	34	30	35	164	202	△ 38
合計	50,129	25,398	277	289	282	304	335	388	1,875	2,021	△ 146

2 施設の入所状況(R5.4.1現在)

地域		施設数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計	R4年	増減(R5-R4)
浜田	私立保育所	12	38	121	119	128	138	157	701	732	△ 31
	こども園(保育)	5	27	72	76	73	83	93	424	438	△ 14
	こども園(幼児)		-	-	-	15	15	24	54	59	△ 5
	公立幼稚園	1	-	-	-	3	11	13	27	33	△ 6
	私立幼稚園	1	-	-	-	9	7	15	31	30	1
	認可外保育施設	1	1	2	5	4	3	3	18	28	△ 10
	計	20	66	195	200	232	257	305	1,255	1,320	△ 65
金城	私立保育所	4	6	16	17	12	26	20	97	115	△ 18
	計	4	6	16	17	12	26	20	97	115	△ 18
旭	こども園(保育)	1	0	13	10	8	7	11	49	61	△ 12
	こども園(幼児)		-	-	-	7	7	3	17	17	0
	計	1	0	13	10	15	14	14	66	78	△ 12
弥栄	こども園(保育)	1	0	2	2	5	5	7	21	22	△ 1
	こども園(幼児)		-	-	-	0	0	0	0	-	-
	計	1	0	2	2	5	5	7	21	22	△ 1
三隅	私立保育所	3	5	20	19	29	23	32	128	144	△ 16
	計	3	5	20	19	29	23	32	128	144	△ 16
広域※	広域保育所	-	1	2	2	5	2	5	17	22	△ 5
	広域こども園(保育)	-	0	1	3	1	4	1	10	9	1
	広域小規模A型	-	0	2	0	0	0	1	3	1	2
	広域幼稚園	-	-	-	-	1	0	0	1	3	△ 2
	計	-	1	5	5	7	6	7	31	35	△ 4
合計	私立保育所	19	49	157	155	169	187	209	926	1,013	△ 87
	広域保育所	-	1	2	2	5	2	5	17	22	△ 5
	こども園(保育)	7	27	87	88	86	95	111	494	499	△ 5
	認可外保育施設	1	1	2	5	4	3	3	18	28	△ 10
	広域こども園(保育)	-	0	1	3	1	4	1	10	9	1
	広域小規模A型	-	0	2	0	0	0	1	3	1	2
	小計	27	78	251	253	265	291	330	1,468	1,572	△ 104
	こども園(幼児)	-	-	-	-	22	22	27	71	76	△ 5
	公立幼稚園	1	-	-	-	3	11	13	27	33	△ 6
	私立幼稚園	1	-	-	-	9	7	15	31	30	1
	広域幼稚園	-	-	-	-	1	0	0	1	3	△ 2
	小計	2	0	0	0	35	40	55	130	142	△ 12
	合計	29	78	251	253	300	331	385	1,598	1,714	△ 116
施設入所児童率			28.2%	86.9%	89.7%	98.7%	98.8%	99.2%	85.2%	84.8%	0.4%
施設未利用者			199	38	29	4	4	3	277	307	△ 30

※広域とは市外を意味しており、浜田市の乳幼児が市外の施設に入所する場合は「広域入所」と言います。

令和4年度 市内中学校卒業生（令和5年3月卒業）の進学状況について

(単位：人)

項目		卒業生計	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	対前年度増▲減	
卒業生計			457	451	411	413	410	-3	
(1) 高等学校			444 (97.16)	437 (96.90)	401 (97.57)	393 (95.16)	398 (97.07)	5 (1.92)	
県内	市内	浜田(普通科)	145	130	122	121	105	-16	
		浜田(理数科)	16	12	27	13	25	12	
		浜田商業	63	66	62	75	80	5	
		浜田水産	29	30	25	29	21	-8	
		合計(A)	253 (55.36)	238 (52.77)	236 (57.42)	238 (57.63)	231 (56.34)	-7 (▲1.29)	
	公立	市外	大田	0	0	0	0	1	1
			邇摩	2	2	2	1	0	-1
			島根中央	4	2	1	6	3	-3
			矢上	11	16	9	18	16	-2
			江津	14	9	6	12	16	4
			江津工業	23	16	18	11	20	9
			益田	1	1	2	1	0	-1
			益田翔陽	10	6	11	7	2	-5
			津和野	2	1	1	1	1	0
			吉賀	0	0	0	2	0	-2
		松江・出雲・隠岐の高校	9	7	9	12	11	-1	
		合計	76 (16.63)	60 (13.30)	59 (14.36)	71 (17.19)	70 (17.07)	-1 (▲0.12)	
	私立	高校	石見智翠館(江津市)	37	39	33	24	20	-4
			明誠(益田市)	33	44	21	18	11	-7
益田東(益田市)			8	12	4	3	21	18	
松江・出雲・隠岐の高校			7	2	5	7	3	-4	
	合計	85 (18.60)	97 (21.51)	63 (15.33)	52 (12.59)	55 (13.41)	3 (0.82)		
	浜田高校定時制(B)	8	13	11	8	16	8		
県外	国公立高校	1	2	3	2	4	2		
	私立高校	8	9	8	6	4	-2		
高専	松江工業高等専門学校	6	9	15	5	8	3		
	その他の高等専門学校(県外)	0	2	1	1	2	1		
通信制	うち浜田高校通信制(C)	7	7	5	10	8	-2		
		6	5	3	9	5	-4		
(2) 特別支援学校高等部			7	8	6	14	10	-4	
うち浜田養護学校高等部(D)			6	7	6	13	10	-3	
(3) 各種学校・専修学校等入学者			2	2	1	1	0	-1	
(4) 就職・自営者			1	1	1	2	0	-2	
(5) その他の者			3	3	2	3	2	-1	

浜田市内の高等学校等への進学状況 (A)+(B)+(C)+(D)	273 (59.74)	263 (58.31)	256 (62.29)	268 (64.89)	262 (63.90)	-6 (▲0.99)
-------------------------------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	---------------

- (注) 1 () は割合(%)を示す。
2 この資料は、島根県教育委員会が毎年4月に実施する高等学校入学者数調査により作成した。
3 浜田高等学校は、令和3年度から普通科が1学級減(5→4(▲1))となった。

(参考) 市外高校への進学と入学者選抜試験の状況

区分	入学者		左記の内訳			
			一般選抜		推薦選抜	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
市内公立高等学校 (1)	231人	56.34%	186人	80.52%	45人	19.48%
市外高等学校 (2)	143人	34.88%	89人	62.24%	54人	37.76%
市外公立高等学校	70人	17.07%	47人	67.14%	23人	32.86%
県内私立高等学校	55人	13.41%	29人	52.73%	26人	47.27%
県外高等学校	8人	1.95%	6人	75.00%	2人	25.00%
高等専門学校	10人	2.44%	7人	70.00%	3人	30.00%
定時制・通信制課程 (3)	24人	5.85%	-	-	-	-
その他 (4)	12人	2.93%	-	-	-	-
卒業生数((1)+(2)+(3)+(4))	410人	100.00%				

令和4年度 中学校別の中学校卒業生（令和5年3月卒業）の進学状況について

(単位:人)

項目	中学校			一中			二中			三中			四中			浜田東中			金城中			旭中			弥栄中			三隅中		
	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
卒業生計	124	113	119	33	56	49	93	82	99	9	12	11	54	53	50	31	36	23	21	12	12	5	9	5	40	40	43			
(1)高等学校	122 (98.39)	109 (96.46)	116 (97.48)	30 (90.9)	56 (100.0)	47 (95.92)	90 (96.77)	78 (95.12)	97 (97.98)	9 (100.0)	10 (83.33)	11 (100.0)	52 (96.30)	50 (94.34)	50 (100.0)	30 (96.77)	33 (91.67)	23 (100.0)	20 (95.2)	12 (100.0)	11 (91.67)	5 (100.0)	8 (88.89)	5 (100.0)	40 (100.0)	37 (92.50)	41 (95.35)			
県内	市内	浜田(普通科)	34	41	51	13	16	15	24	31	21	3	2	2	9	11	12	2	7	8	6	4	1	0	2	1	14	7	11	
		浜田(理数科)	12	5	12	2	1	3	4	0	2	0	0	0	3	2	3	1	0	0	1	0	0	0	1	1	2	4	6	
		浜田商業	22	15	11	4	10	12	25	22	26	1	5	3	11	8	4	7	5	1	0	0	0	2	2	2	8	8	3	
		浜田水産	4	8	8	5	7	2	8	8	9	0	0	3	3	3	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1	
	合計	72 (58.06)	69 (61.06)	82 (68.91)	24 (72.73)	34 (60.71)	32 (65.31)	61 (65.59)	61 (74.39)	58 (58.59)	4 (44.44)	7 (58.33)	8 (72.73)	26 (48.15)	24 (45.28)	20 (40.00)	11 (35.48)	12 (33.33)	9 (39.13)	7 (33.33)	5 (41.67)	1 (8.33)	2 (40.00)	6 (66.67)	5 (100.0)	24 (60.00)	20 (50.00)	21 (48.84)		
	市外	大田	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		邇摩	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
		島根中央	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	
		矢上	3	3	1	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	6	8	6	6	3	2	0	0	0	0	0	0	
		江津	6	1	3	2	3	2	3	0	1	3	1	0	2	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		江津工業	5	1	3	1	4	1	1	0	3	0	1	0	8	5	7	3	0	3	0	0	0	1	0	0	1	0	1	
		益田	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		益田翔陽	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	7
		津和野	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		吉賀	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	松江・出雲・隠岐の高校	6	9	3	1	0	1	1	0	2	0	0	0	1	1	2	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	合計	22 (17.74)	15 (13.27)	12 (10.08)	4 (12.12)	12 (21.43)	5 (10.20)	7 (7.53)	1 (1.22)	10 (10.10)	3 (33.33)	3 (25.00)	1 (9.09)	11 (20.37)	15 (28.30)	9 (18.00)	12 (38.71)	13 (36.11)	10 (43.48)	9 (42.86)	3 (25.00)	3 (25.00)	1 (11.11)	1 (0.00)	0 (2.50)	1 (20.00)	8 (20.00)	9 (20.93)		
	私立高校	石見智翠館(江津市)	6	10	6	0	3	0	5	2	10	0	0	0	7	2	13	1	3	2	1	1	2	0	0	0	0	3	0	
		明誠(益田市)	1	1	1	0	3	3	5	6	10	1	0	1	0	5	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	2	1	5	
益田東(益田市)		7	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	9	2	1		
松江・出雲・隠岐の高校		1	1	0	0	1	1	2	2	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0		
合計	15 (12.10)	12 (10.62)	7 (5.88)	0 (0.00)	7 (12.50)	4 (8.16)	14 (15.05)	11 (13.41)	21 (21.21)	1 (11.11)	0 (0.00)	1 (9.09)	7 (12.96)	8 (15.09)	17 (34.00)	4 (6.45)	3 (11.11)	2 (13.04)	3 (14.29)	1 (8.33)	1 (33.33)	4 (40.00)	2 (11.11)	1 (0.00)	11 (27.50)	8 (20.00)	6 (13.95)			
県外	浜田高校定時制	3	5	2	2	1	0	5	1	3	0	0	0	4	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3		
国公立高校	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0			
私立高校	2	4	2	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2			
高専	松江工業高等専門学校	2	1	7	0	0	4	2	2	2	0	0	2	0	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0	1	0			
専	その他の高等専門学校(県外)	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			
通信制	2	3	2	0	2	1	1	2	1	1	0	1	1	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0			
(2)特別支援学校高等部	1	3	3	2	0	0	3	3	1	0	1	0	2	2	0	1	2	0	1	0	1	0	0	0	0	2	1			
(3)各種学校・専修学校等入学者	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
(4)就職・自営者	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			
(5)その他の者	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			

(注) 1 ()は割合(%)を示す。

2 この資料は、島根県教育委員会が毎年4月に実施する高等学校入学人数調査により作成した。

令和4年度 青少年サポートセンターの利用状況について

青少年サポートセンターの令和4年度における相談状況等は、以下のとおりです。

【延べ相談件数】 (件)

		学校問題		家庭問題		対人・社会問題		個人問題	非行問題	その他	合計
		不登校		ひきこもり		就労					
R4年度	20歳未満	437	431	41	0	4	4	479	71	1	1,033
	20歳以上	1	1	126	113	37	2	325	0	0	489
	合計	438	432	167	113	41	6	804	71	1	1,522
R3年度	20歳未満	609	570	130	21	0	0	384	129	1	1,253
	20歳以上	0	0	171	129	98	45	221	0	0	490
	合計	609	570	301	150	98	45	605	129	1	1,743

【延べ相談件数の相談方法の内訳】 (件)

	来所	電話	手紙	訪問	合計
R4年度	726	372	159	265	1,522
R3年度	717	487	261	278	1,743

【相談ケース内訳】 (継続して相談されたケース) (人)

			学校問題		家庭問題		対人・社会問題		個人問題	非行問題	その他	合計
			不登校		ひきこもり		就労					
R4年度	20歳未満	小・中学生	11	11	1	0	0	0	1	0	0	13
		高校生	2	1	2	0	0	0	0	0	0	4
		定・通・専・フ	11	9	1	0	0	0	6	1	0	19
		その他	0	0	1	0	0	0	2	1	0	4
	小計		24	21	5	0	0	0	9	2	0	40
	20歳以上		1	1	11	9	6	0	24	0	0	42
合計		25	22	16	9	6	0	33	2	0	82...⑤	
R3年度	20歳未満	小・中学生	13	13	2	0	0	0	0	0	0	15
		高校生	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3
		定・通・専・フ	11	11	0	0	0	0	5	1	0	17
		その他	0	0	4	2	0	0	3	1	0	8
	小計		25	24	8	2	0	0	8	2	0	43
	20歳以上		0	0	11	10	7	2	18	0	0	36
合計		25	24	19	12	7	2	26	2	0	79...①	

(人数の説明)

- ① 令和3年度相談人数 79
- ② 令和3年度末支援終了人数 5
- ③ 令和4年度当初相談対象人数 74 ①－②
- ④ 令和4年度新規相談人数 8
- ⑤ 令和4年度相談人数 82 ③＋④
- ⑥ 令和4年度末支援終了人数 8
- ⑦ 令和5年度当初相談対象人数 74 ⑤－⑥

(裏面へ続く)

【支援終了者の内訳】

(人)

	転出	40歳到達	就労	市外の学校へ進学	その他	合計
R4年度末	0	2	0	1	5	8…⑥
R3年度末	2	0	1	0	2	5…②

※その他は、連絡が全く取れなかったこと、本人や家族から支援不要の申し出があったこと、本人死亡により、支援を終了としました。

※支援を終了とした場合においても、再度相談があれば支援をします。

【若年無業者の状況】 (実人数) () は令和4年度中の就労者数

(人)

	相談・支援対象人数			内 ひきこもり			内 ニート		
	継続	新規		継続	新規		継続	新規	
20歳未満	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	
20歳以上	17 (0)	3 (0)	8 (0)	8 (0)	0 (0)	12 (0)	9 (0)	3 (0)	
合計	19 (0)	3 (0)	8 (0)	8 (0)	0 (0)	14 (0)	11 (0)	3 (0)	

【居場所利用状況】 (延べ人数、延べ回数)

	利用人数	1日平均 利用人数	利用回数						
			学習室	調理室	作業室	音楽室	休憩室	相談室	計
R4年度	1,214	4.98	153	112	737	0	7	205	1,214
R3年度	1,051	4.44	119	92	645	5	2	188	1,051

※令和4年度の利用者が増えた大きな要因は、山びこ学級の通級児童生徒が居場所に寄って帰ることが増えたためと考えられます。

令和 5 年 5 月 17 日
総務文教委員会資料
教育委員会学力向上推進室



令和 4 年度 学力育成総合対策事業 実績報告書



浜田市教育委員会 学校教育課

目 次

学力向上に向けてのイメージ図

全国学力・学習状況調査結果概要	P 1～16
学習プリント配信システムの活用	P17
協調学習の研修	P18～19
協調学習研究指定校	P20～23
ICT 機器を活用した授業改善研究指定校	P24～29
小学校算数科授業改善指定校	P30～33
国語教育推進指定校	P34～36
学校図書館活用教育研究指定校	P37～42
図書館活用教育の研修	P43～47
浜田市図書館を使った調べる学習コンクール	P48～50
中学校英語検定 3 級無料化事業	P51
総 括	P52～54
資 料	P55～
○令和4年度授業改善方策 【子どもがつくる授業～「主体的・対話的で深い学び」 に向けた質の高い授業を目指して～】	

夢を持ち郷土を愛する人を育む

学力

知識・技能

思考力・判断力・表現力

学びに向かう力・人間性等

向上

園児・児童生徒支援

〈特別支援教育〉

メディア接触時間 適正化

- 小中連携教育での重点取組
- 時間管理能力の育成

メディア接触
時間管理能力育成

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

子どもの声でつくる授業

- ⑫ 学力向上推進室学校訪問
- ⑪ 中学生英語検定無料化(受検者)
- ⑩ 読書ノート配付:小一・二年
クール
- ⑨ 調べる学習研修・調べる学習コンクール
- ⑧ 指定校:松原小・岡見小
- ⑦ 図書館活用教育の推進・研修
- ⑥ 国語教育(読解力)推進
指定校:原井小
- ⑤ 算数科授業改善
指定校:周布小・長浜小
- ④ アドバイザー:前田教授
指定校:美川小
- ③ ICT活用による授業改善・研修
指定校:第三中・三隅中・雲城小
- ② 協調学習による授業改善・研修
(知識構成型シグソー法による主体的・対話的で深い学びの実現)

授業力向上+学級経営力

家庭学習 の充実

- ①タブレットドリルの活用
- 家庭学習時間増
- 自ら計画し実践する家庭学習

家庭学習
自ら計画し実践

園児・児童生徒支援

〈生徒指導〉

授業改善:子どもの声でつくる授業による実践 + 学習集団づくり

年度初めの各学校との授業改善方策協議

各学校年2回の授業改善学校訪問

年度末の各学校との授業改善実践成果・課題協議

全国学力・学習状況調査結果概要

学力向上総合対策事業では、全国学力・学習状況調査において島根県平均正答率を上回ることを目標としている。以下に、令和4年度の結果概要について報告する。

1 調査の概要

- (1) 調査実施日 令和4年4月19日（火）
- (2) 調査の対象
 - 国・公・私立学校小学校6年生（特別支援学校含む） 全児童
 - 国・公・私立学校中学校3年生（特別支援学校含む） 全生徒
 - ※ 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級在籍者のうち、下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒や特別支援学校の教科の内容の指導を受けている知的障がい者である児童生徒は、調査対象としない。
- (3) 浜田市での調査対象児童生徒数 ・小学校 397名 ・中学校 386名
- (4) 調査の内容
 - ① 教科に関する調査 小6：国語・算数・理科 中3：国語・数学・理科
 - ② 質問紙調査
 - 児童生徒に対する質問紙調査
 - 学校に対する学校質問紙調査

2 各教科の平均正答率

理科については、前回調査が平成30年度であった。したがって、「差」については平成30年度との比較とした。

(1) 小学校

	平均正答率（％）					
	浜田市	島根県	全国	差(市－県) ＜昨年＞	差(市－国) ＜昨年＞	差(県－国) ＜昨年＞
国語	60.0	64.0	65.6	-4.0 ＜-2.0＞	-5.6 ＜-3.7＞	-1.6 ＜-1.7＞
算数	57.0	61.0	63.2	-4.0 ＜-3.0＞	-6.2 ＜-6.2＞	-2.2 ＜-3.2＞
理科	57.0	62.0	63.3	-5.0 ＜-4.0＞	-6.3 ＜-6.3＞	-1.3 ＜-2.3＞

(2) 中学校

	平均正答率（％）					
	浜田市	島根県	全国	差(市－県) ＜昨年＞	差(市－国) ＜昨年＞	差(県－国) ＜昨年＞
国語	69.0	69.0	69.0	±0 ＜-1.0＞	±0 ＜-3.6＞	±0 ＜-2.6＞
数学	46.0	49.0	51.4	-3.0 ＜-2.0＞	-5.4 ＜-6.2＞	-2.4 ＜-4.2＞
理科	47.0	48.0	49.3	-1.0 ＜-4.0＞	-2.3 ＜-4.1＞	-1.3 ＜-0.1＞

3 浜田市の結果

(1) 各教科の分類別集計結果の概要

※ ○：市が県を2ポイント以上、上回るもの

－：市と県の差が2ポイント未満のもの

△：市が県を2ポイント以上、下回るもの

① 小学校国語

学習指導要領の領域	対象設問数 1 4	平均正答率 (%)			
		浜田市	島根県	差	
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	63.2	68.6	-5.4	△
情報の扱い方に関する事項	0				
我が国の言語文化に関する事項	1	79.8	82.3	-2.5	△
話すこと・聞くこと	2	58.8	63.6	-4.8	△
書くこと	2	43.6	47.3	-3.7	△
読むこと	4	58.6	62.4	-3.8	△

② 小学校算数

学習指導要領の領域	対象設問数 1 6	平均正答率 (%)			
		浜田市	島根県	差	
数と計算	6	64.8	67.5	-2.7	△
図形	4	56.9	60.7	-3.8	△
測定	0				
変化と関係	4	45.0	49.0	-4.0	△
データの活用	3	61.3	66.8	-5.5	△

③ 小学校理科

学習指導要領の領域	対象設問数 1 7	平均正答率 (%)			
		浜田市	島根県	差	
「エネルギー」を柱とする領域	4	47.1	50.2	-3.1	△
「粒子」を柱とする領域	5	51.6	58.7	-7.1	△
「生命」を柱とする領域	5	70.6	73.6	-3.0	△
「地球」を柱とする領域	5	55.7	62.2	-6.5	△

④ 中学校国語

学習指導要領の領域		対象設問数 1 4	平均正答率 (%)			
			浜田市	島根県	差	
知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方	6	72.0	71.5	+0.5	-
	(2) 情報の扱い方	1	48.7	46.6	+2.1	○
	(3) 我が国の言語文化	3	70.6	70.8	-0.2	-
思考・ 判断・ 表現	A 話すこと・聞くこと	3	61.7	64.4	-2.7	△
	B 書くこと	1	48.7	46.6	+2.1	○
	C 読むこと	2	65.7	66.2	-0.5	-

⑤ 中学校数学

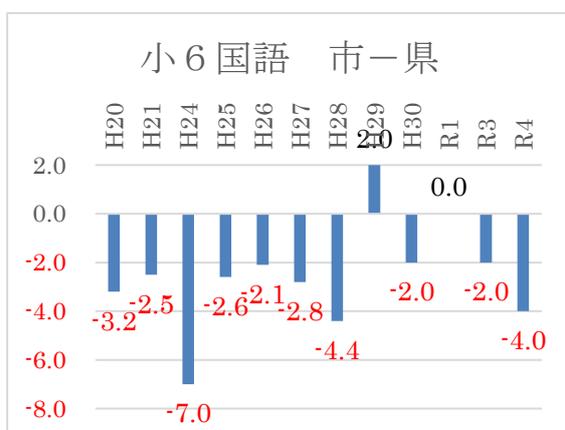
学習指導要領の領域	対象設問数 14	平均正答率 (%)			
		浜田市	島根県	差	
数と式	5	50.0	53.9	-3.9	△
図形	3	37.1	41.1	-4.0	△
関数	3	38.8	38.9	-0.1	-
データの活用	3	55.1	56.8	-1.7	-

⑥ 中学校理科

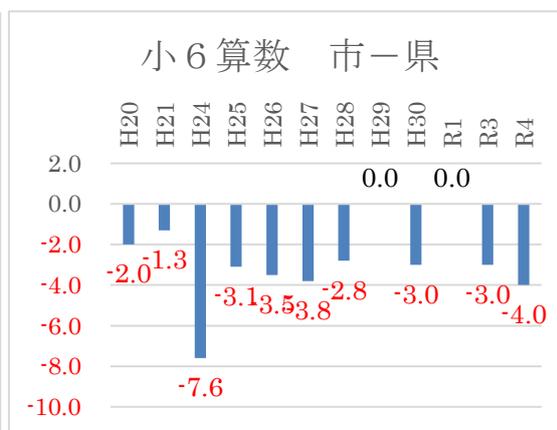
学習指導要領の領域	対象設問数 21	平均正答率 (%)			
		浜田市	島根県	差	
「エネルギー」を柱とする領域	6	37.7	40.6	-2.9	△
「粒子」を柱とする領域	5	48.5	49.9	-1.4	-
「生命」を柱とする領域	5	57.8	57.3	+0.5	-
「地球」を柱とする領域	6	42.6	43.6	-1.0	-

(2) 平均正答率の県との差の推移 (理科については実施回数が少ないため省略)

小6 国語



小6 算



中3 国語



中3 数学



(3) 対象学年の県との差についての経年比較

(理科については当該学年では実施がなかったため省略)

現中学校 3 年生

学年・学力調査種別	国語	算数・数学
R2 県学力 (中1)	+1.3	-1.5
R3 県学力 (中2)	-0.1	-1.2
R4 全国学力 (中3)	±0	-3.0

現小学校 6 年生

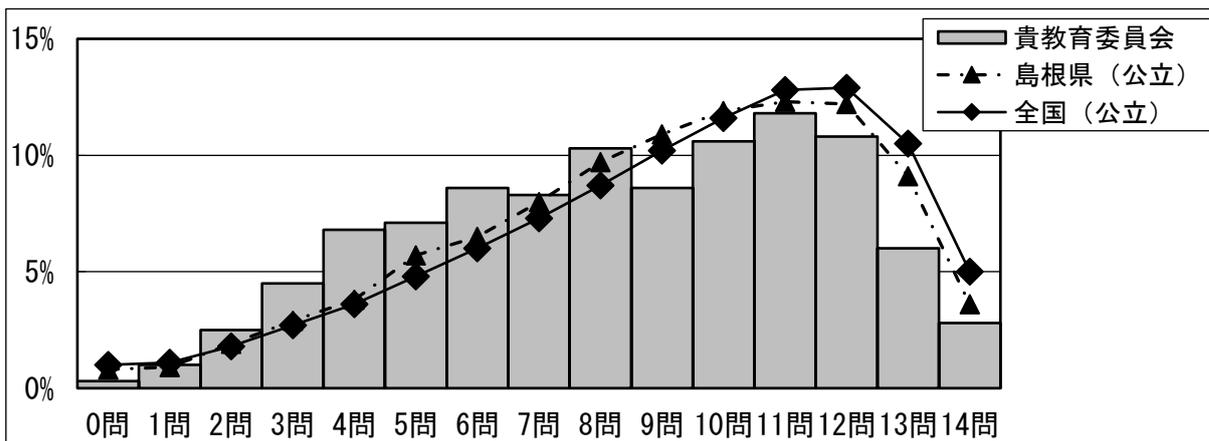
学年・学力調査種別	国語	算数
R3 県学力 (小5)	-1.6	-3.3
R4 全国学力 (小6)	-4.0	-4.0

(4) 問題形式別の県との差

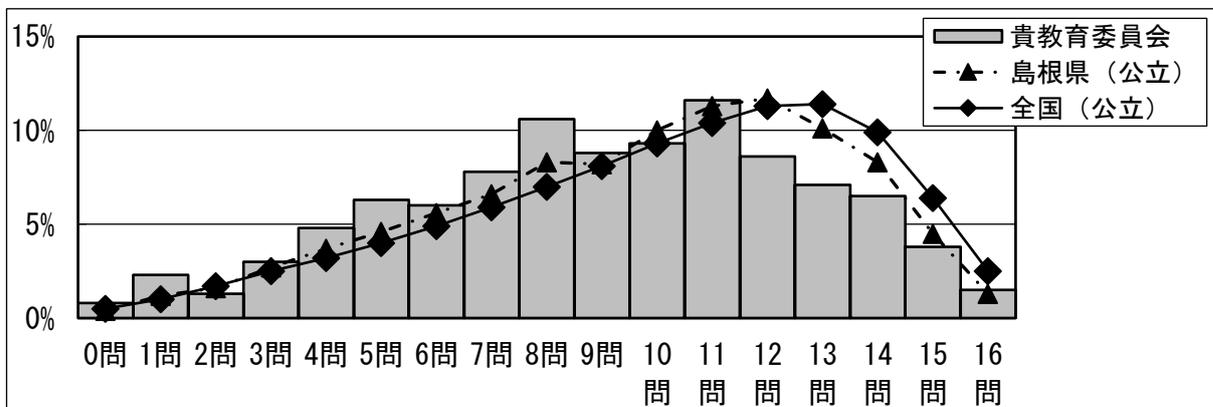
	小6 国語	小6 算数	小6 理科	中3 国語	中3 数学	中3 理科
選択式	-4.6	-4.7	-3.3	-0.4	-2.2	-1.3
短答式	-5.8	-3.3	-9.6	+0.3	-3.2	-3.3
記述式	-2.4	-3.8	-5.3	-0.2	-2.3	0.0

(5) 正答率分布

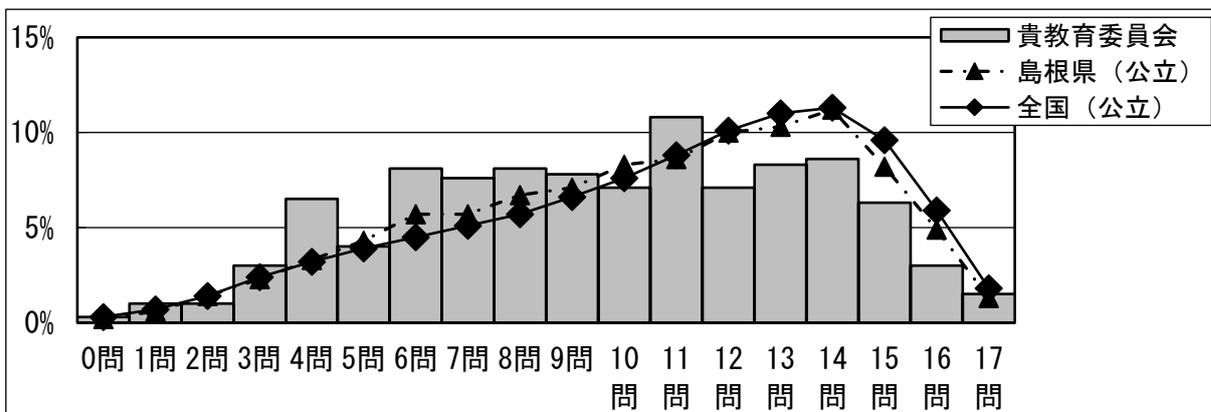
小6 国語



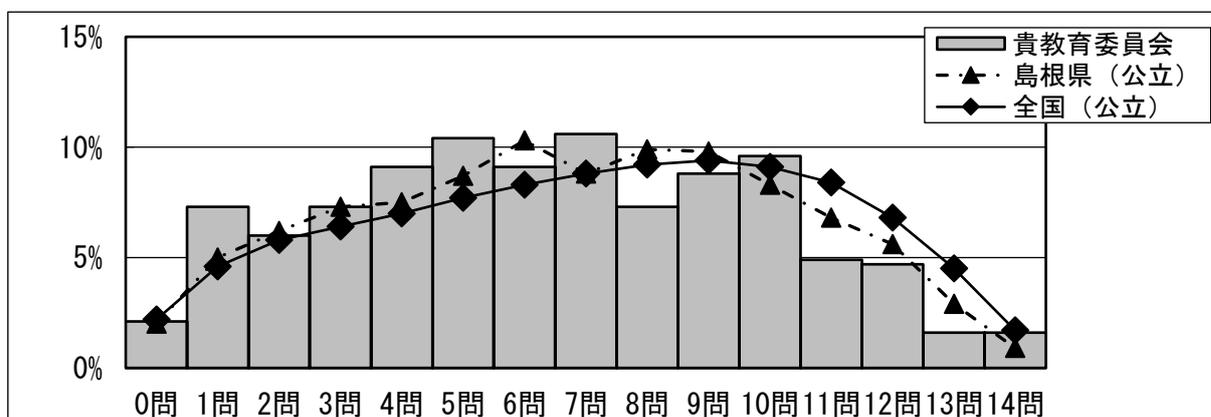
小6 算数



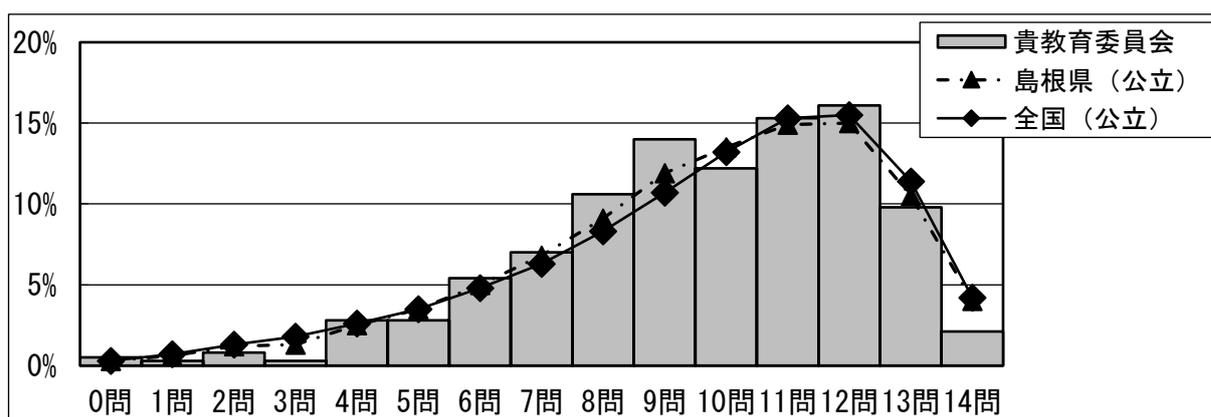
小6 理科



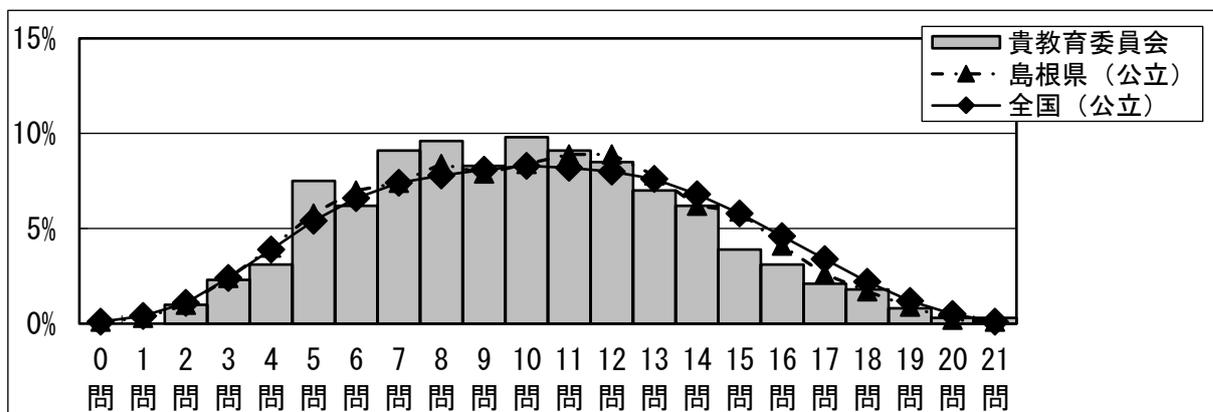
中3 国語



中3 数学



中3理科



(6) 教科に関する結果の概要

① 浜田市児童生徒の平均正答率の特徴

県平均正答率と比較して上回っている設問の上位3設問及び下回っている下位3設問の状況は以下のとおりである。

【小学校国語】

※ () 内の数値は、県平均正答率との差、問題形式欄の[]内の数値は全国平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域等
2二	67.8% (+1.3)	記述式 [-0.5]	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の[A]に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する。	読むこと
3四	79.8% (-2.5)	選択式 [+1.9]	(一) から (二) に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く	我が国の言語文化に関する事項
3二	37.3% (-3.2)	記述式 [-0.4]	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける	書くこと
3三イ	51.9% (-6.9)	短答式 [-6.8]	【文章2】の中の一部イを、漢字を使って書き直す(はんせい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	言葉の特徴や使い方に関する事項
2一(2)	59.9% (-6.7)	選択式 [-10.7]	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える	読むこと
3三ア	61.7% (-6.6)	短答式 [-3.5]	【文章2】の中の一部アを、漢字を使って書き直す(ろくが)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	言葉の特徴や使い方に関する事項

【中学校国語】

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域
2二①	87.8% (+4.1)	短答式 [+5.7]	漢字を書く (のぞく)	文脈に即して漢字を正しく書く	(1)言葉の特徴や使い方
2三	48.7% (+2.1)	記述式 [+2.2]	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	(2)情報の扱い方／B書くこと
4三	83.9% (+1.6)	選択式 [+2.8]	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する	(3)我が国の言語文化
1二	61.4% (-3.6)	選択式 [-3.7]	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する	論理の展開などに注意して聞く	A話すこと・聞くこと
1三	48.2% (-3.6)	記述式 [-3.6]	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	(1)言葉の特徴や使い方／A話すこと・聞くこと
4一	35.8% (-2.9)	選択式 [-3.6]	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する	(3)我が国の言語文化

【小学校算数】

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域
4(2)	81.6% (+0.5)	短答式 [-1.6]	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している	図形
1(4)	30.5% (-0.5)	選択式 [-4.3]	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	数と計算
3(1)	73.0% (-1.0)	短答式 [-2.3]	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	数と計算 データの活用
3(2)	54.9% (-8.4)	選択式 [-9.0]	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる	データの活用
3(3)	55.9% (-7.2)	選択式 [-10.9]	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる	データの活用
2(2)	52.9% (-6.4)	短答式 [-11.7]	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000m	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求	変化と関係

			1のときの、果汁の量を書く	めることができる	
--	--	--	---------------	----------	--

【中学校数学】

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域
7(2)	46.9% (+1.2)	選択式 [+2.8]	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる	データの活用
8(1)	51.8% (+0.9)	短答式 [-2.8]	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	関数
6(1)	70.7% (-0.4)	短答式 [-3.1]	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	数と式
1	35.8% (-10.0)	短答式 [-16.0]	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	数と式
3	39.4% (-5.9)	選択式 [-5.5]	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している	図形
6(3)	31.6% (-3.5)	記述式 [-6.0]	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	数と式

【小学校理科】

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域
3(1)	30.7% (+4.2)	選択式 [+2.9]	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している	「エネルギー」を柱とする領域
1(4)	75.3% (+0.1)	選択式 [-0.8]	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	「生命」を柱とする領域
1(5)	62.0% (-2.7)	選択式 [-3.5]	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気づいたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見だしで選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	「生命」を柱とする領域
2(1)	55.4% (-14.7)	短答式 [-12.4]	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している	「粒子」を柱とする領域
4(4)	52.1% (-7.6)	短答式 [-9.9]	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	「粒子」「地球」を柱とする領域
4(3)	36.0%	選択式	結果からいえることは、	観察などで得た結果を、	「地球」を

	(-7.2)	[-9.5]	提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	柱とする領域
--	--------	--------	-------------------------	--------------------------------------	--------

【中学校理科】

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域
3 (1)	82.9% (+2.8)	選択式 [+2.8]	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	「粒子」を柱とする領域
4 (1)	78.8% (+2.3)	記述式 [+4.5]	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる	「生命」を柱とする領域
2 (1)	52.6% (+2.3)	選択式 [-1.6]	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる	「地球」を柱とする領域
5 (2)	38.9% (-5.9)	選択式 [-6.1]	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	「エネルギー」を柱とする領域
6 (2)	55.2% (-5.6)	選択式 [-5.1]	陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる	「地球」を柱とする領域
7 (1)	26.2% (-5.2)	選択式 [-9.7]	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	「粒子」を柱とする領域

② 国語について

平均正答率では、小学校 60% (県 64%)、中学校 69% (県 69%)。

小学校は、全ての領域で県平均を下回り、特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題がある。中学校は、全国平均正答率と同等となった。「情報の扱い方」「書くこと」については、対象問題数がそれぞれ 1 問ずつではあるが、県平均を 2.1% 上回った。一方で、「話すこと・聞くこと」に課題がある。

③ 算数・数学について

平均正答率では、小学校算数 57% (県 61%)、中学校数学 46% (県 49%)。

小学校は、全ての領域で県平均を下回り、特に「データの活用」について課題がある。中学校は、全ての領域で下回り、「数と式」「図形」について課題がある。全国平均正答率との差は-5.4% (前回調査-6.2%) で少なくなってきた。

④ 理科について

平均正答率では、小学校は 57% (県 62%)、中学校は 47% (県 48%)。

小学校は、全ての領域で県平均を下回り、特に「粒子」を柱とする領域及び「地球」を柱とする領域について課題がある。中学校は、「生命」を柱とする領域以外の領域で県平均を下回り、特に「エネルギー」を柱とする領域について課題がある。

⑤ 平均正答率の県との差の推移について

小学校では、国語、算数ともに前回調査結果を下回り、令和 3 年度以降は下降傾向にある。

中学校では、平成 30 年度以降、県平均との差が少なくなり、上向いてきている。しかし、数学については前回調査を下回った。

⑥ 調査対象学年の県との差の経年比較について

小学校 6 年生については、国語、算数ともに県との差が広がっている。中学校 3 年生については、数学の差が拡大している。

⑦ 問題形式別の県との差について

これまでの調査結果では、記述式に課題があった。今回の調査結果では、他の問題形式と比較して記述式の問題に対する課題は認められない。

児童生徒質問紙の国語、算数・数学における「全ての書く問題で最後まで回答を書こうと努力しましたか」については、小中学校共に県平均肯定率との差が+0.2%~+3.1%であったことから、書くことに対する抵抗が少なくなっている傾向は認められる。

⑧ 正答率分布について

小中学校共に高正答率者の割合が少なく、低正答率者の割合が高いことが課題である。

※ 中正答率層の児童生徒が高正答率層へ、低正答率層が中正答率層へ移行することができるように、少人数指導等をはじめとした個に応じた指導を実施していく必要がある。

(7) 児童生徒の意識調査から

○ 「自分には良いところがあると思う」児童生徒の割合

小学校は74.6%（R3年度：75.6%）で前回調査よりも1%下回った。中学校では76.8%（R3年度：76.1%）であり、前回調査を0.7%上回った。県との比較では、小学校が2.7%、中学校が4.2%下回っている。学校・家庭・地域が連携し、それぞれの立場で児童・生徒のよさを評価し、自己肯定感を育てていく取組を充実させていく必要がある。

○ 「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合

小学校は74.1%（R3年度：78.1%）で前回調査を4.0%下回った。中学校では66.6%（R3年度：64.4%）で前回調査を2.2%上回った。県との比較では、小学校が3.5%、中学校が1.1%下回っている。教育活動全体を通じた計画的なキャリア教育の推進が必要である。

○ 「1日あたり1時間以上家庭学習をする」児童生徒の割合

小学校は49.6%（R3年度：61.9%）で前回調査を12.3%下回った。中学校では、53.0%（R3年度：55.0%）で2.0%下回った。県との比較では、小学校が-10.6%（R3年度：-2.9%）、中学校が-4.1%（R3年度：-8.6%）で、中学校については県との差が少なくなっているが、小学校については逆に開いている。

○ 「家で自分で計画を立てて勉強をする」児童生徒の割合

小学校は60.7%（R3年度：68.6%）で、県との差は-11.2%（令和3年度：-5.3%）で前回調査を下回った。中学校は58.6%（R3年度：58.1%）で、県との差は-6.1%（令和3年度：-9.2%）で、改善が認められる。

○ 「普段、1日当たり2時間以上テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする児童生徒の割合

小学校は58.5%（令和3年度：53.1%）で、県との比較は6.9%（令和3年度：5.8%）と増加している。中学校では、51.6%（令和3年度：61.8%）で、県との比較は6.1%（令和3年度：9.8%）で改善が認められる。

※ 児童生徒が夢や目標をもって取り組んだり、自己肯定感を育んだりすることが可能となるように、キャリア・パスポートの取組を核としながら、キャリア教育を全教育活動に計画的に位置づけ、教育課程を編成して実践をしていく必要がある。

※ 家庭学習時間やメディア接触時間について、中学校において改善が見られている。学級活動等において自らの家庭学習や家庭での時間コントロールに関わる授業を全校体制で取り組んだ学校が増えたことも要因の一つである。この取組を広げていくとともに、日々の実践について記録し振り返る活動を実施していく。

(8) 学校質問紙（校長の自己評価）から

① 教職員の資質向上に関する状況

- ・ 校内研修で、児童生徒自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動について学ぶ校内研修を行っている。

小学校は 81.3%で県との比較では 7.8%、中学校は 88.9%で県との比較では 30.4%上回っている。

- ・ 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している。

小学校は 56.3%で県との差は-0.8%、中学校は 44.4%で県との差は -7.8%であった。

② 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- ・ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

小学校は 56.3%で県との比較では-24.8、中学校は 88.9%で県との比較では+12.4%であった。

児童生徒に対する意識調査の同様な質問では、小学校 65.5%で県との差は-8.3%、中学校は 88.9%で県との差は-1.8%であり、小学校の指導に課題がある。

- ・ 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

小学校は 56.3%で県との差は-13.6%、中学校は 88.9%で県との差は+9.6%であった。

児童生徒に対する意識調査の同様な質問では、小学校 71.7%で県との差は-6.25%、中学校は 80.3%で県との差は-0.1%であり、中学校の授業改善が進みつつある。

③ 国語の指導方法

- ・ 目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行った

小学校では 68.8%で県との比較は-23.5%、中学校は 100%で県との

差は+8.5%で、特に小学校における指導に課題がある。

④ 算数・数学の指導方法

- ・ 具体的なものを操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形についての実感を伴った理解をする活動（中学校は、観察や実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす指導）を行った

小学校は 68.8%で県との比較は-22.5%、中学校は 55.5%で県との差は-18.9%で小中学校共に課題がある。

- ・ 公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童（生徒）がそのわけを理解できるように（生徒がその根拠を理解できるように）工夫した

小学校は 87.5%で県との差は-4.3%、中学校は 88.9%で県との差は-5.8%であった。

児童生徒に対する意識調査の同様な質問では、小学校 74.6%で県との差は-9.6%、中学校は 81.4%で県との差は-1.4%であり、更なる授業改善が必要である。

⑤ 理科の指導

- ・ 自然の事物・現象から問題を見いだす指導を行った

小学校は 68.8%で県との差は-21.0%、中学校は 100%で県との差は+6.4%であり、小学校の指導に課題がある。

- ・ 自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるとような指導を行った

小学校は 75.0%で県との差は-15.3%、中学校は 77.8%で県との差は+1.2%であった。

児童生徒に対する意識調査の同様な質問では、小学校 63.5%で県との差は-9.1%、中学校は 70.2%で県との差は+0.8%であり、小学校の指導に課題がある。

- ※ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修は実施されている。研修を行ったことが、実際の授業で生かされるようにしていくことが必要である。特に、小学校においては、このことについての取組を推進していく必要がある。また、小中学校共に個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加するような働きかけを進めていく必要がある。
- ※ 算数・数学が好きであるとする児童生徒を増やしていくために、学習することが身近な生活と結びつくような授業、実感を伴って理解をする授業、追

究したくなるような授業を行っていく必要がある。

※ 理科好きな児童生徒を増やすため、自然の事物・事象の不思議さ等への驚きや疑問を持つことができるような授業、仮説をもとに観察や実験を行い、その結果からまとめを行う授業を行っていく必要がある。

※ 各学校においては、業務改善に取り組み、児童生徒に向き合う時間や研修・教材研究の時間を生み出す努力も行っている。このことに対し、行政が行える支援を検討し、実施していく必要がある。

4 今後の取組の方向性について

(1) 「知識・技能」の確かな定着への取組の継続

各学校が、基礎的学力育成のために行っている取組（基礎学力テスト、書き取り会、計算会、家庭学習の工夫、家庭学習の定着、プリント配信システム（タブレットドリル版）の活用、指導・支援が必要な児童生徒への指導の時間確保等）は、今後も継続して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を確かなものとしていく。

(2) 授業改善、「思考力・判断力・表現力」の育成

「思考力・判断力・表現力（課題解決のために、資料等から解決に必要な情報を集め、示された条件に沿って理由や自分の考えを論理的に説明したり、記述したりする力）」や、「学びに向かう力」等の育成については、更なる指導改善が必要である。教育委員会が授業改善のための方策として示している「子どもの声でつくる授業」を核としながら、各学校で進めている「主体的で対話的で深い学び」を実現していくための取組を継続していくとともに、授業構想段階から指導主事が関わるなどの授業づくりへの支援を充実させていく。昨年度、市教育研究会中学校国語部会では、生徒と共に単元を通じた言語活動を設定し、「めあて」を決定しながら取り組む「子どもの声でつくる授業」にもとづいた授業を全ての部会員が実践し、その成果と課題を部会としてまとめる取組を行った。このことも、中学校の国語が全国平均並みとなった要因の一つであると考えている。市教育研究会の教科部会と連携した取組も推進していく。

なお、算数・数学については、依然として課題である。数学的な問題発見や問題解決の過程を学習において実現することを重視した数学的活動の充実により算数・数学好きな児童生徒を育てていくとともに、数量や図形概念等の構築や思考力・判断力・表現力等を育成する。教育委員会が行っている各学校年2回以上の訪問指導の内、1回は算数・数学を指定していることか

ら、担当指導主事を中心に授業構想段階から関わり、算数・数学の授業づくりに取り組んでいく。さらに、今年度から取り組み始めている算数・数学アドバイザーの指導を各学校へ広げていく。

理科についても、小学校1・2年生の生活科の授業から、体験等による気付きの質を高め、比較・検討しながら物事を考えていく力を育てていくと共に、小学校3年生以降の問題を見いだしたり、仮説を立てて実験や観察を行ったりしながら結論へと導いていく授業づくりを大切にする。本年度は、協調学習の指定校のうち2校が年2回の授業公開を理科で行う予定にしている。この取組を各学校へ広げていく。

協調学習として取り組んでいる知識構成型ジグソー法は「思考力・判断力・表現力」を育成するための手法として適していると考えている。このことは、昨年度実施した指定校生徒の意識調査からも生徒が主体性や協働性を実感しやすいことや学習した内容が記憶として残りやすいことが明らかになっている。したがって、協調学習指定校の取組を各小中学校にさらに広げていく。

また、課題を解決するために目的をもって読み、情報を収集・整理して自己の考えを構成していく授業づくりについては、指定校の取組を中心に推進していく。そして、これまで継続してきている学校図書館活用教育の取組も一層推進していく。

これまでの4年間は、中学校に課題が見られたことから、指定校を中学校としてきた。本年度からは、指定校9校のうち、7校を小学校指定校としている。指定校の取組を推進しながら小学校の授業改善が進むように働きかけを行っていく。

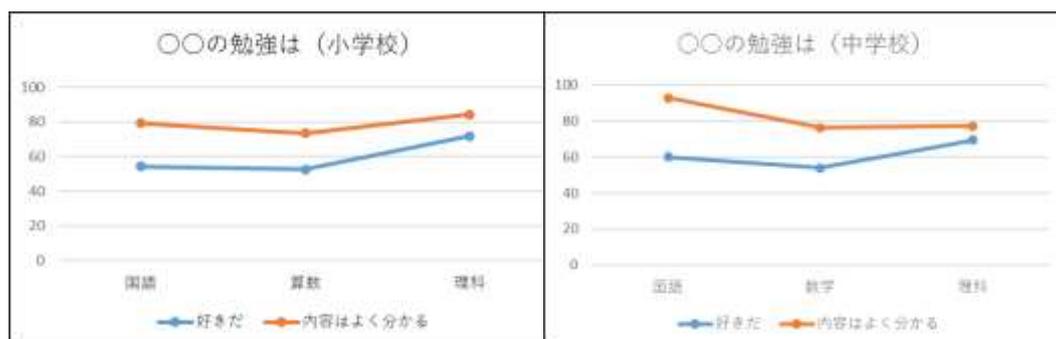
(3) 「夢や目標をもって取り組む指導（キャリア教育）」「学級経営」の充実

「子どもの声でつくる授業」を実現していくには、「落ち着いて安心して学習に向かえる環境・学級づくり」や「夢や目標をもって取り組む指導」等の確実な積み重ねが重要となる。安心して学習に向かえる環境・学級づくりについては、生徒指導担当指導主事とも連携を図り、各学校の取組を支援していく。また、県教育委員会の指定で実践を積み重ねてきたキャリア・パスポートの研究実践を基盤としながら、キャリア教育が組織的に展開されるように小中連携教育とも関連させながら取り組んでいく。

この小中連携教育では、メディア接触や家庭学習に対する課題を解決していくために、家庭学習を軸としながら、児童生徒が自ら時間をコントロールしながら取り組む力を育てていくことを重点として取り組んでいく。

(4) 「〇〇の勉強は好きだ」という児童生徒の割合を増やす

国語、算数・数学、理科いずれも「内容がよく分かる」と反応する割合と「好きだ」と反応する割合とにギャップがある。「その勉強は大切だ」「役に立つ」ということは認識し、「内容もよく分かる」ことがそのまま「その教科の勉強が好き」ということにつながっていない。上記の取り組みの充実ににより「その勉強は好きだ」と思う児童生徒を増やす。



（事業名）学習プリント配信システムの活用

1 事業目的

児童生徒一人一人の課題に応じた基礎学力や学習意欲の向上や補充学習の充実、家庭での学習習慣の定着を図り、児童生徒に「わかる」「できる」喜びを味わわせる。同時に、これまでのプリントの印刷や採点などの教職員の負担軽減に資する。以上の目的で、令和2年度までの「配信プリントシステム」に代えて、一人一台端末とネットワーク環境を活用した「タブレットドリル」を導入した。

2 事業実績

- (1) 小学校及び中学校への「タブレットドリル」の活用
(小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語)
- (2) 「タブレットドリル」累計学習回数 167、470回（3月末現在）

3 事業評価

「タブレットドリル」導入から2年目となり、学校によっては下記のように「タブレットドリル」を活用した継続した取組が行われるようになった。

- ・朝活動の時間に児童生徒が各自で問題を選択して取り組む。
- ・各単元の終了時に復習として取り組む。
- ・授業中の課題やテストが早く終了した児童生徒が更に学習するために取り組む。
- ・授業日や長期休業中の課題として家庭学習で取り組む。

こうした活用事例にあわせて、「タブレットドリル」の利点（問題を繰り返し解けること、自主的に学習に取り組めること、下学年の学び直しができること、各自の課題に応じた「おすすめプリント」が提示されること）等を周知したことで、新たに春休み中の課題として「タブレットドリル」を活用しようという学校もあった。今後もこうした活用の方法や利点について周知することで、活用を進めていきたい。

一方で、「紙媒体のプリントの方が活用しやすい」「通信環境が不安定なときがある」など、学校や教職員によって活用状況には差がある。令和5年度全国学力・学習状況調査では、中学校の英語「話すこと」調査で、オンライン方式での調査が行われるなど、今後CBT化が更に進んでいくと思われる。その際に児童生徒や教職員が対応できるよう、この「タブレットドリル」の活用方法やその意義について一層の周知を行うとともに、各学校の課題解決に向けてサポートしていきたい。

(事業名) 協調学習の研修

1 事業目的

思考力・判断力・表現力の育成、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、言語活動の充実に資する「知識構成型ジグソー法」という授業の型を用いた協調学習や仮説検証型授業研究について研修し、授業力向上、授業改善の一助とする。

2 事業実績

(1) 令和4年度「授業力向上プロジェクト」に係る中高合同研修会

(島根県教育委員会と合同開催)

→新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止

(2) 令和4年度 浜田市協調学習(知識構成型ジグソー法)研修会

(島根県教育委員会と合同開催)

① 開催日時 令和4年8月3日(水) 9:30~12:00、13:30~16:00

② 開催場所 所属長が指定する場所

(受講者と講師、主催者をZoomでつなぎ、オンラインで実施)

③ 講師 一般社団法人教育環境デザイン研究所

CoREプロジェクト推進部門 主任研究員 飯窪 真也 氏
研究員 齊藤 萌木 氏

④ 参加人数 午前の部 37名、午後の部 29名、合計 66名

⑤ 内容

・講義・演習 「一人一人の学ぶ力を引き出す授業のデザイン」
「主体的・対話的で深い学びの質を支える授業研究」

・実践報告 昨年度までの浜田市の協調学習の取組から
子どもの声の紹介 浜田市教育委員会 青木 良輔
今年度の浜田市の協調学習の取組から
雲城小学校の取組 雲城小学校 校長 上部 孝雄
第三中学校、三隅中学校の取組

浜田市教育委員会 青木 良輔

3 事業評価

8月の研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、島根県教育委員会主催の中高合同研修会は中止となった。しかし、浜田市教育委員会主催の浜田市協調学習研修会は、一人一台端末を利用して開催することができた。講義・演習の場面では、知識構成型ジグソー法を取り入れたグループ協議を行うなど、オンラインではあったが対話的な研修をすることができた。

また、これまでの浜田市の取組の成果として、ジグソー法の授業実践を重ねてきた令和3年度指定校の生徒の声(「情報を共有して新しい意見が生まれる」「授業から期間が開いても学習内容が定着していた」等)を動画で紹介した。

併せて、今年度の各指定校の取組を紹介した。

参加者の感想からは、「実践例などもあり、具体的なイメージをもちながら、講義を受けることができた。」「体験しながら学べたことで、理解が深まった。」といった知識構成型ジグソー法や協調学習について理解が深まったという趣旨のものや、「子どもたちがこの学習方法により力をつけ、その良さを語っていることによって、自分も実践してみたいと思えた。」「是非指導案等を入手して、クラスでやってみたい。」といった、2 学期以降の実践への意欲が見られたものが多数あった。

実際に、12 月に実施した浜田市協調学習実施状況調査（下記の図 1 及び図 2）では、小学校で計 48 回、中学校で計 263 回と、昨年度と比べてそれぞれ実践数が増加した。

以上の結果からも、本研修会を継続的に、主に初めて研修を受ける市内の教員を対象にして行っていることは、実践の拡がりに大変有意義であった。今後は、既に実践している教員の更なる学びの機会も作れるよう、午前・午後を別のプログラムにするなど、効果的なものにしていきたい。

<浜田市協調学習実施状況調査結果>

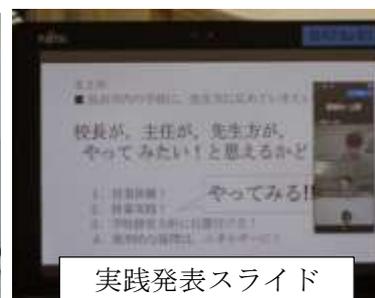


図 1（小学校・学校別集計結果）



図 2（中学校・学校別集計結果）

<研修の様子>



(事業名) 協調学習研究指定校

1 事業目的

思考力・判断力・表現力の育成、主体的な学び、言語活動の充実に資する「知識構成型ジグソー法」という授業の型を用いた協調学習について研修し、授業力向上、授業改善に取り組む学校を指定し、その成果を市内の学校に対し公開することにより、主体的・対話的で深い学びへの転換を図る。

2 事業実績

【令和4年度研究指定校】

浜田市立雲城小学校、浜田市立第三中学校、浜田市立三隅中学校

(1) 公開授業研究会

① 浜田市立雲城小学校

月 日	単 元 名	内 容
7月6日	第3学年 算数 「あまりのあるわり算」 授業者 大達 渚 教諭 参加者 15名	<p>課題：あまりのあるわり算を考え、問題にあった答えを求めよう。</p> <p>エキスパートA：ケーキが23こあります。1箱に4このケーキを入れていきます。全部のケーキを入れるには、箱は何箱あればよいでしょうか。</p> <p>エキスパートB：ケーキが23こあります。1箱に4このケーキを入れていきます。4このケーキが入った箱は何箱できるでしょうか。</p> <p>ジグソー：2つの問題文を比較して、答えが異なる理由を説明する。</p> <p>クロストーク：各班の考えを交流する。</p> <p>個に返る：適用問題を解く。</p>
10月25日	第6学年 理科 「てこのはたらき」 授業者 村上 哲也 教諭 参加者 22名	<p>課題：てこを使ってできるだけ小さい力で持ち上げるには、どうしたらよいのだろうか。</p> <p>エキスパートA：支点を動かす実験</p> <p>エキスパートB：力点を動かす実験</p> <p>エキスパートC：作用点を動かす実験</p> <p>ジグソー：実験結果を伝え合い、「どうすればより小さい力で持ち上げられるのか」を話し合う。</p> <p>クロストーク：各班の考えを交流する。</p> <p>検証実験：クロストークの意見を踏まえ、実際にやって確かめる。</p> <p>個に返る：自分の考えを記入する。</p>

② 浜田市立第三中学校

月 日	単 元 名	内 容
11月14日	第3学年 数学 「標本調査」 授業者 清水 祥太 教諭 参加者 30名 ※公開授業は、知識構成型ジグソー法での2時間構成の授業の2時間目（ジグソー活動から）。	<p>課題(前時)：英和辞典の見出し語の総数を推定しよう。</p> <p>エキスパートA：乱数さいによる標本調査</p> <p>エキスパートB：くじ引きによる標本調査</p> <p>エキスパートC：乱数表による標本調査</p> <p>課題(本時)：より良い標本調査の方法を議論しよう。</p> <p>ジグソー：それぞれの調査結果を伝え合い、その中からより良い標本調査であると考えられるものを選び、その理由を話し合う。</p> <p>クロストーク：各班の考えを交流し、より良い標本調査の方法を議論する。</p> <p>個に返る：自分の考えを記入する。</p>
1月23日	第1学年 社会 「オセアニア州」 授業者 月橋 剛弥 教諭 参加者 35名	<p>課題：オーストラリアはなぜ多文化社会をめざすのか？</p> <p>エキスパートA：「地理・文化」の視点から</p> <p>エキスパートB：「貿易」の視点から</p> <p>エキスパートC：「歴史・政策」の視点から</p> <p>ジグソー：課題に対しての考えを話し合う。</p> <p>クロストーク：各班の考えを交流する。</p> <p>個に返る：自分の考えを記入する。</p>

③ 浜田市立三隅中学校

月 日	単 元 名	内 容
7月14日	第3学年 理科 「生物の多様性と進化」 授業者 寺田 昇平 教諭 参加者 16名 ※公開授業は、知識構成型ジグソー法での2時間構成の授業の2時間目（ジグソー活動から）。	<p>課題：そもそも外来種は排除すべきか？ ～自分の考えをスケールで表現しよう～</p> <p>エキスパートA：ブラックバス・セアカコケグモについて</p> <p>エキスパートB：アメリカザリガニ・クビアカツヤカミキリについて</p> <p>エキスパートC：コメ・コイについて</p> <p>ジグソー：課題に対しての考えを話し合う。</p> <p>クロストーク：各班の考えを交流する。</p> <p>個に返る：自分の考えを記入する。</p>

11月30日	第3学年 理科 「地球と宇宙」 授業者 寺田 昇平 教諭 参加者 14名 ※公開授業は、知識構成型ジグソー法での2時間構成の授業の2時間目（ジグソー活動から）。	課題 ：地球以外の惑星に、生命が存在する可能性は何%か？～7つの惑星を並び替えて、スケールで表現しよう～ エキスパートA ：「惑星の特徴」について エキスパートB ：「ハビタブルゾーン」について エキスパートC ：「太陽系の歴史」について ジグソー ：課題に対しての考えを話し合う。 クロストーク ：各班の考えを交流する。 個に戻る ：自分の考えを記入する。
--------	--	--

(2) 公開授業に向けた事前検討会

- ① 開催日時 令和4年10月27日(木) 15:30～16:30
- ② 開催場所 浜田市立三隅中学校
- ③ 授業案提供者 浜田市立三隅中学校 教諭 寺田 昇平
- ④ 参加人数 9名
- ⑤ 内 容
 - ・参加者の授業体験（授業者：寺田教諭）
 - ・授業デザインと授業者の想定の説明（寺田教諭）
 - ・参加者の想定を発表、授業改善案の提案

(3) 子どもの学びを事前に想定する取組

- 各研究指定校において、独自に子どもの学びを事前に想定する取組を行った。
 - ① 雲城小学校
放課後に行う職員自主研修「WKK（わくわく雲城教室）」での授業案検討
 - ② 第三中学校
研究授業前の職員会議において子どもの学びを想定するグループ協議
 - ③ 三隅中学校
エキスパート資料を作成する学校司書も含めた授業案検討会

3 事業評価

- 指定校の報告書から抜粋して紹介する。

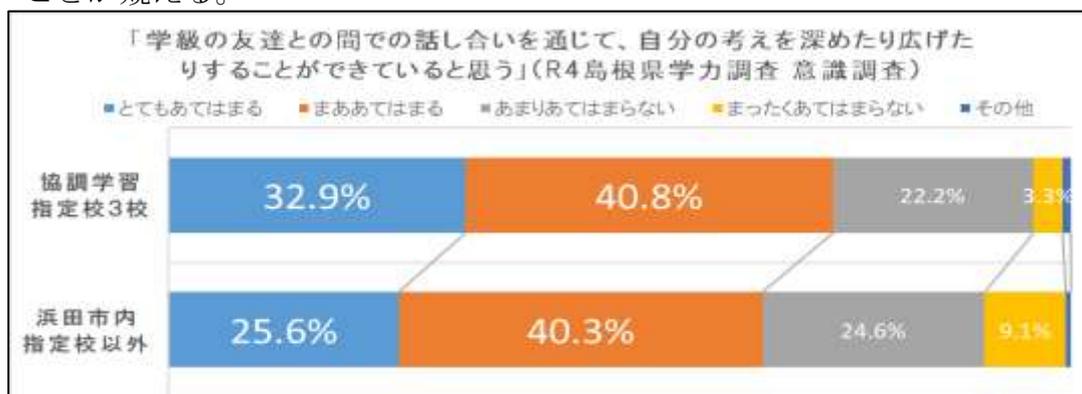
・自分の言葉で「言えることがある」状況をつくるエキスパート活動の設定が不可欠である。児童の驚くような教材や実験を仕組むことで、「伝えたい」「聞きたい」思いが生まれた。またクロストークでは、児童は対話によって答えを導き出すことができた。その後に検証実験を取り入れることで、対話で導いた答えが間違いないことを確認し、理解が深まることが分かった。

・年度初めに全教員で研修会を行ったことで、知識構成型ジグソー法について共通の理解ができたことが良かった。また、事前協議から授業協議まで全教員で行い、教科の壁を超えて授業について考えることができた。年度末の生徒アンケートの結果からは、知識構成型ジグソー法の授業に対して肯定的な意見が多かった。自分の役割がある喜びを感じていたり、たくさんの意見や

考えから学びが深まったりしている様子であった。

- ・5月と12月のアンケート結果を比較すると、全体的に肯定的意見の増加が見られた。特に協調学習に最も多く取り組んだ3年生の結果では、全国学力・学習状況調査などで、自己肯定感の低さや粘り強く取り組むことに課題を感じていたが、12月のアンケートでは、否定的な回答が減少し、肯定的な回答が大幅に増加した。

- 今年度から研究指定校を1校増やし、初めて小学校を指定校に加えた。上記のような職員自主研修や、公開授業以外にもジグソー法の授業で校内研修を行うなど、積極的に取り組む様子が見られた。こうした小学校での取組について、今後も市内へ周知し普及を図っていきたい。
- 今年度の公開授業では、2時間構成のジグソー法の授業が3回行われた。1時間の中で無理に収めようとする、クロストークなど学びを深める部分が中途半端になる可能性もある。授業者が事前に単元計画をしっかりと行い、より「深い学び」となるように取り組んでいる様子が見られた。
- 公開授業に向けた事前検討会では、課題の表現、資料やワークシートの内容等に関して、活発な意見交換が行われた。参加者からは、「こうした授業案検討の研修をもっと行いたい。」といった感想があり、事前検討会が授業者にとってだけでなく、参加者にとっても自分の学びの想定と他者の学びの想定の違いや新たな視点に気づく機会となり、今後の授業づくりに生かせる時間になった。
- 各研究指定校において、独自に子どもの学びを事前に想定する取組が行われた。このことは、知識構成型ジグソー法の授業に限らず、授業のゴールにおいて目指す子どもの姿を明確化するうえでも、非常に有益な取組であったと感じる。
- 県学力調査の意識調査における「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」という設問に対して、肯定的に回答した小5～中2の児童生徒の割合は、指定校全体で73.7%、指定校以外の市全体で65.9%と、7.8ポイントの差があった。その中でも、「とてもあてはまる」と答えた児童生徒の割合に大きな差があった（下図）。「知識構成型ジグソー法」へ取り組むことが、対話的で深い学びに繋がっていることが窺える。



【事業名】ICT 機器を活用した授業改善研究指定校

1 事業目的

児童生徒の主体的・対話的で深い学びを実現し、知識・技能や思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性などを育成するために、GIGA スクール構想によって整備した一人一台端末をはじめとした ICT 機器を活用した授業改善を行う。

2 事業実績

【令和 4 年度研究指定校 浜田市立美川小学校】

(1) 取組の概要

月	研 修 名
4 月	研究推進計画の立案、研究の視点の決定
5 月	Jamboard の使い方研修、OneNote の使い方研修、5 年生国語の指導案検討、児童の実態把握アンケート (Forms 活用)
6 月	第 1 回指定校公開授業 (5 年生国語)
7 月	校内研究授業 (2 年生国語)
8 月	STUDYNOTE10 の使い方研修、PowerPoint による共有の仕方の研修
9 月	3 年生算数指導案検討
10 月	校内研究授業 (3 年生算数)、5 年生国語指導案検討、算数科における ICT 活用に関する研修、美川小版の情報活用能力系統表及び情報モラル系統表作成
11 月	第 2 回指定校公開授業 (4 年生国語)
12 月	児童の実態把握アンケート (Forms 活用)、ICT を活用した授業実践例作成
1 月	ICT 活用に関する教育センター出前講座、研究のまとめ
2 月	校内研究授業 (6 年生国語)
3 月	指定校実績報告書及び決算書の作成・提出、次年度に向けた研究方向協議

(2) 公開授業研究会等

月 日	単 元 名 等	内 容
6月15日	第5学年 国語 単元名 新聞記者になって都の 変化を記事にまとめよう 教材名 世界でいちばんやかまし い音 (東京書籍) 授業者 安食 愛 教諭 ICT 機器活用の目的 話合いの場面において考 えを共有し、対話的で深 い学びを実現する 活用 ICT 機器 OneNote、EShare、デジ タル教科書、電子黒板 参加者 39名	<p>中心人物である王子様の変化が生じたことが分かる一文を見付けることで、人物の気持ちの変化を読み取ることを目指した授業であった。</p> <p>一文を見付けるために、子どもたちはタブレットに保存してある教材文の全文(個々のこれまでの学習記録が残されている)を確認し、必要な部分を拡大表示したり、必要な文章や言葉に線を引いたりしながら一文を見付けていった。長文の教材文を活用できることがOneNoteのよさである。</p> <p>グループでの話合いでは、個々のタブレットを見せながら根拠を示した話合いが行われた。また、グループの話合いで絞り込んだ一文には線が引かれており、共有機能を活用することで、どのグループがどの一文を選択したかが電子黒板で確認できるように工夫がなされていた。</p> <p>学級全員での話合いでは、電子黒板で各グループから出された考えについて確認をしながら、一文を絞り込む活動が行われた。しかし、出された考えについて比較検討をし、根拠を明確にした話合いは深まりに欠けた。ICT機器活用の有効性と、話合いを深めていく教師のコーディネートの重要性が確認できた授業であった。</p>
11月25日	第4学年 国語 単元名 みんなが読みたくなる 「デジタルふるさとの食 パンフレット」をつくら う 教材名 「ふるさとの食」を伝え よう (東京書籍) 授業者 山根 佑太 教諭 ICT 機器活用の目的 思考の空白場面を少なく すると共に、アドバイ をし合う対話的な学びを	<p>本時までに学習をした既習事項である、自分の考えとそれを支える理由や事例に着目して、仲間にアドバイスをしたり、アドバイスを基に文章を修正したりすることを目指した授業であった。</p> <p>子どもたちは、授業の最初に自分がパンフレットの文章を作成する際に気を付けたことについてFormsのアンケート機能を活用して投票を行い、その結果をグラフとして電子黒板により確認をした。この結果についての話合いを行うことにより、アドバイスをするポイント(授業者側からすると付けたい力)が明確になっていった。</p> <p>子どもたちは明確になったアドバイス</p>

	<p>実現する 活用 ICT 機器 PowerPoint、Teams、 STUDYNOTE10、Forms、 EShare、電子黒板 参加者 30名</p>	<p>のポイントにしたがって、アドバイスをす る相手の文章に書き込み（STUDYNOTE10 を 活用）を行い、それを見合いながら修正す べきことやよさについて話し合いを行った 後、個々に自己の見出しや文章を修正して いった。Forms のアンケート機能の活用によ りデータを視覚化することで、本時に付け たい力について子どもたちに自覚させ るとともに、文章を見直す活動に STUDYNOTE10 を活用したことで、思考や話 合いの時間を確保することができた授業 であった。</p>
--	--	---

3 事業評価

指定校の美川小学校では、ICT 機器を活用することにより、子どもたちが主体的・対話的に学び、思考力・判断力・表現力を高めていくことを目指した取組を行った。その成果と課題について、指定校の研究のまとめから抜粋して紹介する。

5月と12月に実施した児童アンケート結果の比較により、美川小学校の情報活用能力系統表にある「活用」項目の文字入力、キーボード入力、集める（インターネット利用、写真）、まとめる、伝える（Eシェア、パワーポイント、チームズ等）の能力は、全ての学年で良くなっている。これは、学習のみならず、係活動、日記、休み時間等を利用し、児童が日常的にタブレット端末を使用しているからである。

しかし、「タブレットを使用した学習は楽しい」の項目が下がった学年もあった。これは、タブレットを使うだけで楽しいという時期を過ぎ、普段使いの文房具として当たり前を使うようになったことや、教師がより高いレベルのICT機器活用の技能を求めた結果であると考えられる。

めざす児童像の

- 学ぶことに興味・関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組む（主体）
- 友達と対話をして自分の考えを広げ深める（思考・判断）
- 自分の考えや思いを自分なりの方法で表現する（表現）

に照らし合わせると、主体的に学習し、パワーポイント、写真などで思考・判断・表現できるようになった。文字が短時間で入力できるようになったため、対話の時間が増えた学年もあった。

しかし、「自分の考えを発表し、対話をして自分の考えを広げたり深めたりできましたか。」というアンケート項目に関しては、全体的に5月と比較すると12月では若干下がっている。ペアでの対話はあるが、学級全体での対話になると、学習展開の深める場面で時間が足りなくなったり、学級全体の前で

表現できなくなったりするからである。

そこで、今年度の研究の成果と課題を踏まえ、来年度は、さらに主体的・対話的に学習ができるように、

- 学びの深まりを作り出すために、児童が各教科の見方・考え方を働かせて考える場面と、教員が教える場面をどのように組み立てるのかを検討し、学級全体での対話を活性化する。
- デジタルとアナログのよさを生かし、児童も教師も選択してよりよく ICT を活用する。

こと等を目指して研究をしていく。そして、個別最適化を行う一方、児童が ICT を活用して主体的・対話的に学び、友達と協働して分かる喜び、学ぶ楽しさを感じながら思考力・判断力・表現力を高めていくために、国語科に限らず、いろいろな教科で、ICT 機器を有効に活用する方法を探り広げていきたい。

- 昨年度の指定校の周布小学校では、「普段使いの ICT を目指して」を合言葉に取組を推進した。導入初年度であることを考えると適切な取組であったと評価している。

今年度の指定校の美川小学校では、「普段使いの ICT」を継続しながら、ICT 機器を活用することで、子どもたちの主体的・対話的な学びを生み出し、思考力・判断力・表現力等を高めていくことを目指した。この結果、「普段使いの ICT」については成果が見られている。しかし、ICT 機器の活用による思考力・判断力・表現力の育成に向かった授業改善については、個人思考、ペアやグループでの活動後の学級全体での対話のあり方について課題があるとしている。

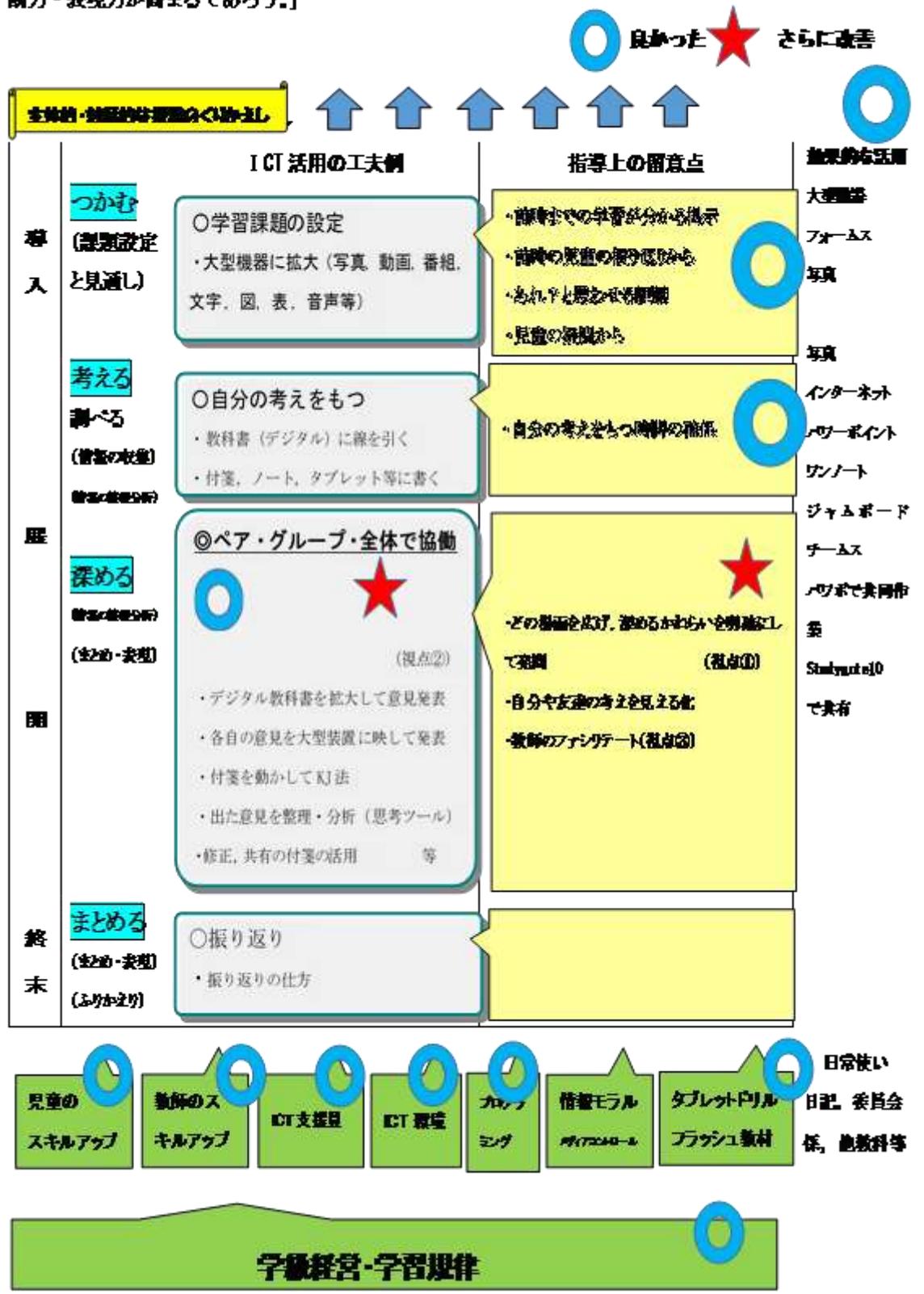
- 美川小学校では、上記の成果と課題について、次ページで示しているように学習過程に沿って明らかにしている。

次年度は、学びの深まりを目指して学級全体での対話を活性化することやデジタルとアナログのよさを生かしながら ICT 機器の活用を考えていく取組を充実させていく方向性を打ち出している。主体的・対話的で深い学びを実現していくための ICT 機器を活用した授業改善を目指した事業である。美川小学校の実践は、本事業の目的に沿った取組であったと評価したい。

なお、指定校の美川小学校では「授業実践例を各学年 2 例」、「美川小学校 情報活用能力系統表」、「美川小学校 情報モラル系統表」も報告書に併せて提出をしている。「浜田市 ICT 活用教育ハンドブック」へ反映させていくとともに、今後、これらの資料についても市内の各学校へ広げていく。

研究仮説

「国語の学習過程の中で効果的なICT活用を行えば、児童が主体的・対話的に学び、児童の思考力・判断力・表現力が高まるであろう。」



【(6/15) 5年生 国語の公開授業：OneNote、EShareの活用】



自己の考えをタブレット上の教材文に



グループとしての考えを話し合う

【(11/25) 4年生 国語の公開授業：PowerPoint、Forms アンケート機能活用】



よさや修正点についての話合い



指摘し合った内容の発表・共有

【公開授業についての仮説検証型の研究協議会】



(事業名) 小学校算数科授業改善指定校事業

1 事業目的

算数・数学科において本市がめざす「子どもの声でつくる授業」の実現に向けた授業改善を推進するために、小学校2校を指定し、アドバイザーの指導を受けながら研究実践に取り組み、その成果を市内の学校に普及する。

2 事業実績

(1) 指定校の取組

【浜田市立周布小学校】

月 日	研修名等	内容
4月	校内研究	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進計画の立案(テーマの設定、研究内容の決定) ・校内研修(めあての設定についての共通理解)
8月22日	指導案審議 アドバイザー講義	<ul style="list-style-type: none"> ・10月公開授業に向けての指導案審議 ・前田アドバイザーによる講義 <講義の骨子> <ol style="list-style-type: none"> (1) 分からせよう、見せようとする、見ようとしなくなる。「見えなくする」「隠す」と見ようとする。 (2) やる、やる、やる 手で学ぶことを重要視。話し合うことの前に、何をやらせるか考えてみる。 (3) 「やってみる➡話し合う➡やって確かめる」というサイクルを授業の中につくりだす。 (4) 褒めて価値づける 先生がたくさん褒める授業がなかなかない。算数の活動を褒めないといけない。 (5) 導入からたくさんやらせる 1時間でたくさんの活動をさせる。
9月30日	校内研究授業	・第2学年1組(低学年部会)
10月4日	校内研究授業	・第1学年1組(低学年部会)
10月11日	公開授業指導案審議	・10月26日分公開授業の指導案審議
10月21日	公開授業指導案審議	・11月2日分公開授業の指導案審議
10月26日	指定校公開授業 第4学年1組 単元名 「計算のきまり～計算のやくそくを調べよう」 授業者	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時のねらい ドットの並び方やまとまりに着目し、ドットの数の求め方を式に表し、説明している。 2 授業の概要 規則正しく並んだドット(●印)の数を、既習の計算の決まりを活用して求める方法を考え、式に

	一法師真央 教諭 他校参加者 10名 ・アドバイザー講義	表して説明をしていった。それぞれの考え方の説明から共通点や相違点を話し合い、「ドットのまとまりに着目することで乗法の式に表現できる」ことを整理し、確認問題にチャレンジする展開であった。 導入問題をフラッシュカードで提示（見えにくくする）、終末の確認問題の位置づけなど、事前の講義内容を取り入れた展開が構想されていた。
11月2日	指定校公開授業 第2学年2組 単元名 「新しい計算を考えよう」 授業者 執印 洋史 他校参加者 13名 ・アドバイザー講義	1 本時のねらい 問題場面から「1つ分の数」と「いくつ分の数」を読み取り、図や式に表現することができる。 2 授業の概要 学習のスタートで4つの問題場面を提示し、「2×5」で表すことができる問題場面を選ばせ、選んだ理由、選ばなかった理由を交流することで、乗法に表すことができるポイントに気付かせ、問題場面を式で表すことを学習する展開であった。 スタート場面での問題、終末場面での適用問題として子どもたちにたくさんやらせることを意識するとともに、特にスタート場面で提示した問題場面には加法、減法の場面も取り入れ、本日のポイントを際立たせるなど、工夫した授業構想であった。
11月10日	校内研究授業	・第5学年1組（高学年部会）
11月22日	校内研究授業	・第6学年2組（高学年部会）
12月8日	校内研究授業	・第5学年2組（高学年部会）
2月9日	校内研究授業	・第3学年1組（中学年部会）
2月22日	校内研究授業	・にこにこ学級（低学年部会）
3月	校内授業研究（6日） 研究の振り返り	・のびのび学級（中学年部）

【浜田市立長浜小学校】

月 日	研修名等	内容
4月	・実態把握・意識調査 ・研究部会	アンケートの実施 研究の方向性について協議
5月	・研究部会 ・研究職員会 ・算数学力調査実施	研究計画の作成 研究推進についての共通理解 第2学年から第5学年対象
6月	・研究部会 ・研究職員会	指導案審議 学力調査に基づいた授業改善計画策定

	・研究授業	授業公開及び授業研究会（2年2組）
7月	・研究職員会	1学期の振り返り
8月	・研究部会	1学期の実践に基づいた授業改善計画の見直し
8月22日	・研究職員会	指導案審議 前田アドバイザー講義
9月	・研究授業	授業公開及び授業研究会（5年）
10月	・研究授業 ・研究部会	授業公開及び授業研究会（2年1組、2組、4年1組、2組） 公開授業の指導案審議及び前田アドバイザーとのミーティング
11月1日	・公開授業 第3学年1組 単元名 「小数 数の表し方やしくみを調べよう」 授業者 深田 星 教諭 他校等参加者 4名 ・アドバイザー講義	1 本時のねらい 小数第1位までの加減法の計算の仕方を理解し、それらの計算をすることができる。 2 授業の概要 アドバイザーの助言（見えにくくする、たくさんやる）等を踏まえ、学習のスタートで6つの問題に挑戦させる中で、これまでの学習事項の確認と、今日の学習の課題を浮き彫りにする工夫をし、「位をそろえて計算する」ということに気付かせる展開であった。学習の終末においても、10問の適用問題を準備し、「たくさんやる」ことによってより確かな理解となるような工夫がなされた授業構想となっていた。
12月	・算数学力調査 ・県学力調査 ・実態把握・意識調査 ・研究職員会	アンケート実施 2学期の振り返り
1月	・研究部会	・公開授業の指導案審議及び前田アドバイザーとのミーティング
1月26日	・公開授業 1年2組 単元名 「おおきいかず」 授業者 三浦 和 教諭 他校等参加者 9名 ・アドバイザー講義	1 本時のねらい 2 100円ちょうどになる組み合わせを考え、100の構成についての豊かな感覚をもつことができる。 3 授業の概要 10種類のお菓子和それぞれの値段を提示し、子どもたちに自由に2つを選ばせ、選び方が当たり（100円になる場合）、はずれ（100円以外）を指示することで、当たり、はずれの判断の根拠を明らかにさせた。このことを通して10が10個で100という考えをもとに、100円になるお菓子の組み合わせを見つけ、ねらいを達成しようとする展開であった。 この授業においても、学習のスタート場面で7

	・研究授業	つの問題を提示し、「たくさんやる」ことと、本時の学習の基盤となる考え方に気付かせる配慮がなされていた。 授業公開及び授業研究会（1年1組、6年1組）
2月	・研究職員会	研究のまとめ
3月	・研究職員会	来年度への方向付け

(2) 指定校の取組の普及・啓発活動

指定校での公開授業ごとに、アドバイザーである前田教授による講義の時間を設定した。

指定校での実践に基づき、さらに授業をよくするためにという視点から、「隠す（見えなくする・見えにくくする）、たくさんやる、ほめる」という3つの事柄を基盤に多くの助言をいただくことができた。

学力向上推進室では、これらのことを「学力向上推進室だより」、「学校訪問」を通じて、市内小・中学校へ伝達し、各校での算数・数学の授業改善に生かしていくよう働きかけた。

3 事業評価

4回の指定校の公開授業へ、指定校の教員も含め、のべおよそ100名の参観者があった。指定校は小学校であったが、中学校からの参加もあり、アドバイザーである前田環太平洋大学教授の講義を聞く機会を設定できたことは、授業改善の視点をそれぞれに得ることができ、有意義であったと考える。

「指定校の公開授業への参加の呼びかけ」、「学校訪問、学力向上推進室だよりによる研究成果の普及活動」により、算数・数学の授業に係る学習計画案や授業実践に少しずつではあるが変容が見えてきつつある。特に、提示問題の量やファシリテーターとして児童生徒に対する声のかけ方など、学習内容の理解を深めるための実践が具体的にみられるようになってきている。

今年度の指定校における公開授業やアドバイザーの前田教授の助言をもとに、浜田市で進める算数・数学の授業改善のポイントを明確にし、全小中学校で実践できるように、働きかけを強化していきたい。

そのためにも、本事業の継続的な実施が必要である。

（事業名）国語教育推進指定校事業

1 事業目的

小中学校の国語科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進め、読解力を育成するために、小学校から1校を指定し、その研究成果を市内の学校に普及する。

2 事業実績 【令和4年度研究指定校 原井小学校】

（1）取組の概要

月 日	研修名等	内容
4月	・研究部会	研究計画の作成
5月	・校内研修会	校内研究について
6月	・研究授業	授業公開及び協議会（1年1組）
8月	・校内研修会	1学期の振り返りと研究授業の立案
9月	・研究授業	授業公開及び協議会（3年）
11月	・研究授業	授業公開及び協議会（4年1組）
2月	・研究授業 ・研究職員会	授業公開及び協議会（6年1組） 研究のまとめ

（2）公開授業研究会等

月 日	単 元 名 等	内 容
10月28日	・公開授業 第1学年1組 単元名 「すきなりのもの やくめとつくりをし ようかいしよう」 授業者 三宅 舞 教諭 他校等参加者5名	1 本時のねらい カードをならべかえることを通して、その船の 役目に合ったつくりやできることを考え、選び出 すことができる。 2 授業の概要 読み取ってきた「いろいろなふね」の役目やつく りが書いてあるカードをワークシートに貼り、そ の船にぴったりの説明を考える授業であった。説 明するときには、根拠や理由を言うようにさせて いた。子どものつぶやきを拾いながら、子どもの言 葉で授業を進めていた。この時間でどんな力を子 どもに身に付けさせたいのかよく吟味した授業で あった。
	・研究授業	授業公開及び協議会（2年1組）

12月5日	<p>・公開授業 第5学年1組 単元名 「朗読で表現しよう」</p> <p>授業者 安食 遼 教諭 他校等参加者0名</p>	<p>1 本時のねらい 大造じいさんが何年も捕まえたいと思っていた残雪を逃がした理由を物語の叙述を根拠にして考え、考えたことを基に大造じいさんの人物像を想像する。</p> <p>2 授業の概要 場面ごとに人物像を想像する学習を重ね、本時においては、前時の「なぜ残雪を逃がしたのか？卑怯な戦いとは？」との子どもの声を基にしながら授業が展開された。児童は、大造じいさんの行動を根拠としながら、卑怯なやり方かそうでないかを捉えていった。その中で、「おとり作戦」について対立意見が出されていた。</p>
-------	--	---

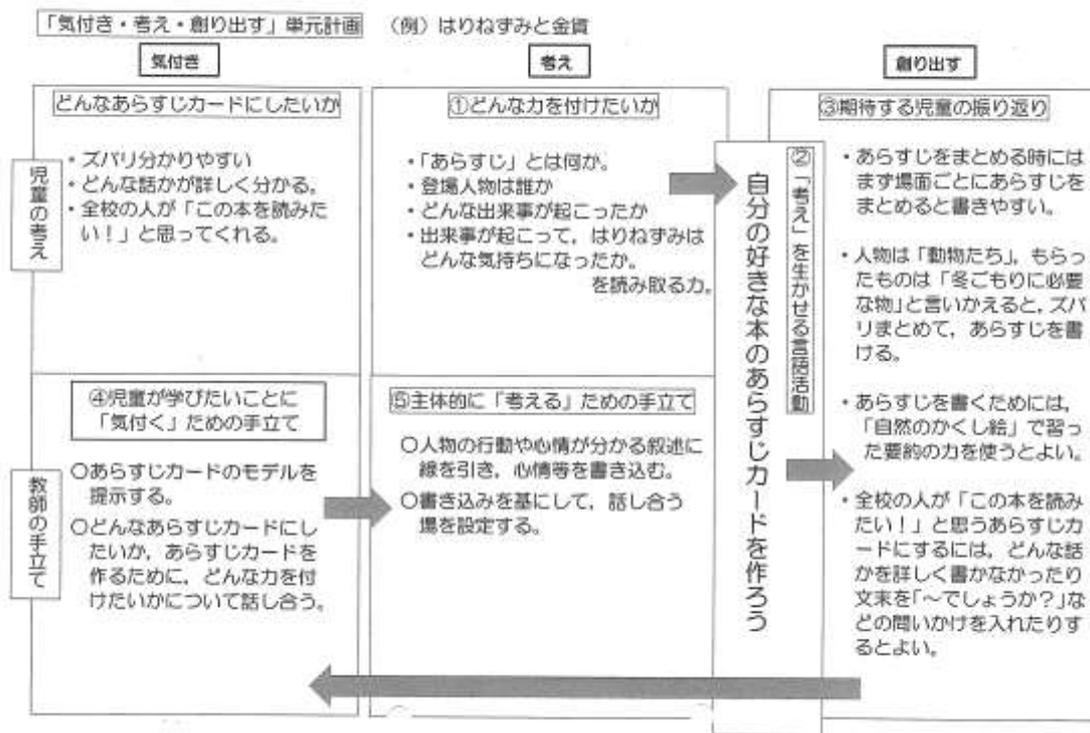
3 事業評価

○ 指定校の報告書から抜粋して紹介する。

- ・ 教師が、児童にとって「学びたい」「創り出したい」と思える言語活動を設定したことと、設定した言語活動に向かって「気づき・考え・創り出す」単元構成による授業の実践を行ったことで、児童が自分たちで学びたいことや、学びを通してどのような力を付けたいのかということを考えたり、自分の学びを表現したりすることができるようになってきた。また、自分たちで考えた学習内容が反映された授業となったことで、国語科に対する学習意欲が高まった。
- ・ 「気づき」の学習過程において、学級全体で学習の見通しをもつことができたことにより、家庭学習で復習だけでなく、予習にも取り組むようになってきた。
- ・ 毎時間の授業で「声を出して読むこと」と、家庭学習で全学年が音読に取り組んだことで、文章を読むことに対する抵抗感が減ったり、語彙力が増えたり、学習用語を使ってまとめをしたりすることができるようになりつつある。

○ 今年度からの研究指定校である。読解力を育成するために、「気づき・考え・創り出す」単元構成による授業実践を行い、読解の基盤となる技能（音読力・語彙力）を向上させるための取組が行なわれた。全学年で音読と語彙調べを毎時間の授業や家庭学習で取り組んだことで、児童の読むことに対する抵抗感がなくなったり、語彙が増えたりしたことは適切な取組であったと評価できる。このことが、島根県学力調査における「言葉の学習」の結果が、5年生も6年生も県の平均より高い数値となったことにつながったのではないかと考える。また、5年生の意識調査の「勉強に辞書を使っている」では、5年生が県の平均を上回っている。

- 授業を行う前に、「単元計画シート」を作成（次ページに例として示している）して、教材研究を行ったことは、児童の実態に即し、育成したい能力を明確にした授業を構想する上では効果があったといえる。しかし、このことが授業で、どのように生かされ、児童の読解力の育成にどのようにつながったのかの検証が不十分である。本事業を継続して行うことで明らかにしていく必要がある。



(教材研究で活用した「単元計画シート」)



(1年生の授業の様子)



(5年生の授業の様子)

（事業名）学校図書館活用教育研究指定校

1 事業目的

学校図書館を活用した授業を展開することにより、児童生徒の情報活用能力の育成と思考力・判断力・表現力の向上を図る。学校図書館を活用した授業実践に関して研究する小中学校を2校程度指定し、その成果を市内の学校に公開することにより、その研究の成果を市内の学校に普及する。

2 事業実績 【令和4年度研究指定校 松原小学校、岡見小学校】

(1) 取組の概要 松原小学校

月	研 修 名
4月	・研究推進計画の立案
5月	・研究部会（5年生授業について） ・出前授業（5年生社会 「年鑑の利用」）
6月	・研究部会（公開授業に向けて） ・校内研修（学校図書館活用教育について） ・研究部会（5年生社会） ・校内研修（5年生社会模擬授業） ・公開授業（5年生社会）
7月	・校内研修（令和4年度学校図書館活用研修の報告・活用計画の確認・1学期の振り返りと2学期以降の計画） ・校内研修（図書館大改造計画に向けて） ・図書館整備、作業
8月	・令和4年度浜田市学校図書館活用教育研修会参加 ・校内研修（研修会報告・2学期準備）
9月	・研究部会（3年生の授業について） ・研究授業（4年生国語）
10月	・出前授業（3年生総合的な学習の時間） ・公開授業（3年生総合的な学習の時間） ・研究授業（1年生国語）
11月	・研究授業（2年生国語） ・研究授業（6年生総合的な学習の時間）
12月	・研究授業（4年生国語） ・研究職員会（研究のまとめについて）
1月	・研究のまとめ作成
2月	・研究職員会（今年度の振り返り）
3月	・研究職員会（来年度の見通しについて・図書館改造に向けての研修）

(2) 公開授業研究会 松原小学校

月/日	単元名 等	内 容	外部の参加者等
6/14 (火)	5年 社会科 単元名:米作りのさ かな地域 (東京書籍)	<p>年鑑を活用し、日本の米のとれ高や作付面積を調べ、山形県の生産量が全国1位の理由を考え、本単元の学習課題を設定する授業であった。</p> <p>授業者は、初めて出てくる用語について、図や言葉を使いながらいねいな説明を行った。また、表やグラフを読み取る際に支援グッズを用意し、読み取りやすいように工夫していた。</p> <p>個人で読み取った結果に結びつく要因について考えさせることにより、課題を設定するように導いた。</p>	23名 市内教員、 学校司書、 市教委
10/20 (木)	3年 総合的な学習 の時間 単元名:みんながく らしやすい社会にする ために	<p>盲導犬訓練センターを見学して、分かったことについてメモをした付箋紙をグループで出し合い、Xチャートを使いながら情報を共有し、見出しを考える授業であった。</p> <p>話し合い活動では、児童のやりたい気持ちがあふれ、積極的に話し合う姿が見られた。友だちの話聞きながら類似点や相違点を見つけたり、分からないことを聞き返したりしていた。</p> <p>見出しを考える時にも、読み手を意識して言葉を選び工夫のある見出しを考えていた。普段は学習に参加しにくい児童が喜んで参加しており、主体的に活動していた。</p>	14名 市内教員、 学校司書、 市教委
公開授業 2回			37名

(3) 取組の概要 岡見小学校

月	研 修 名
4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究推進計画の立案 校内研修 (学校図書館活用教育について)
5月	<ul style="list-style-type: none"> 児童、教職員アンケート実施
6月	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業 (3・4年生国語) 出前授業 (1年生国語 図鑑の利用)
7月	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座 (ICTを活用した授業) 公開授業 (1年生国語)
8月	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度浜田市学校図書館活用教育研修会参加 環境整備
9月	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業 (すずのね学級自立活動)
10月	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業 (うめのは学級自立活動) 公開授業 (6年生国語)

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業（5年生国語） ・児童、教職員アンケート実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業（2年生算数）
1月	
2月	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究職員会（研究のまとめ）

(4) 公開授業研究会 岡見小学校

月/日	単元名 等	内 容	外部の参加者等
7/5 (火)	1年 国語科 単元名：どうやって みをまもるのかな (東京書籍)	<p>動物が敵からどうやって身を守るのかについて教科書から読み取ったことをもとに、自分が調べたい動物の身の守り方を図書から調べ、リーフレットにまとめる授業であった。</p> <p>児童は、まず、1人で図書資料の文や写真から身の守り方を読み取り、その読み取ったことをペアで話し合い、リーフレットに大事な言葉を書きこんでいた。児童が発表しやすいようにリーフレットが工夫されていた。読み手のことを考えてどう表現すればいいかの視点も示されており、児童は表現の工夫について考えていた。</p> <p>1年生の1学期なので、読み取りが難しい児童にとって写真が効果的であった。また、学校司書の的確な選書や授業中の支援があり、どの児童も自分たちの調べた動物についての身の守り方について調べることができていた。</p> <p>児童は調べることの楽しさ、分かったことを知らせる楽しさを味わっていた。</p>	23名 浜田教育事務所 指導主事、 市内教員、 学校司書、 市教委

10/12 (水)	6年 国語科 単元名:町の未来を 考えよう 町の幸福論〜コ ミュニティデザイン を考える (東京書籍)	自分たちが住んでいる「町の課題」と「町のよいところ」について調べた資料を関連付けて、町の未来を考える授業であった。 電子黒板やWhiteboardなどのICT機器が活用され、授業者も児童も使い慣れていて、普段からICT機器を活用した授業が実践されていることがうかがえた。授業にあたってどのアプリを使用すると効果的に授業が展開するのかを授業者がしっかり吟味しており、参観者の参考となった。 グループ活動では、授業者が考える視点を明確にするような言葉かけをしており、児童の思考を深めていた。 学校司書が効果的に活用されていて、資料の収集や先生方との連携の仕方など、他校へ発信できた。	5名 市内教員、 学校司書、 市教委
公開授業 2回			28名

3 事業評価

指定校の松原小学校と岡見小学校では、学校図書館を活用した授業を展開することにより、児童生徒の情報活用能力の育成と思考力・判断力・表現力を高めていくことを目指した取組を行った。その成果と課題について、各校の研究のまとめから抜粋して紹介する。

① 松原小学校

- 学校図書館を活用することで身につけたい情報活用能力を学び方指導体系表としてまとめた。このことで、全教職員で指導内容を確認した上で学習を進めることができた。また、6年間の指導の系統性を把握する上で有効であった。
- 様々な思考ツールを使うことで、課題を絞り込んだり調べた情報を整理したりする力がついてきた。
- 要約学習の実践を進めた。文章の図式化に取り組んだことで、読み取る力を伸ばす可能性を感じた。また、図式化に慣れてくると、いろいろな場面で図式化を活用する子どもの姿が見られるようになった。
- 言語環境の充実を図った。「にこにこスマイルツリー」や行事、児童会活動などでのお礼やメッセージを書く活動を通して、書くことへの抵抗感を少なくするとともに温かい心を育てることができた。
- 学校司書によるアニメーションや読み聞かせ、イベントなどを継続して行うことで、本への関心が高まっている。
- 今後、研究授業の実践だけでなく、日頃の実践を指導体系表に記録

して確認し、年間を通した取り組みができるようにしたい。また、要約学習において、読むことが苦手な児童に対して、個別指導を行うとともに、ペア、グループでの活動を取り入れるなどの支援も考えていきたい。

② 岡見小学校

- 低学年のうちから出典についても指導したので、児童は作品を作成する際に出典を明らかにしていた。
- 児童が調べたいと思う課題を設定したことで、最後まで意欲をもって調べることができた。また、「もっと調べてみたい」と新たな課題に向けてさらに調べたり、「分かったことを伝えたい」との思いをもち、人とのかかわりを求めていく姿が見られたりした。
- 学校司書と連携し、資料を精選したことで、学年に応じた選書が行われ、キーワードが探しやすくなったり、絵や写真から情報を集めたりすることができた。
- 資料から抜き取った内容を書いた付箋紙を利用した効果があった。情報を分類したり、並べ替えて文章の構成を考えたり、情報を抜き取って要約したりすることができた。ペアやグループで互いに意見を出し合うことができた。
- タブレットを使い、子ども達が共同編集できるようにすることでお互いの文章を見ながら話し合い、要約していくことができた。ICT ツール (Microsoft Whiteboard) を活用することは、グループで情報を共有しながら思考する上での手立てとなった。
- 今後、資料の内容理解を苦手とする児童がいるので、資料の精選、学校司書との連携、読み取るための手立てなど個々の児童に応じた支援を考えていきたい。

また、学び合う場を設定することで、児童が学ぶ楽しさや分かる楽しさを感じながら、探究的な学習を行えるように研究を進めていきたい。

- 今年度研究指定校は、小学校 2 校であった。図書館活用授業の基本的な利用指導 (図鑑の使い方・年鑑の使い方) や ICT を活用した授業、情報の整理・分析の仕方についての公開授業が行われた。この公開授業によって、「図書館活用教育の授業は図書館の本を使った授業である」と誤って理解している多くの教員が、図書館活用教育の授業は、学習の基盤となる資質・能力である言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育てる授業であると理解できた。図書館活用教育の目的についての認識を広げることができた松原小学校と岡見小学校の実践は、本事業の目的に沿った取組であったと評価したい。
- 指定校を中心に各学校での授業で使用したワークシートや思考ツール、資料リスト等の資料を教育委員会の学校図書館の提出フォルダにまとめ、

だれでも活用できるようにしている。さらに、実践例も加えるなど、活用しやすいように工夫していきたい。そして、研修会や学校図書館支援センターだより等で周知することによって各校での図書館活用教育の授業数が増加するようにしていきたい。

- 各教科等での取組が広がる中、年度当初に「図書館活用教育体系表」「図書館活用教育单元一覧」を参照し、教科等横断的な指導がなされるように各学校で計画を立てて実践していく必要がある。学校全体として組織だつて運営していただくために学校図書館運営委員会等を定期的に関くことよさを発信していく。
- 公開授業を浜田市教育研究会学校図書館部会と国語部会の研修に兼ねたことで、参加者が多かった。中学校の先生も多く参加されたことにより、研究協議では、小学校と中学校のつながりを考えた話し合いがされた。今後も連携を図り、校種・教科を超えた参加を促したい。

(事業名) 図書館活用教育の研修

1 事業目的

- 学校図書館活用教育を推進するために学校図書館の活用方法について、司書教諭・学校司書等の実践的指導力を高める。
- 県内の学校図書館活用教育の研修や、浜田市内で取組の成果を上げている小中学校の実践事例を聞くことで、司書教諭・学校司書の学校図書館を活用した言語活動の授業支援や、資料準備、レファレンス能力の充実に資する。

2 事業実績

(1) 研修会の概要

開催日	研修会名	主催	研修内容	人数
4月13日	第1回学校司書連絡会 (オンライン)	浜田市 教育委員会	ワークショップ:今年度のめあてをきめよう ワークショップ:今年度の図書館運営の確認と計画 (学校図書館担当者・学校司書) 講師:学力向上推進室 指導主事 植田さゆり	43
5月24日	県学校司書研修会 (オンライン)	島根県立 図書館	学校司書初任者研修 講義1:学校図書館概論、図書館資料分類 講師:島根県立図書館 石塚弘文 氏 講義2:利用指導、読書支援、広報活動など 講師:島根県立図書館 齋藤知世 氏	2
6月8日	市図書館を使った調べる学習研修会	浜田市 教育委員会	講義・演習:「課題設定 どうやって?」 講師:学力向上推進室 指導主事 植田さゆり	25
6月16日	県学校司書研修会(第2回)	島根県立 図書館	講義・演習:「百科事典の楽しさを伝えるために」 講師:ポプラ社 大橋康司 氏 ブックフェア	24
7月14日	学びのサポーター研修会(第1回)	島根県教育庁 教育指導課	講義:「心の居場所づくり・人間関係づくり」 講師:島根県教育センター 指導主事 佐々原由乃 氏	20
7月21日 22日 27日 28日	第2回学校司書連絡会	浜田市 教育委員会	調べる学習コンクールの応援講座に支援者として参加し、小学生や保護者にレファレンスを行うことにより、研修の一環とした。 (中央図書館・金城図書館・旭図書館・弥栄図書館・三隅図書館)	23
8月4日	市学校図書館活用教育研修会	浜田市 教育委員会	講義:ワークショップ「学校図書館を活用した探究的な学習を構想する」(ハイブリッド) 講師:竹田市教育委員会 指導主事 楨川 亨 氏	50
10月18日	学びのサポーター研修会(第2回)	島根県教育庁 教育指導課	協議1:学びのサポーターの4つの役割における取組実践について(グループ協議) 協議2:校内体制の現状と業務上の工夫について(グループ協議)	24
10月26日	第3回学校司書連絡会	浜田市 教育委員会	第9回浜田市調べる学習コンクール二次審査会に審査員として参加し、作品を評価することをお通して研修の一環とした。	25

2月6日 ～ 2月17日	学びのサポーター研修会 (オンデマンド)	島根県教育庁 教育指導課	講義:1人1台端末時代の学校図書館活用 講師:放送大学客員教授 堀川 照代 氏 動画:図鑑の使い方 図書館クイズ 講義:学校図書館活用をより進めるために～次年度に向けて～ 講師:島根県教育庁教育指導課 籠橋 剛 氏	24
2月16日	第4回学校司書連絡会	浜田市 教育委員会	第3次浜田市子ども読書活動推進計画について おすすめの本の紹介 情報交換会	23

(2) 浜田市教育委員会主催の主な研修会の概要

① 市学校図書館活用教育研修会

8月4日(木) 14:00～16:00

講義:ワークショップ:「学校図書館を活用した探究的な学習を構想する」(ハイブリッド)

講師:竹田市教育委員会 指導主事 榎川 亨 氏



(研修の様子)

② 学校司書連絡会

第1回4月13日(水)…学校図書館の役割について基礎的な知識を学び、今年度のめあてを決めた。

第2回7月21日(木) 22日(金) 27日(水) 28日(木)

…調べる学習応援講座で調べ学習におけるレファレンスを実践した。

第3回10月25日(火)…第9回浜田市調べる学習コンクール予備審査会小学校低学年・中学年・高学年・中学校の4部門に分かれて審査を行った。

第4回2月16日(木)…おすすめの本を紹介した。その後、情報交換会を実施した。

③ 調べる学習についての研修会

6月8日(火) 15:00～16:00 中央図書館多目的室

講義・ワークショップ:「課題の設定 どうやって？」

思考ツールを使って課題の設定を行う方法を学び、実践できるように体験した。

講師:浜田市教育委員会 学力向上推進室指導主事 植田 さゆり

④ 出前授業

学力向上推進室指導主事が学校図書館活用教育の校内研修を行った
り、モデル授業を行ったりした。

- | | |
|-----------|--|
| 4月18日(月) | 三隅小学校 5・6年生 学級活動
「年鑑を使った学校図書館オリエンテーション」 |
| 4月22日(金) | 三隅小学校 3・4年生 学級活動
「学校図書館オリエンテーション(図書館クイズ)」 |
| 4月25日(月) | 岡見小学校 教職員研修
「学校図書館活用教育について」 |
| 5月9日(月) | 金城中学校 教職員研修
「授業の計画と構想」 |
| 5月23日(火) | 三隅小学校 1・2年生 学活
「学校図書館オリエンテーション(読み聞かせ・本のなかま)」 |
| 6月6日(月) | 松原小学校 教職員研修
「学校図書館活用教育について」 |
| 6月8日(木) | 松原小学校 5年生 社会
「年鑑を使おう～暮らしを支える食料生産～」 |
| 6月27日(月) | 岡見小学校 1年生 国語
「年鑑を使おう(さくいん)～やまあらし～」 |
| 6月28日(火) | 雲城小学校 5年生 社会
「年鑑を使おう1～水産業のさかんな地域」 |
| 7月1日(金) | 岡見小学校 1年生 国語
「動物のひみつについて調べよう」
第四中学校 国語
「弁論文を書こう～課題の設定～」 |
| 7月4日(月) | 雲城小学校 5年生 社会
「年鑑を使おう2～水産業のさかんな地域～」 |
| 7月8日(金) | 松原小学校 3年生 国語
「百科事典を使おう」 |
| 7月11日(月) | 松原小学校 3年生 国語
「読書感想文の書き方」 |
| 9月13日(火) | 今福小学校 5・6年生 社会・国語
「年鑑を使おう」「読書クイズ」 |
| 10月5日(水) | 松原小学校 3年生 総合的な学習の時間
「見学新聞を作ろう～情報の整理・分析～」 |
| 10月19日(水) | 国府小学校 1年生 生活科
「年鑑の使い方～さくいんでしらべよう～」 |

- 11月11日(金) 14日(月) 16日(水) 17日(木) 21日(月)
 22日(火) 25日(金) 12月9日(金) 12日(月) 13日(火)
 国府小学校4年生 国語
 「ふるさとの食を伝えよう
 ～探究的な学習のしかた～」
- 12月9日(金) 今福小学校3年生 国語
 「百科事典の使い方」
- 12月14日(水) 雲城小学校4年生 音楽
 「百科事典を使って日本の楽器を調べよう」
- 1月13日(金) 市教頭会 研修会
 「浜田市における学校図書館活用教育」

3 事業評価

- 学校司書や司書教諭、学校図書館担当者が研修したことを活かし幅広いジャンルの本の紹介や館内掲示に取り組み、児童・生徒の読書生活を啓発し、読書習慣が身に付くように努めることによって読書センター機能の充実を図った。今年度の年間一人当たりの貸出冊数は(令和5年2月1日時点の学校図書館利用状況調査結果より)、小学校77冊、中学校17冊である。前年度より少し減少しているが、「令和2年度学校図書館の現状に関する調査」の全国平均(小学校49.0冊、中学校9.5冊)と比べると継続して高い数値(表1参照)を保っている。また、一人当たり100冊以上の貸出のある小学校、一人当たり30冊以上の貸出のある中学校が約三分の一あった。

令和4年度全国学力・学習状況調査結果(表2参照)から、小学校6年生の結果を国や県と比べると、30分以上読書する児童の割合が低く、不読率がやや高い。中学校3年生では、国・県より30分以上読書する児童の割合が高く、不読率が低い。「読書が好きですか」という質問についても中学校の意識が高かった。

今年度の研修では、読書に関するものがあまりなかったため、来年度は、児童・生徒の読書生活を豊かにするための研修を計画していきたい。また、「学校図書館支援センターだより」でも読書活動についての取組を取り上げ、推進していきたい。

〈表1 小・中学校 貸出冊数の推移〉

	H21	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	32	66	75	82	88	89	87	77
中学校	7	15	18	17	18	20	17	17

(浜田市学校図書館利用状況調査(2月時点))

〈表2 読書に関する意識（小学校6年・中学校3年）〉

	小学校6年			中学校3年		
	市	県	国	市	県	国
平日30分以上読書をする割合	28.8%	31.3%	36.4%	28.0%	26.0%	27.5%
不読率（全く本を読まない割合）	35.0%	27.5%	26.3%	27.5%	34.7%	39.0%
読書が好き（肯定的な回答の割合）	62.4%	66.4%	73.1%	70.4%	66.3%	68.2%

〈令和4年度全国学力・学習状況調査〉

- 新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を通して、課題を解決するために必要な能力を育成することも求められている。学校図書館には、この能力を育むための授業を支える機能がある。

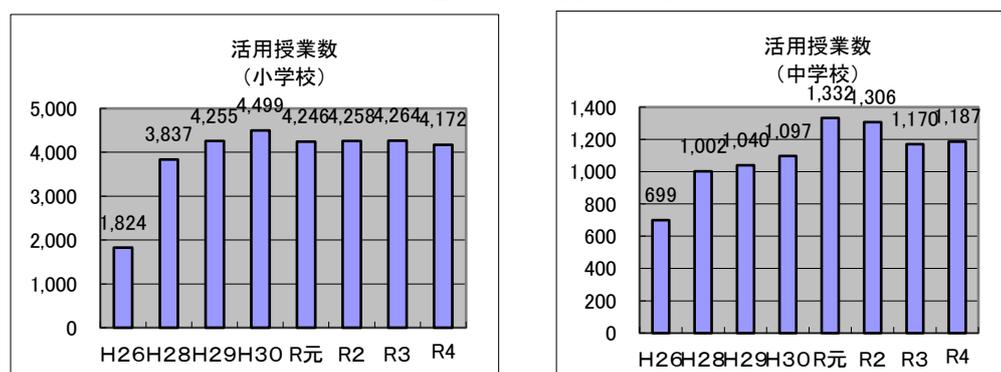
今年度は、学習センター・情報センター機能を充実させるための研修として図書館活用教育の授業においてデジタルとアナログを効果的に使う研修が多かった。学校司書がデジタルとアナログを効果的に活用する授業の支援を行うことで、情報センターとしての機能が充実し始めている。

下のグラフは、学校図書館を活用した授業回数の推移である。小学校では平成29年度からは毎年度4000回以上、中学校では平成28年度から毎年度1000回以上、図書館を活用する授業が行われている。

また、今年度は出前授業を8校で30回、教頭会研修会で1回行った。出前授業前に教員や学校司書と授業について入念に打ち合わせすることによって、資料の選択や準備、授業の方法、学校司書との連携等について理解され、自ら実践されるようになってきた。また、出前授業を他の教員も見学され、図書館活用教育の授業について周知する機会ともなった。今年度は、市の教頭会で「浜田市における学校図書館教育について」の研修を行ったことで、学校図書館の環境整備が進み、学校図書館活用教育が組織的に推進されはじめてきたと感じている。

- 司書教諭や学校司書の実践力を高め、学校図書館活用教育を推進していくためには、本事業の取組は効果があったと考える。

浜田市学校図書館利用状況調査(2月時点)より



(事業名) 第9回 浜田市図書館を使った調べる学習コンクール

1 事業目的

- 図書館利用の促進と調べる学習の普及を促進する。
- 学校図書館・公共図書館の資料やインターネットなどの様々な情報の活用や体験活動を行う「調べる学習」を通じて、子どもたちが自ら考え、判断し、表現する力を育み、「学ぶ楽しさ」や「知る喜び」を実感する機会を創出する。また、その取組の中で、各学校図書館、公共図書館での調べ方を体得し、有効に活用しながら課題を解決する力を養う。
- 応募された作品を評価することで、司書教諭や学校図書館担当者、学校司書の報活用力、レファレンス力等、図書館活用の指導力を高める。

2 事業実績

(1) 開催日時・場所

- 5月6日(金)校長会及び関係諸団体への広報開始
- 6月8日(水)調べる学習研修会 : 中央図書館
(講師 植田さゆり 浜田市教育委員会学力向上推進室指導主事)
- 7月21日(木)調べる学習応援講座: 中央図書館 (経験者) 児童7名保護者3名
調べる学習応援講座: 中央図書館 (初心者) 児童4名保護者4名
- 7月22日(金)調べる学習応援講座: 中央図書館 (初心者) 児童9名保護者7名
- 7月26日(火)調べる学習応援講座: 中央図書館 (初心者) 児童9名保護者7名
調べる学習応援講座: 中央図書館 (初心者) 児童5名保護者5名
- 7月27日(水)調べる学習応援講座: 金城図書館 児童5名保護者4名
- 7月29日(金)調べる学習応援講座: 金城図書館 児童6名保護者5名
- 7月27日(水)調べる学習応援講座: 旭図書館 児童5名保護者5名
- 7月29日(金)調べる学習応援講座: 旭図書館 児童5名保護者5名
- 7月28日(木)調べる学習応援講座: 弥栄図書館 児童3名保護者1名
- 8月2日(火)調べる学習応援講座: 弥栄図書館 児童3名保護者1名
- 7月28日(木)調べる学習応援講座: 三隅図書館 児童7名保護者2名
- 8月2日(火)調べる学習応援講座: 三隅図書館 児童7名保護者2名
- 8月3日(水)調べる学習応援講座支援: 国府小 児童2名
- 8月17日(水)調べる学習応援講座支援: 国府小 児童2名
- 10月7日(金)作品募集開始(中央図書館)作品受付
- 10月14日(金)作品提出締め切り(中央図書館)
- 10月19日(水)作品整理・予備審査(中央図書館)
- 10月25日(火)二次審査会(中央図書館) 9:10~12:10 13:00~16:00
- 11月1日(火)最終審査会(中央図書館) 13:30~16:30
- 11月8日(火)全国推薦作品一覧(16点)を図書館振興財団に報告
- 11月11日(金)全国推薦作品の発送 ※11月16日必着
- 12月15日(木)表彰式(浜田市中央図書館) 15:30~16:30

○1月11日(水)全国審査結果発表

(2) 応募作品総数 ※ () 内は令和3年度実績

		一般部門	自由部門	応募数	応募総数(校内審査)	応募人数
小学校	低学年	26	6	32 (46)	277 (249)	282 (294)
	中学年	28	8	36 (54)	426 (493)	429 (489)
	高学年	34	7	41 (47)	380 (428)	395 (413)
中学校		47	6	53 (44)	533 (441)	552 (453)
合計		135	27	162(191)	1,616(1,611)	1,658(1,649)

(3) 審査結果

《全国コンクール推薦作品と全国コンクール結果》

部門	学校名・学年	名前	題名	全国結果
低学年の部	三階小1年	岡本 靖生	おどろき！？ごみむし	佳作
	松原小2年	小田 宗祐	ゼロハンテープいろいろなひみつがあるぞ！！	佳作
	石見小2年	村上 晴哉	ぼくがひとめぼれしたハエトリグサのふしぎ	佳作
	長浜小2年	田中 奏志	かちたいシリーズパート2 「れいわの武将になるためには」	佳作
中学年の部	石見小3年	水野 響花	とうもろこしは世界のヒーロー	佳作
	三階小3年	岡本 剛	神様ヘルプミー ～コロナをたおせるか？～	佳作
	三階小4年	佐藤あさひ	イライラするしくみ	佳作
	旭小4年	内田 智貴	お金は旅をしている	佳作
高学年の部	松原小5年	金崎 結子	未来に向けて！できること	佳作
	旭小5年	福富 彩子	知ってるかっぱのひみつ	佳作
	弥栄小6年	竹岡清史郎	ナスカの地上絵 ～ナスカから始まる宇宙のひみつ～	佳作
	岡見小6年	植野 桜	私が花粉症にならない方法	佳作
中学校の部	旭中1年	勝手 芽利	絵の魅力って何だろう？	奨励賞
	旭中1年	吉野 惺哉	雷は何者？	佳作
	三中2年	岡本 萌絵	釣ったど～	佳作
	旭中2年	大野 愛菜	利き手はどうやって決まるの？	優良賞

地域コンクール開催団体は151自治体(前回142団体)となり、今年度の応募総数は113,451点(前は106,566点)であった。今年度、浜田市の推薦作品からは、優良賞1点、奨励賞1点が選出された。

3 事業評価

応募総数が昨年度の1,611点から1,616点とわずかであるが増加した。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、施設見学、専門家へのインタビュー等が難しい状況ではあったが、参加者はできるところから少しずつ取り組みはじめていた。全学年で取り組んでいる中学校が増えてきた。小学校から継続して「調べる学習コンクール」に応募している生徒がいることから、取り組みやすくなってきているのではないかと考える。浜田市では調べる学習が定着してきている。

また、全体的に作品のレベルが向上してきた。どの作品もフラワーチャート等の思考ツールを利用して課題を設定したり、アバターを使って自分の考えを豊かに表現したり、テーマにも工夫がみられたりしている。今年度は、調べ学習に春休みから取り組んでいた下記の生徒が全国コンクールで好成績をおさめた。

優良賞 旭中学校 2年 大野 愛菜

奨励賞 旭中学校 1年 勝手 芽利

今後も調べる学習をとおして身につけたい力を児童・生徒につけるために支援をしていきたい。

今年度はまちづくり社会教育課と連携して応援講座に取り組むことができなかつたため、学校司書が研修を兼ねて応援講座の支援を行った。初めて応援講座を経験した学校司書にとって、レファレンスの仕方を学ぶ実践的な研修となりよかった。今年度も全市立図書館で応援講座を開催し、1つの学校で応援講座支援を行うことができた。応募者が多くキャンセル待ちの方がいたので応援講座の回数を増やし補った。児童や保護者のニーズが増えてきたことを考えると、浜田市での調べ学習の浸透を感じる。

今後も、調べる学習を通して、子どもたちが自ら考え、判断し、表現する力を育み、「学ぶ楽しさ」や「知る喜び」を時間できるように、図書館利用と調べる学習の普及をさらに図っていきたい。



(応援講座の様子：中央図書館)



(応援講座の様子：金城図書館)

(事業名) 中学校英語検定 3 級無料化事業

1 事業目的

浜田市立中学校に在籍する生徒が、自身の英語力確認の機会とするとともに、目標に向かって計画的に学習する力や、英語をはじめとする学習意欲の向上を図る。

2 事業実績

(1) 対象

浜田市立中学校に在籍し、実用英語技能検定 3 級（公益財団法人 日本英語検定協会）（以下「英語検定 3 級」という。）を受検する中学生（年に 1 回に限る。）

(2) 受検料の支払い方法

浜田市から申請者（各中学校長）へ資金前渡で支払う。

(3) 事業概要

- ① 生徒・保護者への周知
全 3 回の受検申込時期前に、全生徒及び教職員にチラシ配付
- ② 学校長から資金前渡請求書の提出
- ③ 浜田市から学校への資金前渡
- ④ 学校から英検協会への申込と払込
- ⑤ 学校長から資金前渡精算調書の提出

3 事業評価

○ 市内中学生の英語検定 3 級の受検結果は以下のとおりである。

年度	H30	R1	R2	R3	R4
延べ受検者数	(合格者のみ申請の為不明)		168	169	136
合格者数	93	102	117	131	100
中 3 生徒に占める割合	20.4%	23.3%	29.9%	34.7%	25.5%
受検者の合格率	(合格者のみ申請の為不明)		69.6%	77.5%	73.5%

○ 昨年度より受検者数等は減少したが、合格者のみの補助であった令和元年度以前よりも、合格者の中 3 生徒に占める割合は高かった。また、受検者の合格率は 73.5%と、令和 3 年度に次ぐ合格率の高さだった。

○ 学校の中には、教師から働きかけ、3 年生全員で受検をする学校もあった。その学校では、週末課題として英検に向けた家庭学習の課題を出すなど、無料化事業を活かした家庭学習への働きかけも行っていた。また、無料化事業をきっかけに受検して不合格だった生徒が、再度自己負担で挑戦して合格した例も多くみられた。

○ 以上のことから、受検料の補助が、生徒の挑戦意欲の高揚及び英語力の向上に関与していることが窺える。今後はさらに事業の周知を図り、生徒の目標に向かって計画的に学習する力や学習意欲向上を目指す。

総括（評価の一視点として）

「学力育成総合対策事業」の大きなねらいは、「教員の授業力向上」である。教員が、指導力や力量を向上させ、日々の授業や児童生徒との学級づくりに生き生きと取り組んでいくこと、そして、日々の授業改善が進むことで、児童生徒に質の高い教育を行うことができると思う。

このことにより、児童生徒の「学びに向かう力」が向上し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」等を育てることになる。その結果として、学力・学習状況調査等の結果にも現れてくることを期待する。

つまり、日々の「授業改善」を目指すことが大切なのである。このために、浜田市における授業改善プランとして「子どもの声でつくる授業～主体的・対話的で深い学びに向けた質の高い授業を目指して～」を令和 3 年度から各学校へ示してきた。

その主な内容は

- ① 授業構想を立てる営み
 - ② 学習の見通しを立てる営み
 - ③ 自分の考えをもつ営み
 - ④ 考えを深め広げる営み
 - ⑤ まとめと振り返りの営み
 - ⑥ 「授業づくりシート」を活用した仮説検証型の授業研究の実施
 - ⑦ 授業づくりは学級集団づくりとセット
- で構成している。

そして、令和 4 年度は以下の 2 点を重点として取り組んだ。

- 令和 3 年度の課題として挙げられている「授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた」と思う子どもの育成を目指して【学習の見通しを立て振り返る】営みを強化する。
- 令和 3 年度までの成果として挙げられている「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と思う子どもの更なる育成を目指して【考えを深め、広げる】営みの充実を図る。

各学校においては、指導主事等による学校訪問指導で、この重点を踏まえた教科等の校内研究授業及び研究協議会を年 2 回以上実施した。また、市教育委員会が各事業で指定をした指定校は年 2 回以上の公開授業を実施するとともに、市内の教員は指定校の公開授業に 1 回以上参加をし、校外での授業改善への研修を行った。

重点とした 2 点についての成果と課題については、学校訪問指導等における研究授業や研究協議などから、学力向上推進室としては以下のように捉えている。

- 学習の見通しを立て振り返る営み
 - ・ 子どもの声を生かして「めあて」を設定する営みは推進されている。しかし、この営みのために時間を費やす傾向もみられる。問いを生み出すことや問いを連続させる工夫（仕掛け）が必要である。
 - ・ 振り返りについては、形式化や振り返りの時間が確保できずに不十分な内容となる傾向も認められる。限られた授業時間を有効に活用するための教師の指示や説明の在り方への配慮や振り返る内容の焦点化が必要である。
- 考えを深め、広げる営み
 - ・ ペアやグループによる話し合いは概ね取り組まれている。しかし、学級全体で考えを共有する場面では個人やグループの解決の披露に終わり、比較検討をしながら考えを広げ、深めることにまでは至っていないことが多い。

また、発表内容を教師が評価し、解説をしてしまう場面も多々認められる。出された考えを他の子が説明をしたり、比較検討をしながら話し合う内容を焦点化したりしていくことができるよう、教師が子どもたちの話し合いをコーディネートしていくことが大切である。

この成果と課題を受け、次年度は

- 授業の質が段階的に高まっていくように、子どもの学びの状況を踏まえながら、授業者と子どもが授業像を共有し、共に授業をつくる
 - 授業のゴールを子どもの姿で具体的に想定した授業を構想（単元、小単元、1 単位時間）
 - 子ども自身が問いを見いだしたり問いを連続させたりしていくための工夫
 - 子どもとのやり取りで解決方法（手段）まで見通しを立てる「めあて」の設定
 - 学級全体での個人やグループの考えを共有する場面における、子ども自身による比較検討や解決へ向かった話し合いを目指した教師のコーディネート
 - 仮説検証型の協議におけるより焦点化された協議
 - これらの取組を支えるための、子どもの姿の想定がより具体化された「授業づくりシート」の活用
- を大切にしたい授業改善プラン「子どもの声でつくる授業」による教師の授業力向上を図っていきたい。

また、全国学力・学習状況調査結果から明らかになっている浜田市の児童生徒の課題の解決に向かい「限られた時間の中で多くの情報の中から課題を解決するために必要な情報を収集して考え、根拠を明確にしながら筋道を立てて表現（文章、式、図、言葉による説明など）する力」を育成するために、「子どもの声でつくる授業」において、問題解決時間や問題解決量（時間と量）を踏まえた授業構想づくりについても取り組んでいく。

授業改善をはじめとした授業づくりは、学級集団づくりと密接に関連している。このことについては、文部科学省も「協働的な学びの効果を高めるには、学級経営を充実し、児童生徒が違いを認めて協力し合える学級づくりを進めることが必要であり、学級活動で行われる合意形成の活動は、他の教科等での学習の質の向上にも有効であることを念頭に学級経営を充実することが考えられる」と指摘している。特別活動の方法原理である「なすことによって学ぶ」ことを念頭に学級経営が充実していくような働きかけも行っていきたい。

資 料

令和4年度授業改善方策

【子どもがつくる授業～「主体的・対話的で深い学び」
に向けた質の高い授業を目指して～】

令和4年度 子どもの声でつくる授業

～「主体的・対話的で深い学び」に向けた質の高い授業を目指して～

浜田市教育委員会 学力向上推進室

1 基本的な考え

(1) 令和3年度までの取組から

平成26年度から7つの質問項目により、授業改善の状況について追跡調査をしてきた。令和3年度をもって前期の教育振興計画が終了することから、この7つの項目についての推移についてまとめた。

詳細は資料1に示しているが、概要は以下のとおりである。

H26年度とR3年度の「当てはまる」と回答した児童生徒の割合について

質問項目		H26	R3	伸び率	
①	授業の中で目標（ <u>めあて・ねらい</u> ）が示されていると思う	小	33.2	53.4③	1.6
		中	24.2	58.4	2.4
②	授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う	小	18.8	47.4	2.5①
		中	15.1	55.3	3.7①
③	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う	小	41.2	61.1①	1.5
		中	35.5	62.0②	1.7
④	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う (この項目のみ H28 年度より調査開始)	小	30.2	27.0	0.9
		中	18.3	46.9	2.6
⑤	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う	小	44.4	57.4②	1.3
		中	33.4	64.8①	1.9
⑥	授業では、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	小	20.6	48.6	2.4②
		中	16.7	59.6③	3.6②
⑦	授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う	小	26.3	44.1	1.7③
		中	11.1	39.1	3.5③

上の表からは、次のことが見えてくる。

- 令和3年度の数値でポイントが高い項目は、小学校は【③61.1%、⑤57.4%、①53.4%】、中学校は【⑤64.8%、③62.0%、⑥59.6%】で、いずれも50%を超えている。
- 平成26年度と比較して伸び率が高い項目は、小学校は【②2.5倍、⑥2.4倍、⑦1.7倍】、中学校は【②3.7倍、⑥3.6倍、⑦3.5倍】で小中学校共に同じ項目・順位。
- ◎ 上記番号の質問項目は、令和3年度に「子どもの声でつくる授業」で重点として目指した、「学習の見通しを立てる営み」、「考えを深め、広げる営み」と合致しており、各学校における授業改善が「主体的・対話的で深い学び」（特に対話的な学び、深い学び）に向かって取り組まれていることがうかがえる。
- ▲ 小学校において、「④課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」のポイント及び伸び率が低い。また、中学校においても質問7項目の中では下から2番

目である。「①めあて・ねらいが示されている」は、児童生徒が課題に対する見通しを立て、自ら課題に取り組むことを目指して「めあて」を子どもと共に設定していくことを推進してきた。めあて（学習課題と言い換えてもよい）設定の質が問われているのではないかと考えている。学習課題を解決するための方法（手段）についてまで見通しを立てることができたとき、意欲をもって自分の力で課題を解決（自力解決）に向かうことができることを意識していきたい。

(2) 本年度の基本方針

令和4年度の浜田市教育方針では、「学力育成事業として、児童生徒自らが学びに向かっていくための『学びに向かう力』の育成を図りながら、国語教育を要とした読解力の育成や理数教育の充実に努めていく」こととしている。このことも踏まえながら、令和4年度は、令和3年度までの取組を受け、

- 課題として挙げられている「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいくと思う子どもの育成」を目指して【学習の見通しを立て振り返る】営みを強化する
- 成果として挙げられている【考えを深め、広げる】営みのさらなる充実を図る

ことを重点とし、引き続き全ての教科等（学校において重点教科等は決定可）において【子どもの声でつくる授業】を推進していくことで、「主体的・対話的で深い学び」に向けた質の高い授業を目指す。

したがって、教育委員会が指定をする各事業の実践校は、「子どもの声でつくる授業」に基づいた授業実践を公開することとする。また、浜田市内小中学校教員は、指定校の公開授業に年1回以上参加することとする。

- 学習の見通しを立て振り返る営み
 - 考えを深め、広げる営み
- 主語は教師ではなく「子ども」＝「子どもの声でつくる授業」**

上記の重点を実現していくために、以下の取組を行う。

- 授業のゴールを子どもの姿で具体的に想定し、授業を構想（単元、小単元、1単位時間）する
- 授業の質が段階的に高まっていくように、子どもの学びの状況を踏まえながら、授業者と子どもが授業像を共有し、共に授業をつくる
- 子どもとのやり取りで解決方法（手段）まで見通しを立てる「めあて」の設定
- 授業研究は、子どもの学びの状況（子どもが取り組んだ事実）を的確に見取り、その見取りを基に子どもの姿を出し合い共有し、その姿を根拠として授業の進め方について協議をする
- これらの取組を支えるために、「授業づくりシート」を活用する

このことに向かった授業改善状況については、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の

- 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

において、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合により学力向上推進室が考察をしていくことを基本とする。

2 本年度の取組の具体

(1) 授業構想を立てる営み【解説編 P1 参照】

小学校学習指導要領解説 総則編 P3（中学校も P3）

第1章 総説 1 改訂の経緯及び基本方針 (2) 改訂の基本方針

③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進では、次のように示している。

1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。

- 多くの授業では、1単位時間の中に「見直しを立てる」「個々に考える」「対話をする」「教師が学習語彙等を教える」「振り返りをする」などの場面が位置付けられている。
- しかし、これらの場面を全て重視した授業を行おうとすると、時間が足りなくなったり、それぞれの場面での学びが浅いまま次の場面に進んだりせざるを得なくなることも多々ある。
- 授業者は、1単位時間の中で、どの場面を重視して子ども達にどのような力を付けていこうとしているのか考えているはずである。このことは、「授業のゴールを子どもの姿で具体的に想定」することと同様であり、その時間の「ねらい（目標）」の裏返しである。
- したがって、その「ねらい（目標）」を達成するために、どの場面を重視するのか、単元や題材などの内容やまとまりの中で考えていくことが大切となる。
- 授業者が「ねらい（目標）」を明確にしておくことは、子どもとのやり取りを経ながら設定していく学習の見直し（解決の方法まで見通した「めあて」）が明確になることにつながる。このことにより、子ども達にとって振り返りの視点が明確になってくる。その結果、振り返りが充実し、自己の学びの成果・変容に気付いていくことにもつながっていく。

※ 単元を構想することについて、「初等教育資料 令和4年1月号」に「資質・能力を育成する国語科の 単元構想 子供の期待に応える授業づくりへの挑戦」が掲載されていたので【解説編 P2】で紹介している。国語科だけではなく他教科等においても参考になる。また、学習の見直しを立てる営みにもつながる内容となっている。ぜひ、確認を願う。

(2) 学習の見直しを立てる営み＝解決方法（手段）まで見直しを立てる「めあて」設定【解説編 P4 参照】

毎時間の授業において、子ども達が意欲をもって主体的に学んでいくためには、子ども達自身に授業の ゴール（何を解決するのか：その授業の目的）やそのゴールに向か

ってどのように学んでいくのか（学習活動及び解決に向かうための方法（手段））が明らかになっていることが必要である。

このことを意識した実践は、令和3年度までも行われてきたが、解決方法（手段）についてまで見通しを立てる実践については、課題があったと学力向上推進室では捉えている。このことに向かった取組を意識し、「めあて」質の向上を目指したい。

なお、見通しを立てる段階は単元全体、小単元等にもある。このことも意識し、子ども達が自らの学びを俯瞰しながら取り組んでいくことができるようにしていくことも必要である。

① 「めあて」の定義（浜田市教育委員会における定義）

授業の中での子どもとのやり取りを経ながら【「学習活動」、「その学習の目的」、「解決に至るための方法（手立て）」】を含んだものとし、子どもの言葉（立場）で作りあげたもの。

例： 円の面積を求めるために【活動の目的】、長方形や平行四辺形に変形しながら【解決に至るための方法（手立て）】、面積を求める方法を考えよう【学習活動】

② 定義の根拠、補足

○ 課題解決に向かった主体的な学びを生み出す第一歩として極めて重要である。解決の目的や手立てについて見通しが立っていれば、意欲をもって自ら学んでいくことができる。

意欲があっても、やり方（解決へ至るための方法）が分からなければ解決へ向かえない。

○ 子どもが授業の主体者であることを考えると、授業者が「めあて」を一方向的に提示することには疑問がある。子どもとのやり取りの中で生じた「はてな？」「おかしいぞ？」「〇〇したい」等の発想（言葉）から「めあて」をつくりあげていくことが必要。

○ 文言の中に学習活動、目的、方法の全てが含まれていなくても、「めあて」設定前後のやりとりで、これらへの手掛かりが含まれていれば、子ども達は具体的な見通しをもって課題解決に向かえる。展開によっては、授業の中盤に「めあて」が設定される場合もある。

○ 学習集団としての「めあて」設定後、複数の解決への手立てが考えられる場合は、個々に応じた「めあて」を子ども達が考えていることもあることは意識しておく必要がある。

③ 「めあて」設定の具体例【解説編 P4 参照】

(3) 自分の考えをもつ営み【解説編 P6 参照】

○ 自分の考えを一つはもって話し合いの場に参加させたい。

○ 課題を解決するために必要な情報を見付け、整理して考える。そして、相手に分かりやすい表現で説明（表現）をするための取組を行う。別の言い方をすれば、課題を解決していくために、目的をもって読む（解決のための情報を見付ける）力を

育てる 営みを大切にします。

- 考えが持ちにくいときの手立てを子ども達に指導しておき、自分に合った方法で考えることができるようにしておく。【解説編 P7 参照】
- 理由・根拠を大切にし、このことを踏まえて解決について記述する習慣が身に付くようにする。
- 自力解決の時間は、必ずしも問題を解決済みにする時間ではないとの子ども達との共通理解の下、「分からない」「途中まで」「新たな疑問」を認め、話し合いの場面も含めて授業像を共有することも必要。

(4) 考えを深め広げる営み＝ゴールを明らかにした話し合いの実現【解説編 P7 参照】

- 何のために話し合いを行うのか、話し合いのゴールを明らかにしてから活動に入る。
- 話しっぱなし、聞きっぱなしの時間とならないように、「話し手の考えが理解できている」、「聞き手に自分の考えが理解してもらえるように分かりやすく話すことができる」ことを目指した話し合いとする。
- 話し手に対して、「〇〇を見て（見せながら）」「ここまでは分かった？」等、自己の考えを分かりやすく伝えたり、聞いてもらえるように促したりする指導を行う。
- 聞き手に対して、「なぜ」「分からない」「もう一度」「なるほど」といった声が出るような話し合いの実現を目指すように指導する。
- 話し手、聞き手への指導については、日々の授業の中で取組のよさを評価しながら、子ども自身が意識できるようにする。
- 協調学習の「エキスパート活動」では、上記のような取組をしている子どもが多い。子ども達は、話し合いのゴールを明確に理解している。しかも、次の「ジグソー活動」において、自分たちが話し合った解決を説明しなければならないし、質問が出れば答えなくてはならないからである。子どもを追い込んだ状況をつくることも必要。【解説編 P8 参照】
- 授業者には次のような配慮（例）が必要となる。
 - ・ 子ども対教師の1対1の関係とならないように、子どもの考えを「つなぐ」こと。
 - ・ 子どもが自分の言葉で語る授業を大切にします。答えだけでなく、どうしてそうなったのか説明できて本当に理解したことになる。発言者ではなく、他の子どもに説明を求める（確認する）ことも考えを「つなぐ」ことにつながる。
 - ・ 教師が説明しすぎない。教師が話す時間を極力短くする。子どもの話し合いや思考の邪魔をしない。周囲の子が説明できる状況であるにもかかわらず教師が説明をしている場面が多いことも自覚する。
- 話し合いにおける教師の問いかけ例（発言等を受けての学級全体への問いかけ）
 - ・ 考えを広げ、深める
考えたところまでの発言を受け、続きを他の子どもが発言するように働きかける。「同じです」と言う子に「同じでもいいから言ってごらん」と発言を促す。「だ

って…」 「でも…」 と自分の考えと比較しながら話すことができるようにしていく。

- ・ **表現の置き換え・関連付け**

図のみ：「〇〇さんは、どう考えてこの図をかいたのかな？」、式のみ：「〇〇さんの式は何を意味しているのかな？ どう考えたのかな？」、言葉のみ：「〇〇さんの説明を図で表すと？」

- ・ **誤答への共感の場の設定**：「〇〇さんは、どう考えてその式や考えを出したのかな？」

(5) まとめと振り返りの営み

- めあてと振り返りはセットとして取り組む必要がある。子ども達は、めあてに沿って自己の学びを行っているからである。そして、その学びの過程においても自己の考えや他者の考えを基に、自己の解決への手立ても含めて振り返っているからである。
- 授業の終末における振り返りは、自己の学習活動を振り返って次につなげる重要な取組である。振り返りを工夫・充実することで、次のような取組も生まれる。
 - ・ 次時の学習内容について把握することができ、意欲化につながる。この時点で次時のめあてを個々に設定しておくことも可能となり、次時のめあて設定をコンパクトに行うことも可能となる。
 - ・ 授業と関連付けた家庭学習の取組が可能となる。家庭学習の成果から次時の授業をスタートすることも可能となり、思考時間確保にもつながる。
- 振り返りの仕方によっては、学習への意欲だけでなく、達成感や仲間の学びに貢献したとの自己有用感も味わえる。ねらい（めあて）に関連した振り返りや自他の学びに向かう力に対する振り返りなど、振り返る視点は子どもの学びの実態や学習内容、教師の意図によって柔軟に設定していく必要がある。
- まともにも関連するが、教科等特有の学習語彙を使って書くように指導していくことも大切。
- 毎時間の振り返りを記録として蓄積しておくことで、単元終了時の振り返りで自己の学びを価値付け、成長を実感することができる。また、重点単元であればキャリア・パスポートへの取組に反映させていくこともできる。
- **振り返りの視点・問いかけ例**：「どの考えがよりよいと思うか。なぜそう思うか」「みんなの考えを聞いて、初めの自分の考えと比較して」「これまで学習したことの中で何が使えたか」「今日は何をして、何が分かったか」「身の回りのことで、今日の学習につながりのあることはないか」等。

(6) 「授業づくりシート」を活用した授業研究の実施【詳細は解説編P10参照】

子どもの学びの状況（子どもがどう取り組んだか）を的確に見取り、その見取りを基に子どもの姿を出し合い共有し、その姿を根拠として授業の進め方について協議をしていく。この取組を支えるために、「授業づくりシート」を活用する。以下、時系列で取組概要を示しておく。

1 公開授業前：「授業づくりシート」への授業者記入及び配付

- ① 授業者は、その時間の目標やねらいから、授業のゴールにおいて発揮される子どもの姿を、発言・つぶやき・記述等として「授業のゴールにおける子どもの姿」欄に記入する。
- ② 授業者は、上記の姿に迫るために重要となる子どもの学びの場面を「期待する姿の観点」として1つか2つ程度設定するとともに、実現したいと考えている具体的な子どもの学びの姿を「想定」欄に記入する。
- ③ 授業者は、記入した「授業づくりシート」を公開授業及び授業研究参加者に配付する。可能であれば研究主任等は、配付した授業づくりシートを基に説明する機会を設定する。

2 公開授業時

- 参加者は、「期待する姿の観点」及び「想定」欄に記入された子どもの学びの姿を参考にして、授業場面で発揮された子どもの学びの姿を見取り、「実際の姿」欄に記入する。
- 参加者は、一人につき一観点を見取るようにする。したがって、研究主任等は、「期待する観点」が2つ以上ある場合、一人一観点の見取りが可能となるように、予めグループ分けをしておく。

3 授業研究会における協議

① 協議 1

- 事前にグループ分けされた者で、見取った子どもの姿を出し合い、共有する。
- 協議1では、見取った子どもの姿を具体的に出し合い共有するだけとする。授業の進め方等についての意見交換は、次の協議2で実施することに留意する。

② 協議 2

- ①で挙げられた子どもの姿を根拠にして授業の進め方について協議を進め、成果と課題を明らかにする。
- 成果については、授業者のどのような取組が成果に結びついたのかを明らかにする。課題については、その改善策を示すことができるように協議を進める。
- ※ グループ分けを行い、それぞれのグループで観点を一つに絞った協議を行うのは、授業で発揮された子どもの姿の具体を十分に出し合い、改善策まで協議を進めるためである。

③ 全体協議

- 各グループでの協議について発表を行い、共有する。その際、改善策について提案をする。
- グループから提案のあった改善策について、全体で再協議を行い、より具体的な改善策案となるようにする。

④ 授業者の振り返り

- 子どもの学びの事実や協議を踏まえて、次の授業づくりに生かせそうな気付きを発表する。

⑤ 参加者の振り返り

- 自分の次の授業構想や具体的な子どもの支援についての学び（気付き）について、予め用意されたワークシート等に記入し、提出する。
- 研究主任等は、提出されたワークシート等を活用する取組を行う。

(7) 家庭学習について【解説編 P12 照】

- 家庭学習の充実及びメディア接触時間については、浜田市の課題である。本年度の小中連携教育においても各中学校ブロックの重点として取組を推進することとしている。具体的には、授業と関連させた家庭学習や見通しをもち（時間設定も含む）振り返る家庭学習について取り組んでいく。
- 島根県教育委員会では「しまねの学力育成推進プラン」（令和3年度～令和6年度）の取組として、①「授業の質の充実」、②「家庭学習の充実」、③「地域に関わる学習の充実」の3つを柱として取り組むこととしている。家庭学習についての具体的な取組は、【解説編 P10 参照】

(8) 授業づくりは学級集団づくりとセット＝学級自治、学級活動(1)の充実【解説編 P12 参照】

「考えをもち、深め、広げる」学び（協働的な学び）の質を高めるには、学級経営を充実し、子ども達が違いを認めて協力し合える学級づくりを進めていくことが必要。学級活動で行われる合意形成の活動は、他の教科等での学習の質の向上にも有効であることを念頭に学級づくりを行うことが大切。

消防団車庫統合について

【令和 4 年度完了】

1 井野分団（1、2 班）車庫統合 新築

- (1) 場 所 三隅町井野（井野まちづくりセンター付近）
- (2) 建 物 木造平屋 60.00 m²（待機室、トイレ）
- (3) 整備費 26,019,400 円（建物、ホース乾燥塔、駐車場、設計等）
- (4) 車 両 小型動力ポンプ付軽積載車 1 台配備（既存車両）
小型動力ポンプ付普通積載車 1 台配備（既存車両）

2 旧杵束分団 2 班車庫解体

- (1) 場 所 弥栄町木都賀（西の郷地内）
- (2) 建 物 木造平屋 27.59 m²
- (3) 解体費 2,255,000 円（乾燥塔含む）

3 旧杵束分団 3、4 班車庫無償譲渡

- (1) 3 班車庫 野坂自治会へ無償譲渡
- (2) 4 班車庫 仲三自治会へ無償譲渡

【令和 5 年度計画】

1 三隅分団 4 班車庫移転 増築

- (1) 場 所 三隅町三隅（岡崎コミュニティー消防センター敷地内）
- (2) 建 物 ガレッジタイプ 約 20 m²（予定）
- (3) 設 備 ホース乾燥塔
- (4) 車 両 小型動力ポンプ付軽積載車 1 台配備（既存車両）

2 旧車庫解体

- (1) 井野分団 1 班 解体予定
- (2) 井野分団 2 班 解体予定

【裏面へ続く】

3 三保分団（1～5班）車庫統合 新築に伴う設計

- (1) 統合年度 令和6年度（予定）
- (2) 場 所 三隅町湊浦（三保まちづくりセンター敷地内）予定
- (3) 建 物 木造平屋 面積（現在調整中）
- (4) 車 両 小型動力ポンプ付普通積載車1台（既存車両）
小型動力ポンプ付軽積載車2台（既存車両）

以上

令和5年度 学校別児童生徒数一覧表

1 小学校

令和5年5月1日 現在

学校名	令和5年度									令和4年度	増減
	種別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特	合計	合計	
原井小	児童数	(1) 33	(2) 31	(3) 24	39	(3) 27	29	9	192	190	2
	学級数	2	1	1	2	1	1	2	[2] 10	10	
雲雀丘小	児童数	13	7	(1) 7	(1) 8	7	(1) 12	3	57	50	7
	学級数	1	1	1		1	1	2	[2] 7	6	1
松原小	児童数	17	(1) 18	(1) 17	16	(3) 20	17	5	110	114	△ 4
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	[2] 8	7	1
石見小	児童数	(2) 42	(1) 53	(4) 47	(2) 59	(2) 51	(1) 74	12	338	358	△ 20
	学級数	2	2	2	2	2	3	3	[3] 16	16	
美川小	児童数	10	7	(1) 12	15	(1) 8	(1) 15	3	70	75	△ 5
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	[1] 7	7	
周布小	児童数	36	(5) 41	(2) 47	(3) 33	45	(2) 39	12	253	275	△ 22
	学級数	2	2	2	1	2	2	3	[3] 14	14	
長浜小	児童数	(1) 37	(1) 42	42	(2) 32	(2) 47	(1) 36	7	243	248	△ 5
	学級数	2	2	2	1	2	2	3	[3] 14	12	2
国府小	児童数	(2) 56	(3) 41	(6) 44	(4) 53	(2) 37	59	17	307	298	9
	学級数	2	2	2	2	2	2	4	[4] 16	16	
三階小	児童数	(1) 34	36	(2) 30	(5) 33	(1) 33	(1) 31	10	207	204	3
	学級数	2	2	1	1	1	1	3	[3] 11	10	1
雲城小	児童数	(3) 22	(2) 22	(3) 31	(1) 18	(4) 13	(1) 20	14	140	131	9
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	[2] 8	9	△ 1
今福小	児童数	6	(2) 6	7	(1) 4	5	9	3	40	41	△ 1
	学級数	1	1	1		1		2	[2] 6	6	
波佐小	児童数	1	3	4	1		2		11	13	△ 2
	学級数	1		1			1		3	3	
旭小	児童数	20	22	18	14	(2) 24	(2) 17	4	119	130	△ 11
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	[2] 8	8	
弥栄小	児童数	4	8	4	10	5	5		36	39	△ 3
	学級数	1	1	1		1			4	4	
三隅小	児童数	(1) 28	(1) 25	30	(1) 24	(1) 34	(2) 24	6	171	184	△ 13
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	[2] 8	8	
岡見小	児童数	8	8	7	(2) 5	7	10	2	47	51	△ 4
	学級数	1	1	1		1	1	2	[2] 7	7	
計	児童数	(11) 367	(18) 370	(23) 371	(22) 364	(21) 363	(12) 399	107	2,341	2,401	△ 60
	学級数	22	20	20	14	19	19	33	[33] 147	143	4

※()は特別支援学級に入る児童の外数 []は特別支援学級の学級の内数

※第1学年は30人・2学年は32人学級編制

※第3・4・5・6学年は35人学級編制

※事務職員未配置→波佐小

【参考】 標準学級数（文部科学省基準）・・・1クラス1～4年35人、5～6年40人
 実学級数（少人数学級編制）・・・1クラス1年30人、2年32人、3～6年35人

2 中学校

令和5年5月1日 現在

学校名	令和5年度						令和4年度	増減
	種別	1年	2年	3年	特	合計	合計	
第一中	生徒数	(6) 114	(4) 118	(4) 118	14	364	368	△ 4
	学級数	4	4	4	3	[3] 15	15	
第二中	生徒数	41	(2) 51	(1) 47	3	142	136	6
	学級数	2	2	2	2	[2] 8	7	1
第三中	生徒数	(4) 108	87	86	4	285	264	21
	学級数	4	3	3	2	[2] 12	11	1
第四中	生徒数		3	2		5	14	△ 9
	学級数		1	1		2	3	△ 1
浜田東中	生徒数	(4) 39	(2) 48	(3) 46	9	142	155	△ 13
	学級数	2	2	2	4	[4] 10	9	1
金城中	生徒数	24	(2) 35	(4) 31	6	96	103	△ 7
	学級数	1	1	1	1	[1] 4	5	△ 1
旭中	生徒数	(3) 24	(1) 15	(1) 18	5	62	57	5
	学級数	1	1	1	2	[2] 5	5	
弥栄中	生徒数	8	8	(1) 5	1	22	20	2
	学級数	1	1	1	1	[1] 4	4	
三隅中	生徒数	(4) 38	(2) 24	(3) 38	9	109	109	
	学級数	2	1	2	2	[2] 7	7	
計	生徒数	(21) 396	(13) 389	(17) 391	51	1,227	1,226	1
	学級数	17	16	17	17	[17] 67	66	1

※()は特別支援学級に入る生徒の外数 []は特別支援学級の学級の内数

※第1学年は35人、第2・3学年は38人学級編制(少人数学級編成)

【参考】 標準学級数(文部科学省基準)・・・1クラス1～3年40人
実学級数(少人数学級編制)・・・1クラス1年35人、2～3年38人

3 小・中学校全体

令和5年5月1日 現在

区分	児童生徒数	R4年度		増減	学級数	R4年度		増減
		学級数	増減			学級数	増減	
1_小学校	1_通常学級	2,234 人	2,284 人	△ 50 人	114 学級	111 学級	3 学級	
	2_特別支援学級	107 人	117 人	△ 10 人	33 学級	32 学級	1 学級	
	小計	2,341 人	2,401 人	△ 60 人	147 学級	143 学級	4 学級	
2_中学校	1_通常学級	1,176 人	1,179 人	△ 3 人	50 学級	49 学級	1 学級	
	2_特別支援学級	51 人	47 人	4 人	17 学級	17 学級	0 学級	
	小計	1,227 人	1,226 人	1 人	67 学級	66 学級	1 学級	
全体	1_通常学級	3,410 人	3,463 人	△ 53 人	164 学級	160 学級	4 学級	
	2_特別支援学級	158 人	164 人	△ 6 人	50 学級	49 学級	1 学級	
	合計	3,568 人	3,627 人	△ 59 人	214 学級	209 学級	5 学級	